

新しい世代

一九六一年一月一日発行（毎月一回）
昭和三十五年三月八日第

特別号 祖国の平和的統一のために
別冊付録 南北連邦制に関する文献集

増刊

1月号

金禮坤資料101

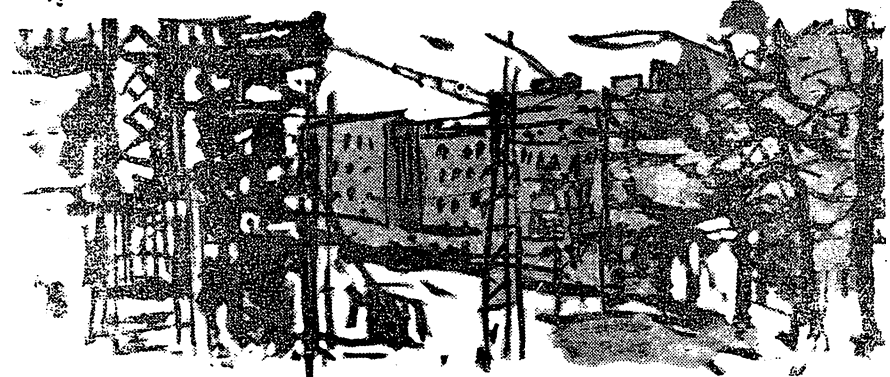
「新しい世代」誌連載講座

金禮坤の

国語講座 1961年1月号～1962年10月号

(朝鮮語講座)

1961年1月号	P33	まえがき	発音の勉強について
	P32	文字と発音	
		母音(その一)	
1961年2・3月号	P53	母音(その二)	
1961年4月号	P55	子音(その一)	
1961年5月号	P49	子音(その二)	
1961年6・7月号	P61	終声	
1961年8月号	P49	動詞の活用(その一)	
1961年9月号	P57	動詞の活用(その二)	
1961年10月号	P45	動詞の活用(その三)	
1961年11月号	P53	名詞の格(その一)	
1961年12月号	P51	名詞の格(その二)	
1962年1月号	P75	名詞の格(その三)	
1962年2月号	P65	形容詞(その一)	
1962年3月号	P53	形容詞(その二)	
1962年4月号	P95	動詞の連体形	
1962年5月号	P80	動詞の相	
1962年7・8月号	P67	動詞の接続形(その一)	
1962年9月号	P79	動詞の接続形(その二)	
1962年10月号	P61	動詞の接続形(その三)	



新しい世代 一月号 目次 (第二巻第一号)
 一九六一年をむかえて……河 秀 図 2

特集 祖国の平和的統一のために

民族の運命と南北連邦制……宋 枝 学 4
 南北連邦制と南朝鮮学生……南 日 龍 11
 目でみる南北連邦制提案内容……編集部編 8
 ソウル大学民族統一陣盟発起文……………15

朝鮮の平和統一をのぞむ

朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議第二期第八次会議に
 おける崔庸健委員長の報告、朝鮮の統一のための南北連邦
 制を支持する
 野坂参三 江田三郎 中島健蔵 平林たい子 太田 薫

ドル危機と南朝鮮経済……劉 一 孝 20
 朝鮮の自然資源……魚 塘 26
 浦里号事件……飛 揚 24

歳時記……………許 南 麒 34
 マンガ特集 モウがまんならない……………蔡 峻・全 哲 18

連載講座

国語講座……………金 礼 坤 33	朝鮮の文学……………安 宇 植 36	祖国めぐり(地理講座1)……………金 緑 陽 40	抗日義兵闘争(歴史講座9)……………東京朝鮮中高 学校社会科 50
-------------------	--------------------	---------------------------	-----------------------------------

乙 支 文 徳 将 軍 人物史物語1……………姜 在 彦 42
 朝鮮 史 話(1)……………裴 乘 斗 46
 不屈の闘士 抗日パルチザン 闘士の回想記……………林 春 秋 54

**朝鮮の平和的統一のため
の南北連邦制について**

別冊 付録

短 信……………60 読者のひろば……………62
 そうだんしつもんしつ……………64 編集後記……………64
 グラビア うるわしき祖国……………64 表紙 金 昌 徳
 カット 金 昌 徳・宋 潤 奎 ほか

国語講座

第一回

まえがき

これから、みなさんといつしよに国語、つまり朝鮮語の勉強をはじめることになりました。みなさんのなかにはもう国語の初歩をまなんでいてかんたんな文章なら、よみかきできる人もいます。そういう方は復習するという気持ちで、この講座をよんでいただきたいと思います。というのは、わたしは、日本で生まれ、日本でそだち、国語をぜんぜんしらない人を相手に、この講座をひらきたいと考えているからです。

この講座は、朝鮮語のイロハも知らない人を朝鮮語の達人にしあげようという、そんなおおそれたものではありません。朝鮮語のイロハも知らなかった人が、朝鮮語のイロハだけでも知っていただければけっこうで、そういうかるい気持ちでかきつづけるつもりです。ですから、みなさんもそういう心がまえでよんでいただきたいと思います。いままでいろんな理由で国語の勉強ができなかった人たちに、この講座が、国語を勉強するきっかけになれば、幸いです。わたしは、わたしたちの父や母が、祖父や祖母が、なにかあいだつかったことばをともまなぶよろこびをわかちあいたいだけなのです。そしてできればみじかい期間のうちに新聞や雑誌の簡単な文章ぐらい

は、辞書をひきひきしながらでも読めるようにまでもってゆきたい、これがわたしの最大の願いです。しかしこれは、わたしだけががんばってできるものではありません。みなさんにもがんばってもらわねばならないことです。

発音の勉強について

ところで日本語だけしか知らない人が、朝鮮語の勉強をしようとして、はじめにびっくりすることは、朝鮮語の発音のややこしさでしょう。朝鮮語を勉強するとき、朝鮮語の発音がむずかしいと感ずるでしょうが、反対に、朝鮮人が日本語の勉強をするとき、日本語の発音のむずかしさにおどろくのです。なれないことばの勉強は、多かれ少なかれややこしさがつきまとうものなのです。その証拠に、朝鮮語でそだった日本にいる朝鮮人の多くは朝鮮語的なナマリが日本語のすみずみにでているはずで、たとえば、日本語の「リング」を「ニンゴ」あるいは「インゴ」などと発音してしまうのです。

こんな笑い話がありました。わたしたちの父がふるさとをはなれて日本にわたってきて、まず、ありつく仕事といえば、土方でした。その土方をしていたある朝鮮人が打ってはならないところへクイをうちこもうとしたときです。日本人の監督さんに「バカノ」とどなれましたが、かれはやめるどころか力まかせにクイをうちこんでしまったのです。この人は監督さんにたいへんしかられたのですが、いっこうになっ

とくがゆきません。それはそのはず、この人は「バカノ」という日本語の単語を朝鮮語の「バガノ」という単語としてききとったからです。朝鮮語の「バガ」は「うちこめ」という意味なのです。

しかし、このなかには笑い話ではすまされない問題があります。というのは、朝鮮語には朝鮮語どくどくの発音のしかたがあり、日本語には日本語どくどくのそれがあって生まれおちてからの習慣が朝鮮人は朝鮮語風の日本人は日本語風の発音のしかたしかできないからです。ですから、朝鮮人が日本語の「バカ」を「バガ」としか発音できないし、ききとれないとしても、けっしておかしなことではないのです。恥にもなりません。（なぜ朝鮮人が日本語の「リング」を「ニンゴ」「バカ」を「バガ」としか発音できないのかという理由は、あとで説明します。）

わかい世代の朝鮮人に、としとった朝鮮人のこのような発音をきいて、笑う人もいられるでしょうが、そういう人が祖国にかえったとき、きみの朝鮮語はすこしへんだといわれるかもしれません。日本でそだった朝鮮人の朝鮮語が日本語風になるのもあたりまえです。同胞をあざけわらったり、同胞にあざけわられたりするようなことをなくすためにも、こういう理くつを知っておく必要はありましよう。

そういう理くつを知っているよりもっとよい方法は朝鮮語は朝鮮語らしく、日本語は日本語らしく発音することです。実際的にみて、その方が誤解をまねかずに相互の考えや意志の伝達がなめらかにすすめられ、それにもまして、自分の国のことばにたいして、また他国のことばにたいして、正当な敬意を表していることになるからです。そして、そのことは努力さえすれば不可能

なことではないのです。

朝鮮語の発音のむずかしさも、たんに实际的に、経験的にまなぶということだけではなしに、意識的に、合理的に、科学的にまなべば、とりのぞくことのできるものです。朝鮮人はやはり、朝鮮で暮らした方ははるかにしあわせなのですから、いずれみなさんも祖国に帰るでしょう。どなたも朝鮮語の発音がむずかしいから朝鮮語の勉強はいやだとはいえない身です。それで、まずわたしは朝鮮語の発音はどんなしくみでできているか、できるだけわかりやすく説明してみましよう。

文字と発音

母音(その一)

はじめに母音からはじめてみましょう。朝鮮語の母音は8つありますが、日本語には「アイウエオ」の5つしかありません。3つ多いわけですが、母音をみているかぎりでは、朝鮮語の方が日本語よりもはるかにむずかしいといえそうです。いいかえれば、母音の組織、母音の体系は、朝鮮語は日本語よりもはるかにこみいっているといえるのです。

どこの国のことばにも母音という音(音韻)のグループがあるのですが、母音とはいったいどういう音なのか。かんたんにいえば、「アイウエオ」のような音が母音だと思えば、それでいいのですが、少しかたくるしくいえば、くちむろのなかではく息が共鳴するときにおこる音です。くちむろはちようど、オルガンのパイプのようなはたらきをしています。

このばあい、はく息はのどをとってゆくとき声帯をふるませます。のどぼけに指をあてて「アー」と発音してみてください。ふるえがつたわってくるでしょう。

これが母音です。声帯の振動をともなう音を有声音といいます。が、母音は有声音なのです。くちむろのなかの舌の位置をいろいろかえると、共鳴のしかたがかわって、ね色のちがった母音がでできます。はじめに「イ」をだし、つづいて「ア」をだしてごらんください。そして、イア、イア、イア、イア、とくりかえしてごらんください。舌の位置のうつりかわりがわかるでしょう。朝鮮語には、ちがった母音がつぎのように8つあります。(1) ト [a]、(2) 丨 [i]、(3) ㅜ [u]、(4) ㅡ [ü]、(5) ㅓ [o]、(6) ㅗ [ö]、(7) ㅛ [e]、(8) ㅜ [æ]

(文字の順序は、説明のしやすいようにならべました。正書法にきだめられた順序はあとまわしにします。)

(1) ト [a] この母音は日本語のアとほとんどおなじです。ですから、この母音を身につけるためにとくべつ練習する必要はありません。

(2) 丨 [i] この母音も日本語のイとほとんどおなじです。朝鮮語では丨という母音は「歯」を意味しています。それに「しらみ」という意味もあります。

朝鮮文字では、この母音 [i] は丨とかき、たて棒一本でできているのですが、「歯」あるいは「しらみ」の単語をかくばあいは、丨のまえにㅇをおいてㅇのようにかきます。朝鮮語の正書法では、母音ではじまる音節ではかならずㅇがさきにかかれます。たとえば아이 [ai、アイ] (これは日本語の「愛」のように発音してください)とかき、「子ども」という意味です。

(3) ㅜ [u] この母音は日本語のウにちかい音ですがちがいます。ちょっと用心しなければな

りません。というのは、4番目の母音一 [ü] も日本人の耳には日本語のウのように聞こえるからです。つまり ㅜ [u] と一 [ü] との区別をはっきりしないのが、みなさんあるいは、日本人にとって、ふつうだと思います。

ここでまず、朝鮮語の ㅜ [u] と日本語のウとの区別をはっきりさせておく必要があります。

だいたい、関東にすんでいる日本人のウの発音は、くちびるがまるみをおびずにくちびるがつきでいていません。くちびるはたいらで、力がいっておらずたるんでいます。ところが、朝鮮語のㅜはちょっとくちびるに力をいれて、まるくしてまえにつきだせば(あのカッパのくちびるのようにつきだせば)朝鮮語のㅜという音がでできます。

日本語のウとくらべて朝鮮語の ㅜ [u] は、感覚的にいえば、非常にすんだあかるいね色です。日本の関西方言のウは、朝鮮語の ㅜ [u] ににています。

一番目の母音 ト [a] と ㅜ [u] をあわせると、「弟」という意味になります。単語をかくばあいは 아ㅜ [au、アウ] とかきます。音節のまえには音のないㅇがあるでしょう。単語全体としてのリズムはㅜの方に力がよけいかかっています。いいかえればㅜの方がたかいのです。

(4) ㅡ [ü] いよいよ、やっかいな ㅡ [ü] の発音ですが、ちょっと発音のしかたをおぼえらと、わけなくできる音です。その方法は、まず 丨 [i] をだしておいて、そのときのくちびるのかっこうをそのままのこし、舌の位置をうしろにひけばよいのです。ふつう 丨 [i] あるいはイを発音するときは、くちびるが横になって上くちびると下くち

びるのあいだがせばまっています。このくちびるのかっこうをそのままにして、舌の位置だけをうしろに後退させるといいのですが、それがむずかしくてできない人は、丨 [i] という母音をだして、親ゆびとひとさしゆびでくちびるのかっこうを固定してください。そして、舌をうしろにひいてください。舌をうしろにひけない人は、エンピツで舌をうしろにおしやるといいでしょう。すると朝鮮語の母音一 [ü] の音がでできます。

もうひとつの方法は、日本語のウを発音しておいて、親ゆびとひとさしゆびとでくちびるの両はしをおさえてひらくはればいいのです。

こうしてみると、日本語のウは朝鮮語の ㅜ [u] と ㅡ [ü] との中間の母音だということになります。みなさんが朝鮮語の ㅜ [u] も ㅡ [ü] もウに聞こえるのは、理由のないことではないのです。

はじめに 丨 [i] を発音し、つぎに ㅡ [ü] を発音してください。つぎに 丨、丨、とくりかえしてごらんください。舌の位置の前後運動があるだけです。

つぎに ㅜ、ㅜ、ㅜとくりかえしてごらんください。くちびるがまるくなったり、ひらくなったりくちびるの動きがあるだけでいいです。この練習をくりかえしていきすと、舌のうごき、くちびるのうごきがやわらかくなって、朝鮮語の ㅡ [ü] はらくにマスターできます。

ㅡ [ü] という母音は、音声学では、中舌音(なかじた音)といわれています。このような中舌音は、日本の東北方言に特徴的です。

(5) ㅓ [o] この母音は、日本語のオにちかい音ですが、日本語のオにくらべて、朝鮮語の ㅓ

「o」はくちびるにまるみがあり、まえにつきでている点でちがいます。ですから、日本人でもちょっとくちびると舌に力をいれてはつきりとオを発音すれば、朝鮮語の ㅓ [o] にちかい母音がだせるわけです。朝鮮語の ㅓ [o] の母音には、かずの <5> という意味があります。語調は <なるほど> という意味をふくめて <オーそうですか> というときのオーです。

(6) ㅗ [ö] ところで ㅗ [ö] にとりかかりましょう。

この朝鮮語の母音は、日本でそだったかたにはオのように聞こえ、ㅓ [o] と ㅗ [ö] との区別がつかないのです。感覚的には、ㅓは、あかるい感じのするはりのある音ですが、ㅗ [ö] はくらい、力のぬけたような音です。感覚的なちがいは主観的なものですから、このふたつの母音が、発音のし方のうえでどうちがうか、あきらかにしてみましよう。

まえにも説明したように、ㅓ [o] はくちびるにまるみがあって、それがまえにつきでているのですが、ㅗ [ö] の方は、ほんたにくちびるがひらく、左右にはなっています。ですから ㅓ [o] を発音して、親ゆびとひとさしゆびでくちびるのまるみをとってたいらにしてやれば、ㅗ [ö] の母音がでるわけです。この2つの母音の関係は、まえに説明した ㅜ [u] と ㅡ [ü] との関係とおなじなのです。そうすると、ㅗ [ö] と ㅡ [ü] とは本質的にはおなじような音色の母音だということになります。そうです、ㅗ [ö] も中舌音なのです。

では、ㅗ [ö] と ㅡ [ü] とがどうちがうかといえば、ㅗ [ö] の方は ㅡ [ü] よりも舌の位置がひくいのです。ですから、ㅡ [ü] の発音のできる人はいちど ㅡ [ü] の音をだしておいて、舌の位置をひくくす

▶ 国 語 講 座 ◀

ると ㅏ [ö] の音ができます。舌の位置をひくくするという事は、両くちびるのあいだのすきまを大きくしてやることです。ですから ㅏ [ö] をだすには、ㅡ [ü] をだしておいて口を大きくひらいてやればいいのです。

ㅡ [ü] を発音しておいて、口をちょっとひらけば ㅏ [ö] になります。ㅏ、ㅑ、ㅓ、ㅕ、とくりかえしてごらん下さい。舌が上下にうごくとももに口がひらいたりつばんだりするでしょう。

(7) ㅓ [e] この母音もなかなかかむずかしい音です。

というのは、日本語にはエはひとつしかないのですが、朝鮮語にはもうひとつのエ、つまり8番目の母音ㅓ [æ] があって、ふたとおりのエがあるからです。朝鮮人にとっては7番目の母音ㅓ [e] と8番目の母音ㅓ [æ] とは、はっきりちがったものなのです。日本人にはこのちがいがはっきり区別できません。

では7番目の母音ㅓ [e] はどんな音でしょうか。かんたんにいえば、だいたい日本語のイとエとの中間にあるといえます。ですからㅓ [e] の発音をだそうとすれば、日本語のイを発音しておいて、すこし舌の位置をひくめてくちびるのひらきをおおきくしてやるか、あるいは日本語のエを発音

しておいて、舌の位置をすこしたかめてくちびるのひらきぐあいを小さくしてやればよいわけです。

新宿駅にたつてきていてごらん下さい。<エケブクロユキ> (池袋) という声がかきこえるでしょう。このときの<エ>こそ朝鮮語のㅓ [e] です。新潟あるいは群馬の方言ではイとエとの区別がなく、朝鮮語のㅓ [e] にちかい母音があるので、その人びとは正確に<イケブクロ>と発音できないのです。

(8) ㅓ [æ] ところが8番目のㅓ [æ] は、日本語

のエよりも舌の位置がひくく、両くちびるのひらきぐあいがおおきいのです。ですから日本語のエを発音しておいて両くちびるのあいだをひろげると、朝鮮語の母音ㅓ [æ] ができます。このㅓ [æ] は英語の Cat hat の a と非常にちかい母音です。

ㅓ [æ] の発音がかきでるようになったら、両くちびるのかっこうをそのままにしておいて、舌の位置をうしろにひいてごらん下さい。ㅏ [ö] の音ができるでしょう。つまりㅓ [æ] とㅏ [ö] との関係はㅓ [i] とㅡ [ü] との関係とおなじなのです。

さて以上で8つの母音を説明しましたが、ここで図表にまとめておきましょう。

(次号予定は子音) 金礼埤

舌の高さ (ひらき具合)	舌の位置 (両くちびるは たいら)	前舌母音 (両くちびるは たいら)	中舌母音 (両くちびるは たいら)	後舌母音 (両くちびるは まるい)
くちびるのひらきがせまい (舌の位置が高い)		ㅣ [i]	ㅡ [ü]	ㅓ [u]
半	せ ば め	ㅓ [e]		
半	び ら き	ㅓ [æ]	ㅏ [ö]	ㅑ [o]
くちびるのひらき具合がひろい (舌の位置がひくい)			ㅓ [a]	

この図表をそのままくちむろの中に入れてみると仮定してみましよう。舌の位置のたかい、ひくい、まえ、うしろ、それに両くちびるのかっこうのちがいがいによってこれらの母音のちがいがうまれてくる事が、よくわかるでしょう。

特殊鋼合金用としてタングステン、モリブデン、ニッケル、クローム等は、戦時中は軍需資源として世界の人が注目していた。タングステン(重石ともいう)は前述したように世界的な産高をしめしているが、もつと質がよく代表的な鉱山は黄海北道の谷山一帯(百年鉱山)と江原道寧越の上東鉱山である。上東鉱山は、戦時中はアメリカ独占企業体であるユラ会社がちよくせつ経営し、ほし

いままに掠奪していった。モリブデン(水鉛)も特殊合金用として世界的に量のすくない鉱物であるが、わが国は世界的な産出国家である。主な産地は黄海北道の遼安、咸鏡北道の鏡城、漁郎、慶源地区と江原道の金剛山一帯および寧越、全羅北道の長水地区である。

一九三九年度の産出高は、純金で三十一トンである。平安北道の雲山金山だけでも、米帝と日帝が四十年間にわたって採掘した量は、実に純金八十余トンである。金鉱はとくに外人にねらわれ、李朝末期より八・一五解放にいたるまで資本主義諸国の掠奪のツメ跡が大きい黄海北道の遼安と沓洞金山は、一九〇五年より英国人によって、江原道の金化一帯は一八九七年よりドイツ人によって、平安北道の太極洞金山はフランス人によって、慈江道の厚昌金山はイタリヤ人によってそれぞれ利権がにぎられ、採掘されてしまった。さらにひどいのはもちろん日帝で、三十六年間に純金七二七トンを略奪している。

このほかにニッケル、コバルト、クローム、マンガン、アンチモニー、チタン等がある。有色金属鉱物資源 金、銀、銅、亜鉛等は有色金属鉱物に属するが、これらの鉱物は多金属鉱として埋蔵されていて、鉛と亜鉛または金と銀と銅が併存している。これらの鉱物中もつとも有名なものは金でわが国は昔から今日にいたるまで、産金国のアフリカのトランスバールとともに世界的に知られている。

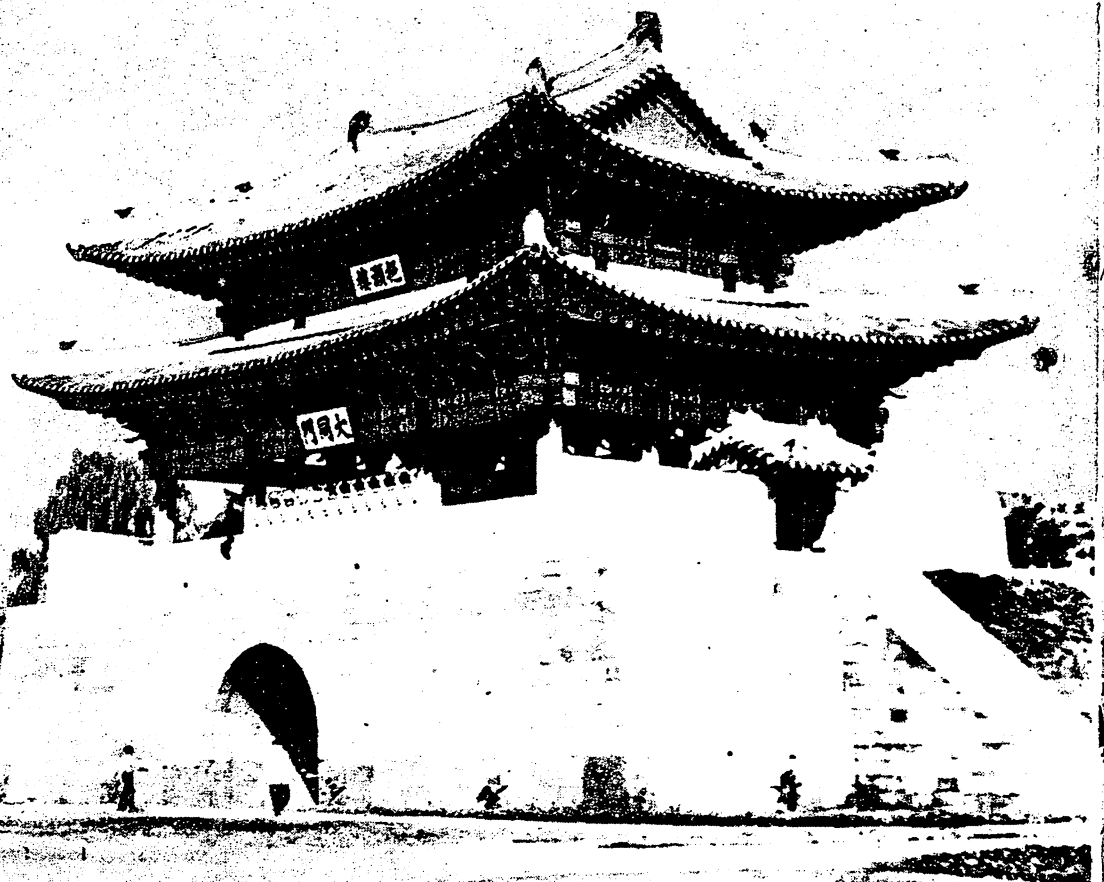
金産地は全朝鮮いたるところ津々浦々で、金のでない郡は皆無の状態で、ゴールド・ラッシュを出現していた。なかんずく著名な金産地は前述の金山であるが、とくに集中的に埋蔵される地区は平安北道である。わが国の金産高の八二%が北朝鮮に偏在している。金は、タングステン、黒鉛とともに対外貿易品として外貨獲得に大いに寄与している。

雲母は電気工業に欠くべからざるものである。一九四四年の産高は世界十位で、主な産地は咸鏡南道境界一帯と平安北道の博川、平安南道の平原である。そのた燐灰石、硫化鉄は化学工業の原料として、ともに北朝鮮に多く埋蔵されている。(朝鮮大学教員)

新しい世代

一九六一年二月一日発行（毎月一回一日発行）第二三三三号
昭和三十五年三月八日 第三種郵便物認可

一九六一年二月三



2.3月号

金日成首相の全朝鮮人民 におくる新年のあいさつ

金日成首相から韓徳銖先生への祝電

人民経済発展

五カ年計画と七カ年計画

わが民族の愛国伝統

三・一運動と朝鮮人民軍創建記念日によせて

特集 帰る人々 帰った人々

若き情熱を祖国に

東京朝高と上野市から帰国する青年たち

光と希望を見いだした人々

名古屋港支部から集団帰国する労働者たち

同じ働くなら祖国で

大阪から集団帰国する企業家、技術者たち

●帰国青年学生たちの手紙

あこがれの祖国に帰って

K トン ム の 話

民族教育をうけた喜び

私たちの家族の生活

李丞玉 15

金泰京 18

白佑勝 20

孫政義 23

尹相大 24

朴城祚 26

朴賢洙 27

昔の朝鮮人と今の朝鮮人 柳田謙十郎 44
朝鮮スポーツ現況 朴志亨 46

座談会 南朝鮮での生活から

崔日植・金仁植
高昌一・李順姫
朴相範・編集部 32

●日本人教師の願い

いつも考えること 斎藤武治 36
どちらが幸福か 清沢治 37

●日本の学校から朝鮮学校に入って

悩みから喜びへ 朝鮮大学 李雨 39
私にも祖国があった 神奈川朝高 李京子 40
胸はたかなる 愛知朝高 李光君 42
帰国を決意するまで 大阪朝高 姜子于 43

講座 連載

国語講座 2 金礼坤 53
朝鮮の文学 2 安宇植 54
祖國めぐり (地理講座 2) 金緑陽 58
三・一独立運動 (歴史講座 10) 東京朝鮮中高級学校 64

歳

超時記

許南麒 48

慧超と崔致遠 (人物史物語) 姜在彦 60

紐由と密友 (朝鮮史話) 裴秉斗 68

不 死 鳥 (抗日パルチザン闘士のはなし) 李在林 73

短評 不屈のうた 読者のひろば 表紙について 81
そうだん・しつもんしつ 81
写真特集 七カ年計画をめざして カット 金昌徳・安春植 82



国語講座

第二回

母音(その二)

前回では朝鮮語の母音は8つあると説明しましたが、実は、朝鮮語の母音はみんなあわせると21あります。説明のことがたりないために、読者のみなさんからこのことについてたくさんの注意をいただきました。おわびと、あわせてお礼を申しあげます。

さて、前回にひきつづき、母音の勉強をもう少しつづけてみましょう。朝鮮語には、さきにあげた8つの単母音のほかに、もう2つの単母音—これはあとで説明いたしますが—と11の重母音があって、朝鮮語の母音の体系は、とても、こみいったものになっています。でも、この重母音というのは、母音を2つかさねたものですから、おぼえるにはとくべつの苦勞はいりません。

ひとつの音節のなかで、2つの母音がくみあわさると、それが重母音になるのですが、みなさんには、日本語のわ行音、や行音が重母音だといった方がびんとくるでしょう。このような重母音にたいして、まえにあげた母音のことを単母音といいます。

朝鮮語の重母音も、日本語の重母音とおなじように、や行音の系列のものと、わ行音の系列のものがあります。や行音の系列のものには、(1) ㅑ [ya] (2) ㅕ [yö] (3) ㅛ [yo] (4)

ㅠ [yu] (5) ㅝ [yæ] (6) ㅟ [ye] があり、わ行音の系列のものには、(7) ㅜ [wö] (8) ㅜ [we] (9) ㅘ [wa] (10) ㅚ [wæ] があります。そして、それ以外にもう一つ朝鮮語どくとくの (11) ㅢ [üi] があります。

や行音の系列の重母音は、単母音 ㅏ, ㅑ, ㅓ, ㅕ, ㅗ, ㅛ, ㅝ のまえに、みじかい ㅣ [i] がかさなつてできている重母音です。この種の重母音をあらわす文字のかき方を注意してみてください。単母音をあらわす文字に一本よけいな線があるでしょう。このよけいの線がみじかい ㅣ [i] をあらわしているのです。このみじかい ㅣ [i] を y という記号であらわしておきました。

この文字の発音は、日本語のやと同じで、みじかい ㅣ [i] と ㅏ [a] とがくみあわさつてできています。文字のかきかたは、まずたて棒を一本ひいて、その右にみじかいひさしを一本つけてください。すると、[a] をあらわす文字 ㅏ ができます。このㅏにもう一本ひさしをつけてやると ㅑ [ya] になります。

この文字の発音は、みじかい ㅣ [i] と ㅑ [ö] とがくみあわさつて、できた重母音です。かき方は ㅑ [ya] とは反対です。日本語の、よにちかい音ですが、それとどうちがうかということは、

まえの講座で説明したㅑの発音のし方をよみなおすとすぐわかります。

(3) ㅛ [yo] この文字の発音も日本語のよに近い音です。かきかたはまずみじかい たて棒を一本ひいて、その下に横線を一本ひくと ㅛ [o] をあらわす文字ができますが、重母音 ㅛ [yo] をあらわす文字をつくるには、みじかい たて棒を二本ひいて、その下にながい横棒をひけばいいのです。

この文字の発音は、日本語のゆにちかい音です。かきかたはまず横線を一本ひいてその下にすこしみじかめにたて棒を一本ひいてください。すると、ㅜ [u] をあらわす文字ができるでしょう。その左横にもう一本たて棒をつけたせば ㅠ [yu] をあらわす文字ができます。あとからつけくわえる棒はすこしながめに。

この重母音はみじかい ㅣ [i] とひろい ㅏ [æ] とのくみあわせです。このひろい ㅏ [æ] をあらわす文字は ㅓ [a] と ㅣ [i] からなりたっています。そして重母音の ㅝ [yæ] をあらわす文字は ㅓ [ya] と ㅣ [i] とからなりたっています。

ひろい ㅏ [æ] にあらわす文字がなぜ ㅓ [a] と ㅣ [i] とからなりたっているかといえば、このひろい ㅏ [æ] は、むかしは 아이 [ai] と発音されていたのですが、それがひとつの母音にうつっていったのです。その証拠には、いまでも子供のことを 아이 [ai] とも 애 [æ] ともいいます。標準語では鳥のことを 새 [sæ] といいますが、この単語をある方言では 사이 [sai] と

発音しています。つまり文字のかきかたのなかに朝鮮語の音声の歴史がきざみこまれているわけです。

この重母音はみじかい ㅣ [i] とせまい ㅑ [e] のくみあわせです。このせまい ㅑ [e] をあらわす文字は ㅑ [ö] と ㅣ [i] をくみあわせた文字です。重母音の ㅟ [ye] をあらわす文字は ㅑ [e] と ㅣ [i] とからなりたっています。せまい ㅑ [e] をあらわす文字がなぜ ㅑ [ö] と ㅣ [i] とからなりたっているかといえば、むかしはこの発音は 어이 [öi] と発音されていたからなのです。標準語でカニのことを 게 [ke] というのですが、ある方言では、いまでも 거이 [köi] といっています。

わ行音の系列の重母音は、ㅑ [ö], ㅑ [e], ㅓ [a], ㅝ [wæ] のまえに、みじかいウがかさなつてできあがったものですが、このみじかいウをかきあらわす文字は ㅑ と ㅑ のまえでは ㅓ [u] がつかわれ、ㅓ ㅛ のまえでは ㅓ [o] がつかわれています。

この母音は、ㅓ [u] と ㅑ [ö] とがかさなつて、できた重母音であることは、はっきりしています。発音のしかたも、文字のかきかたも、もう説明する必要はないでしょう。ㅓ をみじかく発音して、そのつぎに、あいだをおかないでつづけて ㅑ [ö] をだしてごらん下さい。

この重母音は ㅓ [u] と ㅑ [e] とがくみあわさつたものです。日本文字なら、うえとかいた音にちかいでしょう。

ㅓ [u] と ㅓ [a] とがかさなつてできた重

一九六一年四月一日發行(每月一回)
昭和三十一年三月八日 第三





特集／南朝鮮人民の四月蜂起一周年

「自主的な国土統一」のために
たちあがった南朝鮮人民……………李 珍 珪 2

「四月の血をぼうとくするな」……………編 集 部 6

— 祖国統一のために闘う南朝鮮の青年学生 —

「売国条約」「韓米経済・技術協定」……………申 熙 九 15

南朝鮮青年学生闘争日誌……………編 集 部 6

「韓日会談」のもくろみ……………尹 元 澈 19

「韓日会談」はなぜ反対をおしきって妥結を急いでいるのか……………尹 義 順 (13)

息子はりっぱに生きた……………高 順 姫 (13)

弟のうた—姉に……………李 元 洙 (10)

母への遺言……………姜 守 炫 (11)

左手で書いた日記……………金 京 鎮 (9)

姉のうた—弟に……………尹 義 順 (13)

「めざめゆく青年たち」……………朴 密 陽 36

支那青年学校で学ぶ青年たちのかわりゆくそのすがた……………李 周 文 32

青年は国の主人公……………崔 艶 子 35

子供の級友にあてた手紙—「朝鮮みたまま」……………崔 艶 子 35

「祖国とはこんなによいもの」……………崔 艶 子 35

帰国の喜びを父に伝える帰国一カ月めと一年めの手紙……………崔 艶 子 35

●韓徳鉄先生をかこむ座談会●
祖国を知り祖国のために生きる……………李 相 業 22

在日本朝鮮人総聯合会中央議長韓徳鉄先生をかこんで、最近ようやく自分が朝鮮人であることを知ることができた三人の青年たちに、その過去のエピソードや将来についてざっくばらんにはなしあっていたたぐ……………張 武 雄

新しい人間像……………崔 礼 訓 23

大火傷の少年を救った医学生たちの愛と感動の物語……………阿 部 知 二 42

アジア・アフリカ作家会議のこと。朝鮮と日本のこと……………阿 部 知 二 42

解説 四・二四 教育事件……………阿 部 知 二 42

祖国から第九次教育援助費・奨学金おくらる……………阿 部 知 二 42

短 信……………編 集 後 記……………阿 部 知 二 42

読者のひろば……………編 集 後 記……………阿 部 知 二 42

連載講座	
国語講座 3……………金 礼 坤 55	朝鮮の文学 3……………安 宇 植 56
祖国めぐり (地理講座3)……………金 緑 陽 60	一九二〇年代の反日闘争 (朝鮮歴史講座)……………東京朝鮮中高 級学校社 62

歳時記 春たけなわ……………許 南 麒 50	姜 邯 賛 将 軍 (人物史物語)……………姜 在 彦 66
奴隷 租 未 押 (朝鮮史話)……………裴 秉 斗 70	斧 (お の) 抗日バルチザンの話……………朴 達 74

国語講座

第三回

子音(その一)

母音の説明がひととおりおわったので、こんどは子音にうつりましょう。子音とはなにかといえば、はきだす息が口の中のどこかにふれて、かすれてでてくる音、あるいは、口の中のどこかにその息がたまって、爆発するようにいっぺんとびだしておこる音です。つまり、母音が楽音であるのにならして、子音は騒音なのです。

子音は、はきだす息が口むろの中のどの部分でかすれてくるかということで、あるいはどこにたまって、どこで爆発するかということで、いろいろな音色にわかれてきます。つまり発音のしかたと場所とがちがえば、ちがった音ができあがるのです。たとえば、日本語の《さ》を発音しておいて、つぎに《は》と発音してごらん下さい。二つの音は、はきだす息が口むろの中のある部分で摩擦をおこしてできるのですが、どこで摩擦をおこしているかよくわかるでしょう。つぎに《し》と発音しておいて、つぎに《ひ》と発音してごらん下さい。摩擦はほとんど同じところでおこっているでしょう。では、朝鮮語にはどんな子音があるのかこれからみてみましょう。

日 [p] この音は、英語の [p] の音だと思えばよいでし

ょう。日本語のパ行音のプにちかい音です。くわしくいえば、pa, pi, pu, pe, po の p です。この子音のつくりかたは、両口びるをむすんで、口むろの中に空気をためておいて、むすんだ両口びるを急にはずすと音がでけます。このときの音が日です。このばあい、日本語のパ行音のプのように、にごらせてはいけません。声帯をふるわせてはいけません。この子音をふくんでいる単語を一つおぼえましょう。바위 [pai] (岩)。子音日をむすかしく名づけると、両唇の破裂音、破裂する両唇音といえます。

互 [ph] この子音は、日本語にないといえないのですが、パ行音のプを強くはきだすようにだせば、できます。まえに説明した日と同じように、この子音も両口びるをとじておいて、口むろに空気をため、急に両口びるをひらくとできるのですが、このばあい互の方が、風船玉が爆発するように、いきおいがいいのです。

日と互とのちがいをためそうと思えば、テーブルの上に綿のようなかるいものをおいて、プと発音してごらん下さい。かるく発音すれば、綿はとばないでしょう。つよく発音すればとんでいくでしょう。このちがいが、日 [p] と互 [ph] とのちがいだとおもえばいいのです。この子音互も両唇の破裂音

ですが、まえにのべた日とは、ハ行音の h、つまり気音がともなっているという点でちがっています。つまり、互 [Ph] という音は、はく息がとびだしてくるのです。ですから、有気音といえます。この互に対して、日の方は無気音といえるでしょう。この子音をつかった単語、싸 [pha] (ねぎ) をおぼえましょう。

ㅍ [pp] この子音も、日本語のパ行音のプにちかい音ですがちょっとちがいます。朝鮮語のㅍは子供が自動車あそびをしているとき、のどをしばって、力まかせにプープーというときのプにちかい音です。ナニワブシかたりのようにのどをしばって、日 [p] をだせば、ㅍ [pp] の音になります。つまり、両口びるがとどざされているだけではなく、のどもとどざされているのです。日 [p] にたいしてㅍ [pp] は、かたい音といいㅍ [pp] に対して、日 [p] はよわい音といえます。むづかしく名づけると、咽喉閉鎖音をとともなう両唇破裂音といえるでしょう。このように、朝鮮語には、日本語のプに相応する子音に日、互、ㅍの三種類があるということになります。日本人にとってはㅍ [pa], 싸 [pha], ㅍ [ppa] はひとしくバにきこえてくるのです。そういえば、日本語は、おそろしく単純な子音構造のことばのようにおもえるのですが、朝鮮人にとっては、日本語のパとバとは、ひとしくㅍとか싸あるいはㅍときこえるのです。いいかえれば、日本語の清音と濁音(にごり音)のちがいは、朝鮮人にはききわけにくいようです。

ㄷ [t] つぎに説明するㄷは日本語のタ行音のタ [ta], テ [te], ト [to] の [t] です。英語の発音記号 [t] だと思えばよいでしょう。まず歯ぐきのところに舌さきをくっつけておいて、そこに空気をため、急に舌さきをはずすと、たまっていた空気がながれてきます。このときにできる音がㄷ [t] です。この音を前舌破裂音といいます。ところで、日本語のタ行音のチ、ツをㅌ, ㅈのように書きません。朝鮮語のㅌは、英語の teacher [ティ] であり、ㅈは英語の tooth の [テウ] であって、チ、ツではありません。むづかしくいえば、朝鮮語には、口蓋音化の現象が、ここではかいているのです。

これまでおぼえた発音と文字をつかって単語, ㅌㅌ (海) をおぼえておきましょう。このㅌㅌは [pata] と発音せずに [pada] [パダ] と発音してください。[pata] [パタ] とかいて、なぜ [pada] [パダ] と発音するかということは後で説明することになります。

ㅌ [th] この子音は、まえに説明したㄷの有気音です。つまりㄷを発音するとき、息をつよくはきだせば、ㅌ [th] という子音ができます。この説明で満足できないひとは、口のまえに紙を一枚たててㄷを発音してください。はきだす息の力で紙きれがゆらぐと有気音のㅌにあたり、紙がうごかなかつたら、無気音のㄷになります。

ㅌ [tt] この子音は、ㄷのつよい音です。つよい音というのは、まえに説明したように、一度、

のどをしぼって急にひらくと、できません。ㄷはㄷと同じように、前舌破裂音です。つまり上の歯ぐきに舌さきをくっつけて、そこに空気をためて、そのつぎに舌さきを急にはずしてやると、できてくる音ですが、よわい音のㄷとはちがつて、同時に咽喉の閉鎖をとまっています。ですから、この子音を咽喉閉鎖をとまなう前舌破裂音となづけることができます。

ㄱ [k] この子音は、日本語のカ行音の ka, ki, ku, ke, ko の [k] です。英語の発音記号の [k] です。この子音は舌のうしろの部分を上あごのうしろの部分、つまり、のどにちかいところにくっつけておいて空気をため、そして急に舌をはずすとできます。この音をむづかしくいうと後舌破裂音といえます。

ㅋ [kh] この子音ㅋも、前に説明した ㄱ [k] を発音する場合と口の状態は同じです。ただ、ㄱの発音をするときよりも、はきだす息がつよく気音 [h] をともなっています。子音 ㅌ [th] を発音するときのように、紙きれでためてごらんない。この子音のことを、有気音の後舌破裂音といえます。

ㄲ [kk] この子音も、ㄱと同じような口のかっこうをすれば、発音できるのですが、ㄷと ㅌ、ㄷと ㅌとの関係と同じように、ㄲのあいだは、たんに軟口蓋と後舌（あとじた）で空気のながれをせきとめるだけでなく、のどをしめなければなりません。つまり、咽喉閉鎖をとまなう子音なのです。カァ、カァとカラスのなきごえをつくるようなつもりで、のどを

つまらせて、すこし息ぐるしそうちにカ、キ、ク、ケ、コを発音してみてください。だいたい近い音ができます。

さて、以上9つの子音を勉強しましたがこれらの子音はすべて破裂音と名づけることができます。なぜなら、流れてる息が口腔のなかのどこかの障害物で一度ストップして、その障害物をとりのぞかれると同時に爆発するように、息がとびだしてきてそれが音になるからです。

ながれてる息をせきとめる障害物がどこにあるか、障害物が口腔のどの部分でつくられるかということで、これらの破裂音は、つぎの三種にわけることができます。

両唇音	ㅍ [p]	ㅑ [ph]	ㅑ [pp]
前舌音	ㅌ [t]	ㅎ [th]	ㅎ [tt]
後舌音	ㄱ [k]	ㅋ [kh]	ㄲ [kk]

これら子音はまた、気音 [h] がともなうか、ともなわないかという観点からつぎのように分類できます。

	無気音	有気音
両唇音	ㅍ	ㅑ
前舌音	ㅌ	ㅎ
後舌音	ㄱ	ㅋ

さらに、これらの子音は、咽喉閉鎖（のどつまり）がともなうか、ともなわないかという観点からつぎのように分類できます。

	咽喉閉鎖をとまなわない子音	咽喉閉鎖をとまなわない子音	咽喉閉鎖をとまなわない子音
両唇音	ㅍ	ㅑ	ㅑ
前舌音	ㅌ	ㅎ	ㅎ
後舌音	ㄱ	ㅋ	ㄲ

ふつう、朝鮮語の破裂音は、以上三つの表をひとまとめにして、つぎのような分類表におさめられています。

	よわい音	つよい音	かたい音
両唇音	ㅍ	ㅑ	ㅑ
前舌音	ㅌ	ㅎ	ㅎ
後舌音	ㄱ	ㅋ	ㄲ

ところで、日本でそだったみなさんは、すぐに、では朝鮮語にはバ行音、ダ行音、ガ行音はないのか、というような疑問をおこすことでしょう。朝鮮語には子音の単位としては、いわゆる濁音はありません。

日本語では、清音のバ、ダ、ガ、と濁音のバ、ダ、ガ、とがあって、それらが対立しています。この清音というのは無声音で、濁音は有声音のことであって、日本語では、ある子音が、無声であるか、有聲であるかということは、単語の意味を区別するうえで重要な働きをもっているのです。たとえばカ（蚊）とガ（蛾）とのちがいは、子音が、有聲であるか、無声であるかのちがいであって、そのちがいは、意味を区別するうえで大切な働きをしています。有聲子音と無声子音とのちがいは、まえにも説明しましたように、子音を発音するときに、声帯がふるえるか、ふるえないかのちがいです。

では、朝鮮語の破裂子音に、有声音がないかといえば、そうとはいえません。というのは、ㅍ [p]、ㅌ [t]、ㄱ [k] が母音と子音とのあいだにはさまると、これらの子音は有声音になります。つまり、これらの子音は [b]、[d]、[g] のような濁音に

なります。たとえば、さきあげた単語 ㅍㅏ [pada]（海）ですが、この単語を文字どおりに発音すれば、[pata] となるわけですが、それでは朝鮮語になりません。ㅍㅏという単語をくみだして音の位置をよくみてみましょう。この単語は、〈ㅍ+ㅏ+ㅏ+ㅏ〉のようになっています。この単語の中のㅏの前後の音は母音でしょう。まえに説明したように、母音と母音とのあいだにはさまれると、ㅍ [p]、ㅌ [t]、ㄱ [k] は《有声化》つまり濁音になるのです。だから、ㅍㅏ [pada] となるわけです。朝鮮語では、p と b、t と d、k と g とのちがいは、単語の意味を区別するためにあるのではなく、ㅍ、ㅌ、ㄱがそれぞれどの位置にあらわれるかということによって、この子音が p、t、k になったり b、d、g になったりするのです。くりかえしていえば、朝鮮語の子音、ㅍ、ㅌ、ㄱは単語のはじめにでてくるときは、p、t、k と無声に発音され、母音と母音とのあいだにはさまれると、b、d、g と有聲に発音されます。ちょうど日本語の連濁（れんだく）という現象に似ています。

日本語では山と川のことを《ヤマカワ》といいますが、山にある川のことを《ヤマガワ》といって、母音のあいだにはさまる子音が有聲化します。こういうことから朝鮮語では、p と b、t と d、k と g とはひとつの音韻（音の単位）の変種であるといえます。日本語のバカ（馬鹿）という発音が朝鮮人にはむずかしく、日本語になれない朝鮮人が《バガ》と発音するのは、こうした理由によるものです。つまり、単語のはじめにあるㅍ、ㅌは無声音でおな

春たけなわ



許南麒

山に行けば 木こりになりたいと思ふ
満山空をおおう木々 のこけすられ
身もだえて倒れる音
大自然をふるわせる そのたくましさがある
が故に

野に行けば 農夫になりたいと思ふ
高地にも流れをさかのぼらせて稲の花咲かせ
緑の丘に赤きリンゴつむとき
大地は母のごと有難くもうるわしきが故に

海もまた如何ばかり美しいことか
群青の波 青き空をいただき むれ遊
ぶ水平線を越え また戻り
あかがね色のかいな 網をたぐる音

荒狂う怒濤も息を止め仰ぎ見る
かの勇士らの仕事場が ここなるが故に
黒き石より赤くたぎる鉄 あふれ流れ
草よりは糸つむぎ 錦を織り
山をも削り運ぶ
自動車とトラクターを作り出す
労働の榮譽
この地ははてしなきしあわせの園(その)

このような人たちの手を経て刻まれた
数多くの新しい湖と公園が、都市と村が
このような日々を経て われらは到達するで
あろう
新しいなりわいの より高い丘に
人類の永遠な青春の季節に

なんとしあわせなことであろう このよう
時代にわれら生きることが
わが愛するこの人達を訪ねて
脚がふくらむほどに山また山を歩き
海と野を はてしない工事場を訪ね
その人達と会えば あらたな力湧く
わたしはうたう、わたしは願う

このうたが その人達の育てる
たくましい労働のみのりの中に ひとしずく
の露となるよう
このうたが あらたな奇蹟を呼ぶ ひとしず
くの力となるよう

これは、全草民(ジョン・チョミン)とい
う、祖国の新鋭詩人のAわがうた、わが願
いVとい題の詩の、全訳である。

また春がやって来た。このA歳時記Vをは
じめて、はや一年になる。人によつては、唐
の詩人崔敏童じゃないが、人はすでに去年
(こそ)の人じゃないのに、年年歳歳、花は
たがわず咲くといった感もするだろうが、わ
れわれは、ここにかかげた詩のような気持ち
で、この春を迎えたい。

春三月、四月、南に去ったつばくろも帰
る。南北統一の、われわれ朝鮮民族なら誰も
がひとしく念じてやまないはずの宿願も、遠
からず達せられるだろう。朝鮮の野や山の、
無数といつてもいいぐらいに数多い草花は、
その日にそなえていまを盛りと咲きはこつて
いるにちがいない。

いまは、その、春たけなわの季節の、芝居
でいえばプロログといった時期であろう

か。いろいろと、読者諸君もいそがしいこと
だろうが、多忙な中で暇をみつければ、後日
のために体をつくっておくのもいいことでは
なからうか。
つぎに、昔の、朝鮮の春の遊びをいくつか
書いてみたい。いふなれば、昔のレジャーの
たのしみかたであろう。

▲東国歳時記Vの三月のくだりに、南原ノ
俗ニ、州人、春ニ当リ、竜潭ノ若栗林トイウ
森ニ会(つど)イ、酒ヲ飲ミ弓ヲ射ルコトヲ
モチテ礼トスと出ている。酒をくみかわし、
武芸を競う、なんとゆかしい民俗ではない
か。慶州ノ俗、春ヨリ四時遊賞ノ地ヲ以テ、
四節遊宅ト爲(な)ス。春ハ東野宅、夏ハ谷
良宅、秋ハ仇知宅、冬ハ加伊宅ナリともある。
慶州周辺の、四季それぞれの名勝地を決めて、
春はどこ、秋はどこと遊んだということであ
る。東京周辺なら、春は水戸の梅、夏は鎌倉
か伊豆半島、秋は日光、冬は蔵王から日本ア
ルプスに至る方々のスキー場などといったと
ころだろう。

ぬやま・ひろしの詩の文句じゃないが、若
者よ、体をきたえておくべしである。美しい
心はたくましい体に宿るものである。

新書版
260頁
価150
千16



金明花著

半生をひたすら民族の解放と
祖国の独立のためにささげた
抗日遊撃女子隊員の回想記

再版近日配本ノ

発売
朝鮮青年社

がいが意味をくべつするうえで重要な
はたらきをしているのです。これらの
区別(ちがい)をしっかり身につけて
ください。(金礼坤)

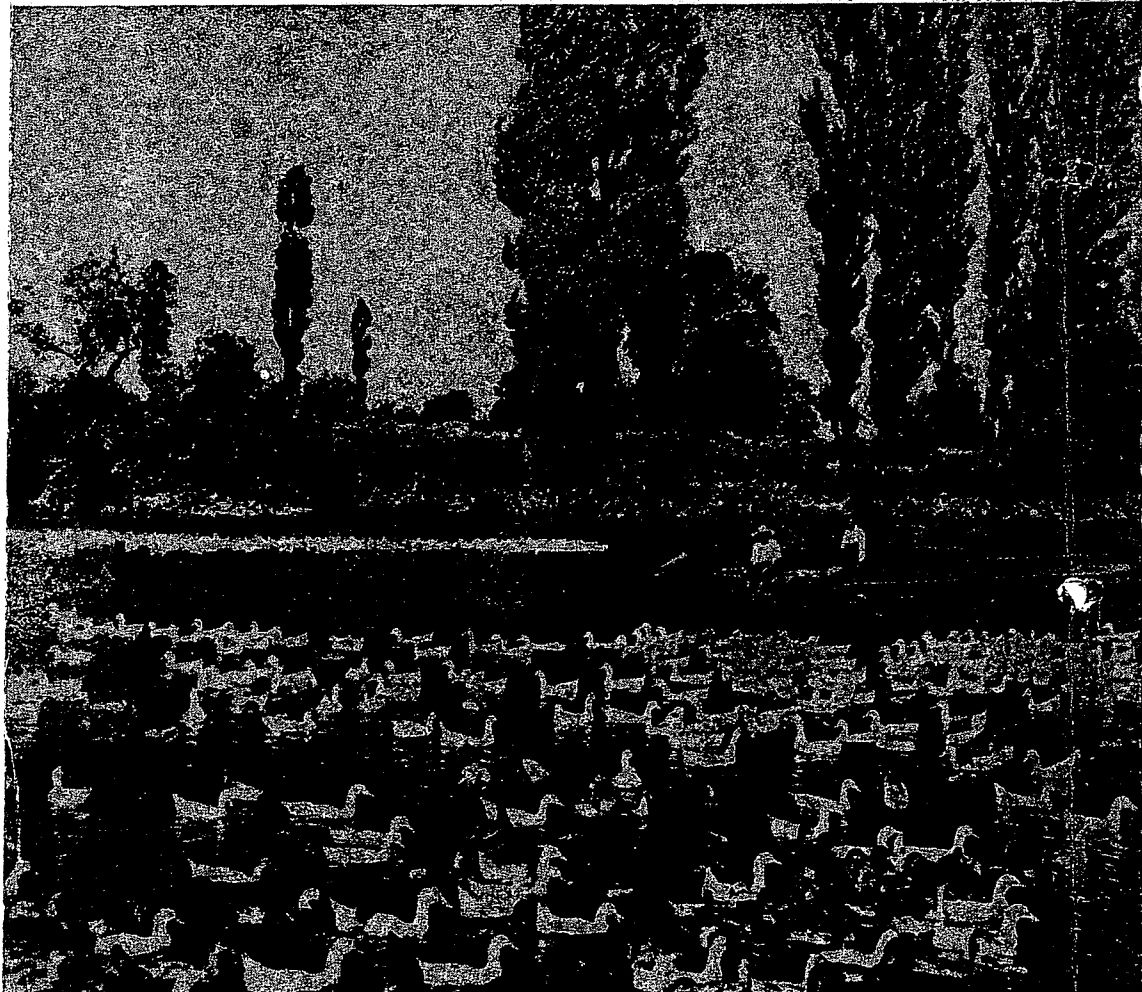
前回の訂正

- 53頁左段6行 ㄱ [üi] → ㄱ [ü]
- 52頁右段1行 ㄱの発音 → ㄱの発音
- 52頁左段19行 H [wæ] → H [æ]
- ” ” 23行 トㄷHの → トとHの
- 50頁表中の、のぼり母音、くだり母音は
それぞれのぼり重母音、くだり重母音

じ音韻が母音のあいだにすれば有声化
するという現行の朝鮮人の音声法則に
したがって、日本語の《馬鹿》をここ
まで説明すれば、朝鮮語と日本語とで
は子音の体系がまったくことなるもの
であることがおわかりになるでしょ
う。日本語では《パン》のことを
[pang, phang, ppang]と発音して
も《パン》という音のだし方にちょ
とした調子のちがいがあると感
じられても、ひとしく《パン》の
意味にうけとれます。しかし、
朝鮮語ではこのち

新しい世代

一九六一年五月一日発行（毎月一回）
昭和三十一年三月八日第



幸福な未来をもとめて闘う南朝鮮の青年・学生たち 白 宗 元 2

日本財閥のあらたな企図 李 教 舜 7

南朝鮮に侵出しようとする日本財閥と南朝鮮政治経済界の策動

南朝鮮 絶糧民の惨状 編 集 部 12

南朝鮮青年学生の闘争 日誌II 編 集 部 5

座談会 朝鮮青年の立場と民族意識

18

大阪朝鮮高級学校と白頭学園建國高等学校の学生たちが、自分の立場から、祖國の平和統一のこと、学園生活、帰國した学生について、家の中の問題、民族意識ということ、南朝鮮の学生たちのたたかいについてなど、きたんなく語り合う。

帰國船と新 潟 蔡 峻 24

帰國船は七十四日間休航していたが、いままた清津と新潟を往来する

一堂に会した感 激 朴 春 日 15

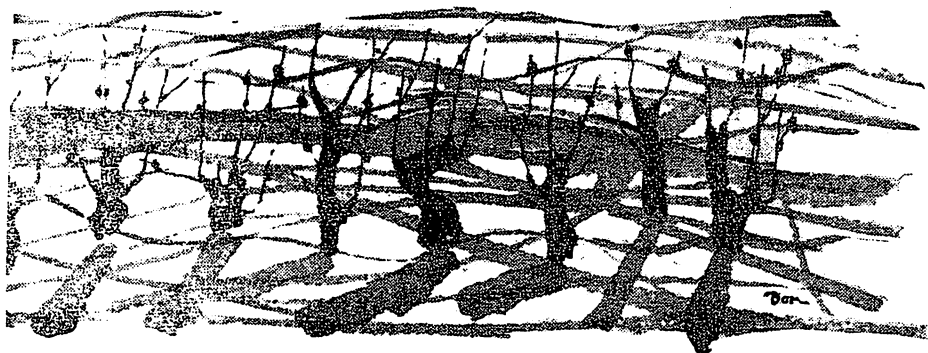
「祖國平和統一南北文化交流促進文化祭」をみて

私は、ま自分を笑う 金 亜 里 30

三十数年日本人をよそおって劇作演出家として生きてきたが

慶南・密陽で会おう 朴 密 鏞 33

帰國する弟と残る兄、それぞれこれだけはいっておきたいこと



手帳へわれらの家族 朱 泰 順 36

千里の駒の勢いですすむ祖國の青年、その一例を商品売場にある

ロシア語を学ぶわけ 今 野 武 雄 40

それは最高級のヒューマニズムに接するということだ

世界卓球選手権大会 林 志 亨 42

短 信 読者のひろば 76 78

国 語 講 座 (子音その二) 金 礼 坤 49

朝鮮の文学 (高麗時代の文学II) 安 宇 植 52

祖 國 め ぐ り (忠清南北道) 金 緑 陽 56

歳時記 春雨のうた 許 南 麒 44

義天と金富軾 (人物物語) 姜 在 彦 56

黄山平原の若武者 (朝鮮史話) 裴 秉 斗 60

密林でのメーデー (抗日パルチザン回想記) 白 鶴 林 64

短篇小説 しきりに立って 金 石 範 68

府立高校から朝鮮高校に転学する一青年を描く

写真特集 一朝鮮青年のこの頃 白 祐 勝

カット 韓 東 輝

国語講座

第四回

子音 (その二)

まえの講座でいわゆる破裂音の説明を全部おわりました。つぎに摩擦音をとりあげます。朝鮮語の s という子音は、日本語のサ行音の s だと思えば、だいたいまちがいありません。つまり、日本語のサシスセソは、 s si su se so とかけばよいわけです。くわしくいわなくても、この子音は、らくにつくれると思います。ちよつと説明すれば、つぎのようになります。舌のまえの部分の中央をくぼめて、空気のながれで溝をつくってやり、その溝にはく息をながすと、息が摩擦をおこして、かすれたような音がでできます。この音が子音 s なのです。ですから、この子音のことを前舌の摩擦音といいます。朝鮮語では、数の四のことを sa [sa] といいます。sa (サー) と長く発音してください。日 [p], 口 [t] ㄱ [k] の子音は、まえに説明してあるように、母音のあいだにはさまると、日 [p] は b に、口 [t] は d に、ㄱ [k] は g のように有声化してにこって発音されるのですが、この人は、母音にはさまれても、有声化しません。朝鮮語ではひっ越しのことを isa [isa] といいますが、これは [isa] と発音し、けっして [iza] と発音してはいけません。では、単語をい

くつかおぼえておきましょう。

사과 [sakwa] → [sagwa] (リンゴ), 수도 [suto] → [sudu] (首都), 시 [si] (詩) 소 [so] (牛)。

ss ss ss は s のつよい音です。ですから、のどをよくしめつけて s をだせば、 ss になります。この音をむずかしく名づけると咽喉の緊張をともなう前舌摩擦音です。

まえに説明してあるように、破裂音はよわい音とつよい音のほかに、有気音がありました。たとえば、口 [t] には th [th] があります。つまり、三つの子音がひとくみになっていたのです。ですから、 s にはその有気音があるはずだという質問がでそうですが、 s には有気音はありません。それはなぜかといえば、 s それ自身が気音だからです。単語をおぼえましょう。씨 [ssi] (種), 씨포 [ssopet^hu] → [ssobet^hu] (ソビエト)。

摩擦音には、もう一つ h [h] があります。この子音は、日本語のハ行音のなかにある音 [h] にちかい音です。ですから h h h h h とかけば、日本語のハヒフヘホを朝鮮文字でうつしたことになります。この子音は、咽喉(あるいは軟口蓋)でおこる摩擦音ですが、摩擦をおこす場所は、うしろにつづく母音の位

置に左右されて、まえよりになったり、うしろよりになったりします。하 (ハ) と히 (ヒ) とを発音して、摩擦のおこる場所のちがいを観察してごらん下さい。この子音のことを咽喉摩擦音といいます。べつに気音ともいいます。ㅃ [p^h], ㅆ [t^h], ㅋ [k^h] のことを有気音と名づけられるのは、これらの子音がたんなる ㅍ [p], ㅌ [t], ㄱ [k] ではなく、気音の ㅎ [h] をともなっているからです。ㅎ [h] には、それに相応する有気音も、つよい音もありませんが、その理由は、この子音自身が咽喉音であり、気音であるからです。以上の説明から朝鮮語の摩擦音は s [s], ss [ss], h [h] の三つがあるということになります。単語をいくつかおぼえましょう。

허수아비 [hösua^hpi] → [hsöua^hbi] (かかし), 허가 [höka] → [höqa] (許可)。

c [c] この子音はお茶や朝鮮語というときの [チ] で、みなさんにとって、むずかしい発音ではありません。発音記号に [c] という文字をつかいましたが、英語を知っておられる方なら ch あるいは [tʃ] とかいた方がわかりやすいでしょう。

この子音はふつう破裂音といわれていますが、そのわけは破裂音と摩擦音とがまざっているからです。

はじめに、うわはぐきの部分にまえよりの中舌をくっつけて、閉鎖をつくり、そこに空気をためて、破裂させるのですが、この破裂のあとに、[シ] のような摩擦音がともないます。百姓さんがまきなどを運ぶときにつかうしよいつ子(子)のことを、朝鮮語では ci 개

[ciqæ] といいます。

語頭のときは s [c] は [チ] と発音されるのですが、아비지 [aboci] のときのように s [c] が母音と母音の間にあれば、有声化して、ジ [j] のように発音されます。地主のことを ci 주 [cicu] とかきますが、これも [ciju] (チジュ) のように発音してください。

朝鮮語では、母音にはさまれて、有声化するの、日 [p], 口 [t], ㄱ [k], s [c] の四つだけです。このことはよくおぼえておいてください。単語をおぼえましょう。

자 [ca] (ものさし), 자유 [cayu] (自由), 피자 [kwaca] (菓子), 소주 [socu] (焼酎)

ch [ch] ch [ch] は s の有気音です。 s を発音するとき、息をつよくはきだせば、この s は ch [ch] になります。車のことを朝鮮語では [cha] といいます。同じ文字で茶という意味をもつ単語もあります。

cc [cc] cc [cc] は s のつよい音です。つまりのどをしめつけて、 s を発音すると、 cc [cc] になります。この関係は日とㅈ, 口とㅊ, s とㅉ の関係とおなじですから、説明しません。日本語の〈しおからい〉を cc 아다 [ccada] といいます。ㅈ아다は、〈しほる〉〈くみだてる〉という意味の動詞でもあります。

この破裂音には破裂音とおなじように、よわい音、有気音、つよい音があります。

さて以上で15の子音をおぼえました。この子音のことをひとまとめにして、無声子音と名づけておきます。そ

ういうふうにもまとめておくことが朝鮮語には必要なのです。

口 [m] この子音は、日本語のマ行音の <m> ですから、わけなく発音できます。両くちびるの破裂がともなっていますが、息が鼻にながれこみ、そこで共鳴をおこしています。この子音は先にならった日音を鼻音化したものといえるでしょう。つまり、日を発音するようなかっこうをして、息を鼻にながしこみます。単語をおぼえましょう。

마차 [mac^ha] 馬車, 차마 [ch^hima] スカート,

ㄴ [n] この子音は、日本語のナ行音の <n> です。この子音も鼻音ですが、口 [m] とのちがいは、口 [m] がく鼻にかかった両唇破裂音であるのたいして、ㄴ [n] の方はく鼻にかかった前舌破裂音なのです。ㄴには口を発音するような動作がともなっています。

この子音はㄹ音 (あるいはㄹ [r] 音) を鼻音にしたものだといえるでしょう。単語をおぼえましょう。

나비 [napi] → [nabi] 蝶, 비누 [pinu] 石鹸。

ところでこの音には次のような特徴があります。語頭にくるㄴ音は、母音 [l] と重母音 [ㄷㅌㅍㅍㅍ] の前ではゼロ化、つまり発音されないのです。しかし、かくときはかならずㄴをかきます。例 여자 (女子) → 여자

ㅇ [ng] この子音は、日本語のンだと思えば、かんたんなのですが、まえのㄴ [n] もンだといえ、ンなのですから、やっかいなのです。事実、日本人にはこのふ

たつの<ン>のちがいをききわけることができません。ところが、朝鮮語では、ふたつは、はっきりちがった音韻なのです。たとえば, 반 [pan] と방 [pang] とでは意味のちがったふたつの単語なのです。반 [pan] は (半分), 방 [pang] は (へや) を意味しています。

では 発音のうえではどちらがうかといえ、ㄴ [n] がく鼻にかかった前舌破裂音であるのたいして, ㅇ [ng] はく鼻にかかった後舌破裂音なのです。つまりㅇはㄹを発音するときの動作がともなっています。てっとりばやくいえば、この子音はㄹ音を鼻音にしたものなのです。英語を知っておられる方なら, song (歌) の [ng] といえはすぐわかるでしょう。

もっともわかりやすい例をあげましょう。日本語の縁 (エン) という単語をつかって, <エンガワ> と <エンの下> という二つの合成語をつかって, ゆっくり発音してみてください。<エンガワ> [engawa] のときのエン [eng] はㅇ [ng] ですが, エンの下 [ennosita] のときのエン [en] はㄴ [n] になります。<エンの下> の [エン] は舌さきがうわはぐきにくっついているでしょう。

日本語の動詞<読んだ>, <飛んだ>, <生んだ>のなかにある<ン>はすべて朝鮮語のㄴ [n] ですが, <パンが>, <判が>, <鱧が>のなかにある<ン>はすべて朝鮮語のㅇ [ng] にあたります。こういった現象は, あとにつづく子音に<ン>が同化されることからおこったものです。

こうしてみると, 日本語には, ㄴと

いう子音もㅇという子音もあるにはあるが, それをひとつの音韻<ン>としてあつかっていることとなります。

朝鮮語の日が位置によって, p になったり, b になったりするのとおなじように, 日本語の<ン>は位置によって ng になったり n になったりするので。

ふつう, このㅇ [ng] は, 강 (河のこと) のように, 音節のおわりにしかきません。たとえば, 잉어 [ing-ø] 鯉 영 어 [yøng-ø] 英語, 동무 [tongmu] 友あるいは同志, などは。잉어의発音は, ことばで説明するのは, むずかしいので, 鯉のことを朝鮮語でなんといえますかと近所のおばあさんにきいてください。동무 [tongmu] の場合は, 日本語にはいつてきて 동무 [tommu] のようになります。こういう発音をしては, 朝鮮語になりません。あくまでも 동무 [tongmu] です。

ㄹ [r] 子音ㄹは日本語のラ行音の [r] ですからみなさんにはむずかしくありません。この子音は, 歯ぐきの上の方に舌さきをたたきつけるようにくっつけて, はずすとできてくる音です。破裂音ㄹにちかい音ですがㄹのようにしっかりした閉鎖と破裂とがありません。単語の例をあげてみましょう。도라지 [toraci] これは朝鮮民謡にある

トラジ(花の名)のことです。朝鮮語では, このㄹ音は, 単語のはじめ, つまり語頭にくることはありません。ですから, ラジオという外来語を発音する場合, 라지오にならないで, 나지오 [nacio] となります。外国語からの借用語では語頭の r は n にとりかえられます。日本にすんでいる朝鮮人がリンゴのことをニンゴと発音するのはこうした朝鮮語の音声上のきまりにしたがっているわけなのです。また漢語のばあいは, 語頭の r 音をおとして, たとえば, 李<リイ>さんというとき, 朝鮮語風には r 音をおとして<イさん>とよびます。くわしく説明すれば, 母音 [i] と重母音 [ㄷㅌㅍㅍㅍ] の前ではゼロ化, つまりㄹ音は発音されないのです。そしてその母音以外の母音の前ではそれぞれㄹ音はㄴ音にして発音されるので (59ページへつづく)

		両唇音	前舌音	中舌音	後舌音	咽喉音
無 声 子 音	破裂音	ㅍ [p] ㅑ [p ^h] ㅓ [pp]	ㅌ [t] ㅕ [t ^h] ㅗ [tt]		ㅋ [k] ㅋ [k ^h] ㅋ [kk]	
	摩擦音			ㅈ [c] ㅊ [ch] ㅉ [cc]		
	摩擦音		ㅅ [s] ㅆ [ss]			ㅎ [h]
有 声 子 音	破裂音	ㅁ [m]	ㄴ [n]		ㅇ [ng]	
	はじ音		ㄹ [r]			

子音分類表一覽

※大蔵経とは釈迦の教理と仏教の全經典の總称で經、律、論の三藏を意味する。統藏にたいしてこれを正藏ともいう。

したがって正・統あわせて一万余卷の大蔵経が高麗の地において集大成されたわけで、これは仏教あっていろいろ、仏教經典とその註釈書にかんする世界最大の結集といわなければならぬ。

しかし、つねに侵略者は人類文化の敵である。義天の統藏経に集録された經文の一部は日本にも東大寺その他につたわっているが、朝鮮本国の正・統藏経の影板はもともと、一三二三年のモンゴル(元)の侵入のとき、すっかり焼失してしまい、いまはそれに集録された文獻の目録だけがのこっているが、これだけでも仏教哲学の研究上、大きな助けとなっている。この焼失後にふたたび大蔵経の刻板を完成したのが、はじめに紹介した海印寺の高麗大蔵経である。

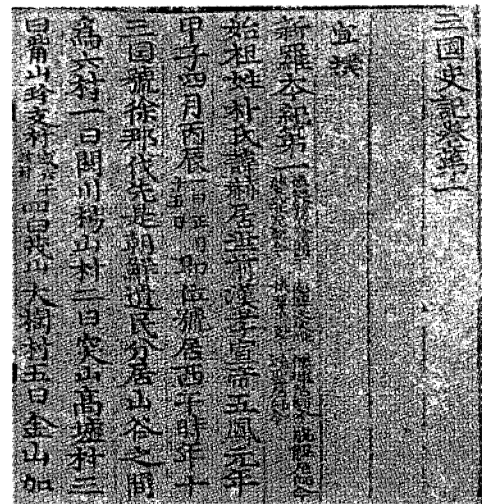
研究と文獻蒐集および出版事業に心血をかけたむけに義天は、過労がもとで借しくも志なかばにして四十七歳で世を去った。かれの著作としては『大覚国師集』の刻版がいま海印寺に保存されており、これは二十卷の文集と十三卷の外集からなっている。また『貞元新

訳華嚴經』五十卷、『円宗文類』二十卷などが著名である。

金富軾と『三国史記』

金富軾は義天より一世紀おくれ十二世紀の前半期に活躍した文武をかね備えた人で、朝鮮古代史の研究になくはならぬ『三国史記』を書いたすぐれた史学者である。かれは文名たかかった富僧の弟で一〇七五年に生まれ、肅宗(在位一〇九六—一一〇五)のとき、科擧に及第して官職につき、仁宗(一一二二—一一四六)のとき、科擧に及第して官職につき、

かれが中央の舞臺で活躍していたころ、高麗をめぐる内外の情勢は王朝の内部矛盾をいっそう露出させ、不安定な状態がつづいていた。北方にはハルピン付近を中心に女真族がおこって金という国をたてて契丹を滅亡させ、高麗にたいする圧力は日をおってつよまってきた。中央および地方封建と寺院による農莊の拡大および搾取の強化にともなう農民



三国史記の一部

ながるものである。つまりそこに流れるものは儒教的な尊王思想である。

仁宗がかれに歴史の編さんを命じた目的は、このような時代的背景のなかで朝鮮の過去の歴史を儒学的な観点から整理し、大義名分をあらかかにして高麗王朝の統治の基準をたてることであつた。したがって、金富軾が『三国史記』の序文で述べているように、大部分の両班たちが中国の四書五経、歴史などについては精通しながら、自国の歴史については無知であると、その事大主義的傾向に痛烈な批判をくわえたようなきわめて重要な肯定的側面をもちながらも、高麗王朝を補強するための理論的武器にするために、史実の取舍、評価に独善的な歪曲がみられる。

金富軾は新羅の滅亡にいたるまでの『三国史記』五十卷を一一四五年に完成したが、これにちそれ以前の史籍がほとんど消滅しているなかで、当時まで残っていた文獻を蒐集・整理して後世につたえた功績はきわめて大きく、朝鮮人民の貴重な遺産となっている。

歴史の編さん事業はすでに三国時代から活発におこなわれ、高句麗には『留記』一〇〇卷および李文真の『新集』(六〇〇年)、百濟には高興の『書記』(三七五年)、新羅には

居染夫の『国史』(五四五年)、崔致遠の『帝王年代歴』、『新羅殊異伝』、金大問の『高僧伝』、『花郎世記』その他、また『旧三国史』などがあり、金富軾もこれらの文獻に依拠したことはいうまでもないが、とくに『旧三国史』におおきく依拠している。

ところが金富軾のもつ儒学的史観からくくもろもろの欠陥・歪曲にたいする不満がとくに仏教学者の間に起こり、一二八〇年に一然禪師・見明によって『三国遺事』が著述された。これは史記において無視され、過少評価された部分をおぎない、仏教が三国にあたえた影響、民間伝説、古代文学の珠玉である郷歌など、貴重な資料を提供している。ともあれ、『三国史記』は『三国遺事』とともに、朝鮮古代研究のための最古の体系的な史籍であり、至宝である。

金富軾はこのほかに『仁宗実録』および二十卷の文集があるが、いま伝わらず、一一五一年に七十七歳の高令で世を去った。『三国史記』はそのごつづいて印刷して伝承され、これにちわれわれに悠久の祖国の歴史の根源をすることのできるかぎりない喜びとほこりをあたえてくれている。

(姜在彦)

スも有声化するのです。たとえば、**kamca** は、カムチャと発音しないでカムジャと発音するのです。もつと一般的にいえば、有声音と有声音とのあいだに**日**, **ㄷ**, **ㄴ**, **ㄹ** がくるときには、かならず有声化することになります。朝鮮語では有声音は母音と有声音音からなりたっています。

(金 礼 坤)

前回訂正

52頁右段下から4行、母音と子音→母音と母音に訂正します。

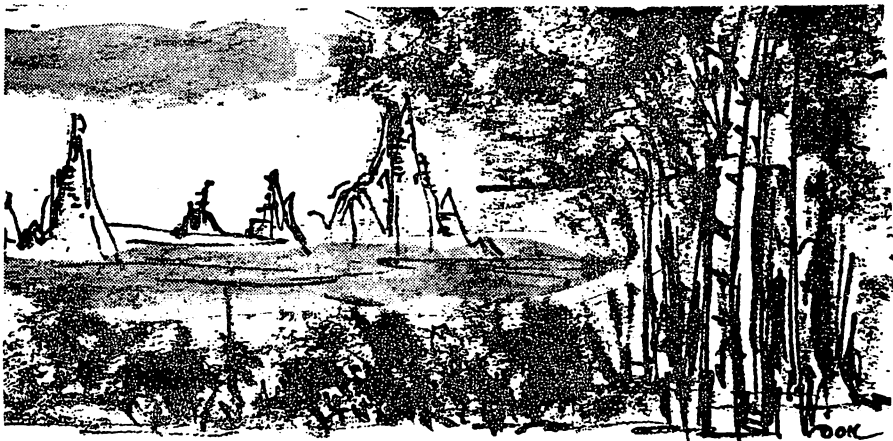
(46ページから) す。しかしつづるときはかならず**ㄹ**音をかきます。同様に漢語の〈理論〉は朝鮮語では、**리론**と書いて**이론**(iron)とよみます。

以上の子音口, **ㄴ**, **ㅇ**, **ㄹ**の四つは、まえにあげた無声子音に対立させて、かりに有聲子音と名づけておきます。これらの子音の特徴は、いかなるばあいでも有聲であるということですが

まえに母音にはさまると、**日**, **ㄷ**, **ㄴ**, **ㄹ**は有声化するといいましたが、この有聲子音のあとにくる**日**, **ㄷ**, **ㄴ**

新しい世代

6・7



南朝鮮で軍事ファッショ独裁を強化する米帝侵略者糾弾平壤市群衆大会でおこなった

金一オ一副首相の演説

南朝鮮人民へおくるスピール

アメリカ帝国主義の植民地支配の危機と
南朝鮮の軍事クーデター 編 集 部 18

世界の与論にみる南朝鮮軍事クーデター……編 集 部 24
南朝鮮の軍事クーデターに思う……寺 尾 五 郎 部 26

勝利の道をすすむ朝鮮総聯……朴 東 春 部 28
過去の不信と対立をなくす流れ……韓 桂 玉 部 32

わたしはこう思っている
平和統一の火は消せない……申 彰 部 36
あたりまえのこと……吳 修 義 部 37
統一を願う心はひとつ……金 君 子 部 38
あきれはてた話……姜 敏 植 部 38

世界に誇る本宮ピナロン工場……文 性 部 42
海州でのいくつかの話……柳 勝 煥 部 45
帰国した息子……朴 元 俊 部 50
四年前の思い出……村 山 知 義 部 72
朝鮮人民は六月二十五日を忘れない……編 集 部 40
詩 両断された臨津江……趙 碧 岩 部 49
歳時記 仲夏……許 南 麒 部 56
祖国映画紹介 六人の兄弟……徐 黙 部 55
短信……83 マンガ……54 本誌創刊一周年記念応募作品入選発表……86

歴講載

国語講座(5)……金 礼 坤 部 61
朝鮮の文学(李朝時代の詩歌)……安 宇 植 部 64
祖国めぐり(京畿道)……金 緑 陽 部 62

崔茂宣と文益漸(人物物語)……姜 在 彦 部 68
わがくにの名人たち(朝鮮史話)……裴 秉 斗 部 74
隊伍をまっつて(抗日パルチザン参加者の回想記)……許 昌 淑 部 78

国語講座

第五回

말 침 (終声)

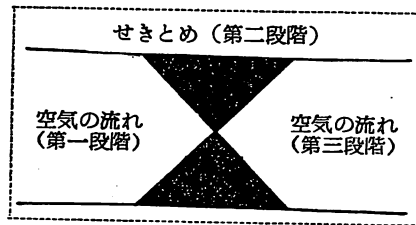
朝鮮語の音節にはつぎのような種類があります。

- A) 母音 이 [i] (齒)
- B) 子音+母音 ㅁ [kʰo] (鼻)
- C) 母音+子音 ㅓ [ot] (服)
- D) 子音+母音+子音 ㅃ [pap] (ごはん)

日本語の音節には母音だけのものと子音+母音のものとのふた種類があるだけです。ところが、朝鮮語には子音でおわる音節があって、朝鮮語の音節構造は、はるかに複雑なものになっているのです。日本語のカ行, ka, ki, ku, ke, koを発音するとき, a, i, u, e, oと母音でおわりますが, このような音節のことを開音節といい, tap, topのように子音でおわる音節のことを閉音節といいます。したがって, 日本語は開音節の言語だといえます。しかし, 朝鮮語は閉音節もあって, にぎやかです。にぎやかだけではなく, 日本語の発音になれているみなさんには, この閉音節の発音がやっかいなものなのです。なぜやっかいかという, 音節のおしまいにくる子音は終声(朝鮮語では받침 [patʰim]) といって, 音節のはじめにくる子音とは発音のしかたが少しちがっているからです。

まえに説明してあるように, 破裂音

のつくりかたは, 最初に口むろのなかのある部分に閉鎖をこしらえ, 空気がながれをストップさせます。そして, そのあとで閉鎖を急激にとりのぞくと, 空気がどっと流れでて, 雑音がつくられます。このような子音を破裂音とよぶのです。これを図でしめすとつぎのように三段階にわかれます。



空気の流れが障害物によってせきとめられると, そこてかるい音ができます。これを内バク音といいます。そして障害物がとりのぞかれると大きな音ができます。これを外バク音といいます。ふつう破裂音は内バク音と外バク音とからできていますが, 朝鮮語では音節のおわりにくる破裂音は内バク音だけで, 外バク音がありません。空気がせきとめられるだけです。音節のおしまいにくる破裂音は内バク音だけなのです。こうして, 音節のおしまいの破裂音は内バク音と外バク音とからなりたつ語頭や語中の破裂音とはちがって, 받침とよばれて, 区別されるのです。받침には, 第三の段階(外バクの

段階)が欠けています。

では閉音節, つまり받침をもつ単語の例を見ながら練習しましょう。

(1) ㅃ [p] この子音は四月号で説明したように両唇の破裂音です。この子音が받침, つまり終声になる単語の例をあげてみましょう。

입 [ip] (口), ㅃ [pap] (ごはん) さきの図で説明したように, 終声になる子音はそとにでていく空気がながれ(第三段階)が欠けています。ですから, おしまいの子音ㅃ [p]をだすときには, 単語のはじめにあるㅃ [p], 母音と母音とのあいだにあるㅃ [p]をだすときのように, くちびるをはずしてはいけません。日本語で一杯(イッパイ) [ip-pai] というときのip, つまりpaiをとりのぞいたときのipのpとほとんど同じです。

(2) ㅍ [pʰ] この子音もㅃ [p]音と同じ両唇破裂音です。ただし, ㅍ [pʰ]音が有気音であることにたいして, ㅃは無気音であるというちがいがあります。しかし, 先に説明したように, 받침になる子音はすべて内バク音ですから, 有気, 無気のちがいは問題になりません。したがって, 받침(終声)になるときのㅃとㅍとはまったくおなじく発音すればいいわけです。(では, なぜそれを同じ文字でかかないで区別するかということ, は, あとで説明しましょう。)

単語の例をあげましょう。

잎 [ipʰ] (葉)

짚 [cip] [jip] (わら)

※ㅍ [pp]音は終声になることがありません。

(3) ㄷ [t] この子音は, 四月号で説明してあるように, 前舌破裂音です。この音が終声にくるときには, 要領は前舌を終声の日を発音するときのように, 歯ぐきのうしろにくっつけたまま, はずさなければいいのです。そうすると, 空気の流れがとまってしまつて, かるい音ができるでしょう。やはり第三段階がかけています。ただ音のつくられる場所がちがうだけです。ㄷが終声になっている単語をおぼえましょう。

골 [kot] (すぐ) 骨董品 [kot-to-hin] のkot, つまりto-hinをとりのぞいた発音とほとんど同じです。

朝鮮語の終声は(行った)(買った)のような発音にあらわれてくる日本語の促音(つまる音)にきわめてちがいでいえるでしょう。

(4) ㅌ [tʰ] この子音も前舌破裂音です。この子音が終声にくると, 終声のㄷと同じ発音になります。空気をはきだすときにできる音, つまり外バク音が欠けていると, 気音化の現象がおこりえないのですから, 받침のㄷとㅌが同じ音になるのは, きわめて自然なことです。それでも, 받침のㄷとㅌとは書きわけなければならないのです。なぜそうしなければならないかということはあとで説明しましょう。ここでは例にあげる単語で練習してください。

말 [patʰ] → [pat] (畑)

밭 [pʰatʰ] → [pʰat] (あぜ)

※ㄷ [tt] この子音は받침になることがありません。

(5) ㄱ [k] この子音は, 舌のうしろの部分で軟口

蓋（口蓋の奥の方）にくっつけて空気のながれをいったんせきとめ、そのせきとめをすばやくとりのけるとできてくる音ですが、**ㅁ**型になる場合はせきとめだけでいいわけなのです。ですから、**ㅁ**型の日やㄹと同じように、空気が外に流れるときにできる外バク音が欠けています。日本語の学校[gak—ko]を発音するとき、gak[ガッ]だけでやめしまうとㄱの**ㅁ**型がでます。〈あの人はがく《学》がある〉というときの《学》ではありませんから気をつけてください。

ㅁ [pak] (姓名の朴), **ㅁ** [mak] (幕)
(6) **ㅋ** [kh] この子音はㄱの有気音ですから、**ㅁ**型の場合はㄱの発音と同じようになりま

す。
ㅍ [puök] (かまど)
(7) **ㅌ** [kk] この子音はㄱのつよい音です。**ㅌ**, **ㅍ**は**ㅁ**型にならないのですが、この**ㅌ**は**ㅁ**型になります。しかしこの**ㅌ**も**ㅁ**型にくると、**ㅋ**がㄱと同じ発音になるのと同じ理くつで、この音もㄱと同じ発音になります。

ㅌ [kkakta] (けずる)
ㅌ [yökta] (編む, 組む)
(8) **ㄴ** [m], **ㄹ** [n] さて、以上の外に朝鮮語の破裂音には、**ㄴ**, **ㄹ**があります。この鼻音化した破裂音も音節のおしまいにくると**ㅁ**型になって、外バク音がなくなります。ですから、発音のしかたは、**ㅁ**型の**ㄴ**は**ㅁ**型の**ㄴ**と同じだし、**ㄹ**は**ㄴ**の場合と同じですが、ただし空気が鼻むろにながれこむという点でちがっています。ハンマ [ham—

ma] を発音するときの最初の m の発音にちかいです。

ㅁ [pam] (夜), **ㅁ** [jam] (ねむり)
ㅁ [pan] (班) **ㅁ** [man] (万) 終声の **ㄴ** [n] は万年筆 [man—ne—hitju] の (万) manのnです。一万二万というときの (万) manのnではありません。

(6) **ㅅ** [s], **ㅆ** [ss] さて、理く**ㅅ** [c], **ㅆ** [tʰ] つどおりにゆくと、内バク音は破裂音にだけおこりうる現象ですが、気音**ㅅ**, **ㅆ**, 破裂音**ㅅ**, **ㅆ**が音節のおしまいにくる場合でも終声の現象がおこります。しかし、この場合は、すべて**ㄴ**の終声と同じように発音されます。厳密に言えば、音節のおしまいにくる**ㅅ**, **ㅆ**, **ㅅ**, **ㅆ**はすべて内バク音の**ㄴ** [t]に移行するわけです。

ㄴ [nat] (鎌), **ㄴ** [it—ta] (ある), **ㄴ** [jöt] (ちち), **ㄴ** [nat] (顔)

(10) **ㅎ** [h] この子音は語頭あるいは音節のはじめにあるときだけ発音され、終声にはなりません。ですが、綴字法（文字のかきかた）のうえでは終声になっています。これについてはあとで説明します。（ただひとつの例としてㅎという文字のなまえである**ㅎ**という単語があり、このときのㅎは終声**ㄴ**とおなじように**ㅎ** [hiit]と発音されます。

(11) **ㄹ** [r] 理くつどおりにおすと、この子音も破裂音ではありませんから、内バク音だけの**ㅁ**型の**ㄹ**はつくることはできないのです。ところが、この子音にも**ㅁ**型

があるのです。前に説明したように、朝鮮語の**ㄹ**の音のつくりかたは、前舌をはぐきの上の方にたたきつけなければいいのですが、音節のおしまにくるときは、この前舌をはぐきの上の方にくっつけたまま、はずしません。要領は終声の**ㄹ**, **ㄴ**, **ㄴ**とまったくおなじです。ですから**ㄹ** [r] の場合は、空気のながれがせきとめられないで、舌の両横のすきまから流れでます。このときでできる音が終声の**ㄹ**音なのです。説明ではなかなかわかりにくいと思います。あっさり英語の**ㄹ**音だといえればよくわかりでしょう。

ㅁ [bar] (足), **ㅁ** [mar] (馬)
(12) **ㅇ** [ng] この子音は**ㅁ**型のみつかわれる音で

す。そのことについてはまえの号で説明したので、特別にとりたてて説明する必要はないでしょう。

ㅁ型が単語のなかにある場合

〈熊がきた〉ということを朝鮮語では**곰이 왔다**といえます。日本語の主格助詞〈が〉のことを朝鮮語では**이** [i] という格助詞であらわし〈熊が〉を**곰이**とかけます。ふたつのまとまりにかき分けられていますから、kom—i コム—イと発音すればいいのではないかと思うのですが、そうしてはいけません。**곰이** [ko—mi] と発音しなければならぬのです。そうすると、こういうことがわかります。主格をつくる格助詞〈이〉がついていないとき、つまりはだかのときはkomのmは終声ですが、이がつくと、終声でなくなります。

また二字でできている漢語のばあいには、こんな現象がたくさんあります。たとえば、朝鮮語では〈学〉という字は〈학〉とよみ、〈友〉という字は〈우〉とよみます。二字をあわせて学友〈학우〉というとき、학と우とをきりはなしてhak—uとはよみません。ha—gu とよまなければならないのです。학のㅁは一字のばあいでは終声であっても、あとに母音ではじまる字がつづくとき終声ではなくなるのです。

まえに説明してあるように、音節のおしまいにくる音が終声になるわけですから、二音節の単語のばあいでも、まえにあげた子音が音節のおしまにくると**ㅁ**型は終声になるわけです。

たとえば, **사람** [Sa—Ram] (人) の第二音節のおしまいのmは終声です。**학교** [hak—kyo] (学校) の第一音節のㅁは**ㅁ**型(終声)になって、内バク音のkに発音されます。とめるという意味の動詞, **막다** [mak—ta] の第一音節のkも**ㅁ**型(終声)です。しかし動詞のような、変化する単語では、このmakのkが終声になったり、終声であることをやめたりします。たとえば, mak—Taを過去形にすると**막았다**となるのですが、このときはma—gat—taとなって、音節の構造に変化がおこりmakのkは終声であることをやめます。mak—at—taとよんではなりません。この単語の中の子音kは**막다** [mak—Ta]のときには第一音節のおしまにあるのですが, ma—gat—taになると第三音節のはじめにある音になります。終声ではありません。ですから、漢字の二字がくみあわさるばあい, (57ページへつづく)

歳時記

仲夏

許南麒

仲夏とは六月のことである。八月の八日が立秋にあたるので、その前日まで、すなわち五月、六月、七月が夏ということになり、六月はそのなかばということに仲夏というのだろう。

しかし、陽曆の六月では、まだ仲夏という感じではない。やはり、七月にならないと夏らしい気持ちになれないのではないか。

所用があつて、四、五日間、群馬県の前橋から桐生一帯を歩いてきたが、道の両側をはてしなくつつく桑畑を波打たせてわたる風の青さはなんともいえず旅愁をさそうものであつた。青あらしとはよくもいいえ得たと、しみじみ感心した。どこの国、どこの民族のことばにも、それぞれよさはあるものだ。そういえば、もうそろそろ桑の実が黒く熟する時期である。

橙(だいだい)の花が咲き、柚子(ゆず)の花が咲き、石榴(ざくろ)の花が咲き、くちなしの花が咲き、南天の花が咲き、あじさいの花が咲きそめる季節でもある。

田植えのはなしは、去年のこの月のくんだりであつたので、ここではふれないことにするが、自然は、この田植えをさかかめに急激にその舞台装置を変える。照明を変える。

いままでは萌黄(もえぎ)から、せいせい薄緑の域をでなかつた野や山が、にわかには増し、何十色もの濃い緑に変わる。野や山の緑を一色か二色ぐらいいにか考えないのは、自然を冒瀆するの最たるものといわざるを得ない。六月から七月にかけての野や山を、文具店の店先にならべてある小学生用のクレヨンやクレパスといっしょにしなないためにも、時間をつくつてリュックを肩に、歩きまわるべきであらう。

お母さん お聞きですか
あの黄昏のささやきを
森の木立に背はしるのび
小川のせせらぎもひとしお細りました
樹々も いまは折りのときです

矢となつて突進め
雲を分け霧を蹴つて

亀の甲羅のように沈む地の上を
かけれ 飛べ 突進め
そして負しい農民のために
雲をつのり空をくもらせよ
真逆さまに落ちては鐘のごとくもみあげ
雲をしたがえて大空にひるがえれ

岩つばめよ
かけりにかけれ
雲をつらぬき霧を蹴れ

これは、朴世永先生の、△岩つばめ▽という詩の終わりの部分である。
岩つばめのように、かけり、突進むために、夏は体をきたえよう。



岩つばめよ おまえ飛べ

お母さん お聞きですか
手を取り 耳澄ましてください
あの垣根の下の栗の木に
実の落ちる音がするでしょう
ことりと音たてて 地に落ちたのです
宇宙が新たな子を産んだという知らせです
ほんばりに燈を入れ
新客(にいきゃく)をわれら おごそかに
迎えましょう

これは七月に生まれた詩人趙明照(チョ・ミンヒ)の、△驚異▽という詩である。詩全体からすれば、当然秋の季節にはいるべきであらうが、第一聯のみずみずしさは、やはり六月から七月にかけてのものであろうし、また詩全体としても、自然に対する作者の謙虚な気持ちが一掃独特なういういしさをかもしだして、いつ読んでも心なごむものがある。

趙明照。一八九二年、忠清北道鎮川に生まる。ソウル中央高普(中学)を中退、一九一九年の三・一蜂起に参加、投獄さる。出獄後、渡日。東京の東洋大学哲学科に籍を置き、文学修業にそしむ。一九二三年に帰国時集△春の芝生の上で▽を上梓。のち、ゴリ

(あそこに 我が国が見える。)
백두산은 우리나라에서 가장 높은
[baedusanün—urinaraesö—kajang
(白頭山は—我が国で—もつとも—高山이다。)
—nop^hün—sanida]
い山だ。)
前回訂正 46ページの子音分類表中、下段のはじ音は、はじき音と訂正する。(金礼坤)

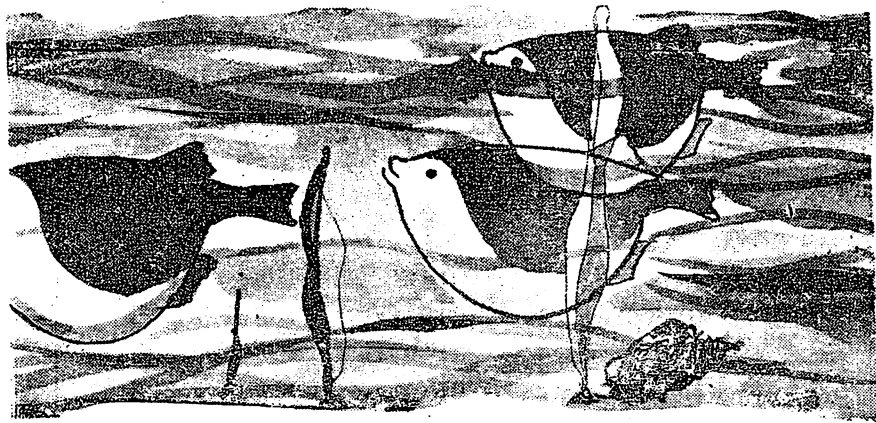
(58ページから) 助詞がつくばあい、動詞が変化するばあいなどのとき、終声はどのようにかわるか、この終声がつくばあいにつくばあいの子音にどんな影響をあたえるか、こういうことつを知っておかなければ、朝鮮語を正しく発音することができないのです。
では、文章をよみながら発音の練習をしましょう。
저기 우리나라가 보인다.
[jogi-urinaraga-boinda]

新しい世代

一九六一年八月一日発行(毎月)
昭和三十五年三月八日



8



朝鮮解放十六周年を迎えて
祖国の平和的統一のために……………金 宝鉉…………… 8

テロ旋風下の南朝鮮と
米日反動の新たな策動……………李 教舜…………… 12

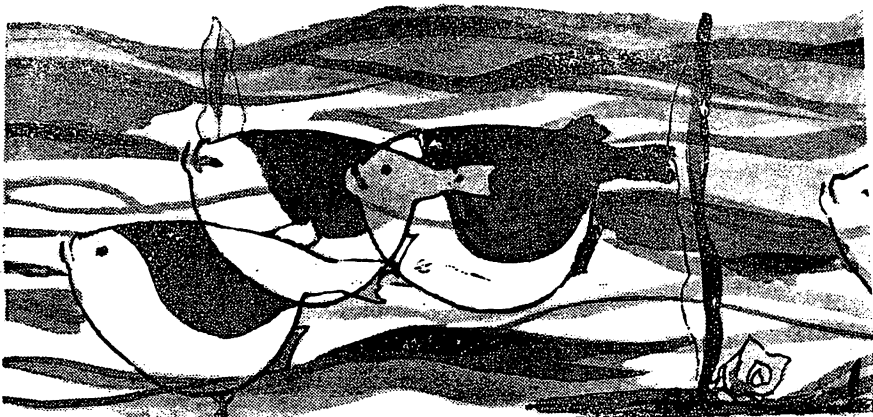
民団内部においても反クーデター、祖国の平和統一を願う運動が高まっている
民団の青年学生ら……………編集部…………… 18

軍事独裁を排撃……………編集部…………… 18
軍部独裁の排撃と在日同胞の統一運動促進を主張する在日青年学生各団体の声明…………… 20

千里の駒の勢いで建設される偉大な祖国は、なにによってもたらされたか
輝く革命伝統……………朴 容徹…………… 24

三五一高地(共和国英雄伝)……………朴 応竜…………… 28

心から笑えるぼくの過去……………李 根 栄…………… 36
明花オモニとわたし……………申 誠 子…………… 38



創立五周年をむかえた朝鮮大学
ほとばしる民族の誇り……………林 開雲…………… 40

朝鮮の人には、谷底から山頂によじ登るしつこさがある。私はそれに学ぶ
まっすぐさのためのしつこさ……………国分一太郎…………… 44

朝鮮民話 三年峠……………35 短 信……………82 読者のひろば……………86
朝鮮解放十六周年記念主要行事…………… 84

連載講座 国語講座(6)……………金 礼坤…………… 49
朝鮮の文学(李朝時代の文学 その二)……………安 宇植…………… 54

世宗と崔世珍 (人物物語)……………姜 在彦…………… 58

三国の統一を妨害
した唐と倭(朝鮮史話)……………裴 秉斗…………… 50

手記 祖国のふとこころに抱かれて二年……………金 永寿…………… 68

パルチザンの母(抗日パルチザン参加者の手記)……………白 鶴林…………… 62

写真特集 ある日の朝鮮大学 表紙写真 昨年共和国での体育祭典(宮森繁氏提供)

国語講座

第六回

動詞の活用 (その一)

まえの講座で説明してあるように、音節のおしまいにくる無声子音——日、ㄷ、ㄱの三種類は内爆音になります。(ㅁ, ㅂ, ㅅ, ㅇの四つの無声子音は音節のおしまいにくることはありません。つまり、終声にはならないのです。(※ㄱについては前号参照)

音節のおしまいにくと無声子音はどのような内爆音になるか、この観点から無声子音を分類すると、つぎのような表ができます。

	ㄷ	ㅁ	ㅂ	ㅅ	ㅇ		
日	}	ㅁ	ㅁ	ㅂ	ㄱ		
		ㅂ					
		ㅅ					
		ㅇ					
ㅁ	ㅂ	ㅅ	ㅇ	ㅁ	ㅂ	ㅅ	ㅇ

日とㅁとは、内爆音の日になるし、ㅁ, ㅂ, ㅅ, ㅁ, ㅂ, ㅅ, ㅇは、すべて内爆音のㅁになるのですから、おなじ内爆音をこんなにかきわける必要はないのではないかという疑問がおこります。たとえば、ㅁ [pat] のㅁも、ㅁ [nat] のㅁも、ともに内爆音のㅁ [t] ですから、ㅁ, ㅁとかかかないで、発音どおりにㅁ, ㅁとかけばよいのではないかという疑問がおこるわけです。ですが、[pat] という発音をㅁ, [nat] という発音をㅁとかくのはそ

れだけの理由があるわけです。この理由を動詞の活用とむすびつけて説明しましょう。

動詞といえば、ああ、それは動作をあらわしている単語のことだな、とかんがえるでしょう。そして、文章のいちばんおしまいにくる単語、つまり述語になる単語だと考えるでしょう。でも、動詞はかならずしも動作だけをあらわしているわけではないし、述語になるというのはたらきだけをもっているわけでもありません。けれども、いまはそういうものだと考えておいてください。

動詞は、文のおしまいにくるとき、いろいろかたちをかえます。たとえば日本語で、命令文をつくるときは、(はなす、きく、かく、よむ) という動詞を(はなせ、きけ、かけ、よめ) というぐあいにかたちをかえて、文のなかにいれるでしょう。ふつう、わたしたちは、このことを動詞の活用(あるいは変化)といっています。動詞が文のおしまいにくるとき、それは文をなりたせるために(文に完結性をあたえるために、つまりひとまとまりの考えをいいあらわすために)活用するので、その活用はいろんな観点からおこなわれ、複雑な体系をつくっています。たとえば、朝鮮語の動詞はムード(気もち)という観点から直接

法(のべたてるかたち)、命令法(いいつけるかたち)、勧誘法(さそいかけるかたち)、疑問法(としかけるかたち)などにかたちをかえますし、時間という観点からは、現在形、過去形、未来形などにかたちをかえます。ていねいさという観点から、朝鮮語の動詞がやっかいな活用をするということは、みなさんも話しにきくでしょう。

むずかしく規定するなら、動詞の活用によって、はなすことがらと現実との関係、はなし手ときき手との関係がはなし手のたちばからとりむすばれているのです。でも、そういうふうには、むずかしく考えなくても結構です。朝鮮語の動詞の活用の体系については、あとから説明することにして、まず活用のひとつひとつのばあいをとりあげることになります。この講座では、朝鮮語動詞は時間のたちばから、どんなふうに関係するか、説明します。

朝鮮語の字びきをひきますと、動詞の見だしは、가다, 오다, 자다, 걷다, 자다, 잠다のように一ㅁでおわるかたちをあげています。

このかたちは、つぎのように二つの部分からなりたっています。

가-ㅁ (行く)	걷-ㅁ (あるく)
[ka-da]	[köt-tta]
오-ㅁ (来る)	자-ㅁ (払う)
[o-da]	[kap-tta]
자-ㅁ (ねる)	잠-ㅁ (つかむ)
[ja-da]	[jap-tta]

まえの部分(語幹)といい、あとの部分を語尾(朝鮮語ではㅁ [tʰo] といいます)このような語幹に一ㅁという語尾がくっついているかたちは、朝鮮語文法では原形となづけています。い

まのところ、原形というのは、(字びきにでてくるもとのかたち)というふうに理解しておいてください。この原形は文のおしまいにくるとき、時間にしたがってつぎのように活用します。

ㅁ다 (見る) の活用

※ローマ字の下の・印はㅁ를を示す。

現在形	ㅁ다	[pon-da]
過去形	ㅁ었다	[po-at-tta]
先過去形	ㅁ었었다	[po-a-ssöt-tta]
未来形	ㅁ겠다	[po-get-tta]

この活用表をみると、時間をしめすために語幹と語尾とのあいだに—ㅁ—ㅁ—, —ㅁㅁ—, —ㅁㅁㅁ—, —ㅁㅁㅁ—のような小道具がさしこまれていることに気がつくでしょう。この小道具のことを、ここでは接尾辞と名づけておきます。

朝鮮語の動詞では、語幹と語尾とのあいだに、時間の接尾辞をさしこむことによって、動詞の時間のかたちができあがるわけです。

さて、動詞の時間というのは、はなししているときと動作との関係をしめしているのですが、では現在形とか、過去形とか、未来形とかは、どのような時間的な関係をしめしているか、すこしくわしく説明します。

A 現在形

まず第一に現在形は、はなしの瞬間におこなわれている動作(あるいは状態)をしめしています。つまり進行中の動作をしめすばあいは、現在形がつかわれるわけです。

나는 그가 학교에 간 줄
[nanün-küga-hakkyöe-kan-jur
(私は、彼が学校へ行ったことと

생각한다.

senggak handa

思う。

어머니는 평양에 있는 아들을
(ömöninün-p'yöngyange-innün-adürür

(母は 平壤に いる 息子(の)こと)

생각한다.

senggak handa

を思う。)

第二に、現在形は 習慣的な動作、
継続的な動作、くりかえしておこなわ
れる動作をしめします。

물방아가 힘차게 돈다.

(murbangaga-himc'age-tonda)

(水車が 力強く まわっている)

*낮말은 새가 듣고 밤말은

(nanmarün-sæga-tüt'kko--
pammarün

(昼の言葉は とりが きき 夜
の話は

쥐가 듣는다.

jiga-tünnünda)

ねずみがきく。)

* (壁に耳あり障子に眼ありの意味)

第三に、はなすときからみて、未来に
おこる動作をしめすことができます。

래일 귀국선이 떠난다.

(næir-kiguksöni-ttönanda)

(あす 帰国船が 出る。)

조국은 반드시 통일한다.

(jogugün-pandüsi-t'ongir
handa)

(祖国は かならず 統一 する。)

この現在形はだいたい日本語動詞の
(はなす、かく、よむ、あるく、はし
る、とぶ) のようなかたちとおなじよ
うにあつかわれます。

日本語では、(飛行機はあすの3時
にとぶ) というばあい、この(とぶ)
というかたちは未来をしめしているで
しょう。朝鮮語でも(비행기는 래일
세(3)시에 떠난다.) といひ現在
形をつかいます。けれども(鳥は空を
とぶ) というような文では、(とぶ)
は習慣的な動作をしめしています。朝
鮮語では、このよなばあいは、(새
는 하늘을 난다.) といひて現在形
がつかわれます。

つぎに、現在形のつくり方を説明し
ましょう。現在形をつくる接尾辞には
ㄷとㄴがあります。ㄷは語幹のおしま
いが母音であるばあいにつかわれ、ㄴ
は語幹のおしまいが子音であるばあい
につかわれます。

語幹が母音でおわる動詞

原形	現在形
오다[oda](くる)	온다[onda]
가다[kada](行く)	간다[kanda]
보다[poda](みる)	본다[ponda]
쓰다[ssüda](書く)	쓴다[ssünda]
주다[juda](与える)	준다[junda]

語幹が子音でおわる動詞

原形	現在形
잡다[kaptt]	잡는다
(払う)	[kamnünda]
먹다[möktta]	먹는다
(たべる)	[möngnünda]
견다[köttta]	견는다
(あるく)	[könnünda]
입다[iptta]	입는다
(着る)	[imnünda]

さて、みなさんには、語幹が子音で
おわるばあい、そのあとにㄷがつくと
語幹のおしまいの子音、したがって終
声はその発音位置に応じて、それぞれ
鼻音化していることに気づいたことで

しょう。終声(받침)의 ㄷ, ㅂは口に、
ㄷはㄴに、ㄱはㅇにうつつています。

つまり、朝鮮語では받침의 ㄷ, ㄴ,
ㄱのあとにㄴがつくと、発音の位置
をかえずに鼻音化してしまうのです。
語幹がㄷでおわるばあいは、語幹がㄱ
でおわるばあいとおなじくあつかえば
いいでしょう。なぜなら、받침의 ㄷは
받침의 ㄱとおなじだからです。たとえ
ば, 낫다[nak-tta], 낫는다[nang
-nün-da]

入, ㅂ, ㅅ, ㅈが받침にくれば, ㄴ
の内爆音になるのですから, 받침의 ㅂ,
ㅅ, ㅈのあとにㄴがつくと, こ
のばあいも받침はㄴになります。

잇다[it-tta]	잇는다
(つなぐ)	[in-nün-da]
맞다[mat-tta]	맞는다
(合う)	[man-nün-da]
쫓다[ccot-tta]	쫓는다
(追う)	[ccon-nün-da]

こういう音声変化の現象を子音同化
といいます。まだ、いろんなかたの子
音同化の現象がありますが、それにつ
いては、あとで説明します。

語幹がㅂでおわっている動詞は、現
在形をつくるばあい、このㅂをおとし
て、接尾辞ㄷをつけます。

잡다[kar-da]	→	잡는다[kan-da]
		(たがやす)
알다[ar-da]	→	안다[an-da]
		(知る)
밀다[mir-da]	→	민다[min-da]
		(押す)

ところで、前にあげた単語の例に、
쫓다を[ccot-ta] とかいて [ccot-
tta] と発音することにおきづきでし
ょう。無声子音である받침のあとに、無

声子音がつづくとき、받침はまえどおり、
받침であることにはかわりないのです
が、あとにつづく無声子音がよい音
からつよい音にうつります。つまり、
받침につづくよい無声子音 ㄷ, ㄴ,
ㄱ, ㅂ, ㅅはそれに対応するつよい無
声子音 ㅌ, ㄷ, ㅆ, ㅈにかわるわ
けです。

(例)

입다[ip-ta]	→	[ip-tta]	(着る)
막다[mak-ta]	→	[mak-tta]	(とめる)
잇다[it-ta]	→	[it-tta]	(つなぐ)
낮다[nat-ta]	→	[nat-tta]	(ひくい)
닫다[tat-ta]	→	[tat-tta]	(しめる)

では、つぎの文章で発音や動詞の現
在形のつかいかたを練習しましょう。

농민들은 논에서 일을 한다.
[nong min dürün-nonesö-irür-
handa]
(農民達は たんぼで 仕事を する)
로동자들은 공장에서 일을 한다.
[nodong ja dürün-kong jang esö
-jrür-handa]

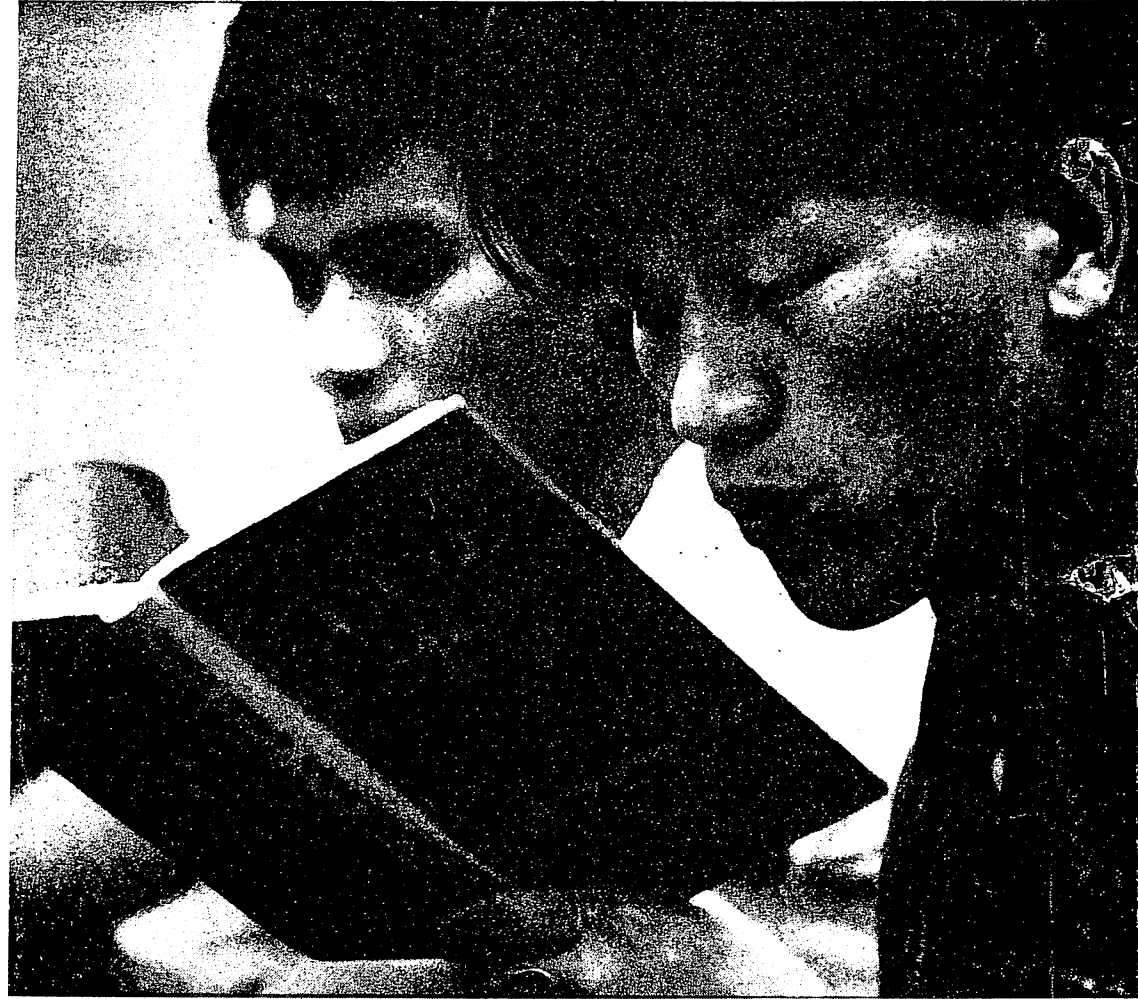
(労働者達は工場で仕事を する)
나는 조선어를 배운다.
[nanün-jo sö nöir-ür-pæunda]
(私は 朝鮮語を まなぶ)
아버지와 형님은 공장에 간다.
[aböjiwa-hyöng nimün-kong
jange-kanda]
(父と 兄は 工場へ行く)

(金 礼坤)

前回訂正 58ページ、右側下から4行
の(第三音節)は第二音節に訂正しま
す。

新しい世代

昭和二十六年七月五日



9

朝の朝 中国系約締結の真意と意義

朝鮮労働党第四回大会をむかえて

金慶喆 (8)

勝利と繁栄への偉大な歩み……………高昇孝 (14)

朝・日貿易正常化をめざす在日同胞商工人の力強い歩み
政見越えて祖国貿易推進……………李東琦 (19)

平和な未来のためにたたかっている日本と朝鮮の若人が一堂に会し、
ゆるぎない友情と連帯のトリデをつくった

花ひらく平和と友好の祭典……………朴赫女 (26)

「祖国は平和的に統一されなければならない」民団系文化人である氏はかく訴える
楽しい夢……………安道雲 (24)

共和国 実話集

共和国学生間の友情はどうなされているか

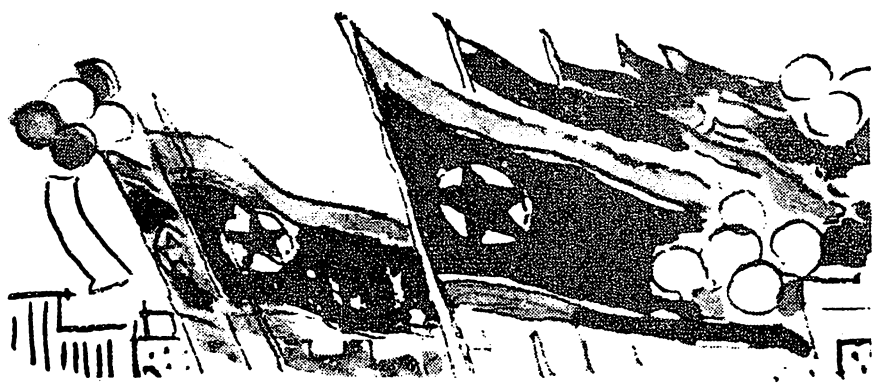
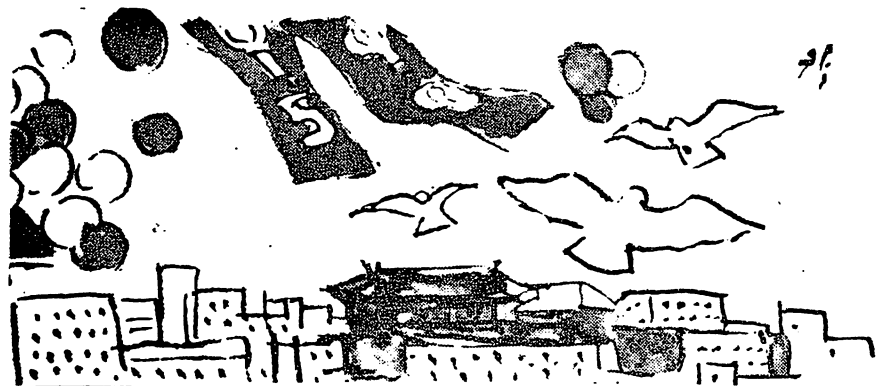
大学生 許宗洙 トナムの話……………姜元淑 (34)

金日成元帥と孤児である四人姉妹のあいだにむすばれた心暖まる物語

四人姉妹……………趙根元 (40)

吉羅美さんの胸に輝いた「千里馬」の徽章はどのようなとして勝ちとられたか

千里馬作業班長……………金成煥 (44)



— 関東大震災記念によせて —

でっかい盗まれたもの……………壺井繁治 (48)

朝鮮話 トンチ少年……………(32) 短 信……………(82) 読者のひろば……………(84)

編集部からのお願ひ・編集後記……………(86) マンガ紹介……………(71)

国語講座 (7)……………金礼坤 (57)

連載講座 朝鮮の文学 (李朝時代の文学 その三)……………安宇植 (62)

李カンと蔣英実 (人物物語)……………姜在彦 (58)

花郎の伝説 (朝鮮史話)……………李甲基 (50)

一九六二年度 共和国各大学新入学生募集要綱……………(72)

手習いの第一歩 (抗日パルチザン)……………呉白竜 (66)

写真特集 第二回朝・日親善祝典 表紙写真 抗日パルチザン回想記を読む青年 (山中剛にて)

カット 金昌徳、禹万石

国語講座

動詞の活用 その(二)

前の講座で、朝鮮語の動詞の過去のかたちには過去形と先過去形があるかいておきました。では、そのひとつひとつについて説明しましょう。

※**받**型になる \circ をこれまでは [ng] であらわしてきましたが、これからはそのかわりに、[D] をもちいることにします。

過去形

まず第一に、過去形ははなすときからみて、その瞬間よりもまえにおこなわれた動作をしめしています。では、その例をあげてみましょう。

나는 저 영화를 보았다.

[nanün-jö-yöDhwarür-poattta]
(私はあの映画を見た)

나는 큰 고기를 낚았다

[nanün-k^hün-Kogirür-nak-attta]
(私は大きな魚を釣った)

第二に、朝鮮語の動詞の過去形は、ある動作が現在は完了していても、その結果がのこっているばあい、その動作をしめすためにつかわれます。例をみましょう。

그녀는 흰 치마를 입었다.

[k^hünün-hüinc^himarür-iböttta]

(彼女)は白いスカートをはいている。

그녀는 방에 앉았다

[k^hünün-panDe-anjattta]

彼は部屋にすわっている

그는 좋은 신을 신었다.

[k^hünün-joün-Sinür-Sinöttta]

(彼は)よい靴をはいている

上の例では(はいた)(すわった)と訳さないで、(はいている)(すわっている)と訳しておきました。なぜそうしたかといえは、(はく)とか(すわる)とかいう動作はもうおわっしまっているのですが、その結果が現在もつづいているからです。むしろかしくいえば、朝鮮語の動詞の過去形は完了(perfect)の意味をもっているのです。この種の過去形の意味は、動作をしめしているというよりも、むしろ動作の結果うまれてきた状態をしめしているわけです。

過去形がこのような意味をもつことができるのは、つぎのような瞬間的におわる動作をしめしている動詞にかざられています。

서다 [söda] (たつ)

앉다 [antta] (すわる)

입다 [ipita] (着る)

신다 [sintta] (はく)

타다 [t^hada] (のる)

しかし、長さ(継続性あるいは反復性)をもつ動作をしめしているつぎのような動詞の過去形は、このような意味、つまり現在完了の意味をもつこと

ができません。

읽다 [iktta] (よむ)

쓰다 [ssüda] (かく)

놀다 [norda] (あそぶ)

자다 [jada] (ねる)

걸다 [köttta] (あるく)

では、過去形のつくり方を説明しましょう。まえに説明してあるように、朝鮮語の動詞の原形は語幹と語尾からなりたっているのですが、それが過去になる時は、語幹と語尾との間に接尾辞 [öt] と [öt] とをさしこみます。過去形をつくる接尾辞には [öt] と [at] の二種類があるのですが、そのつかいわけはきわめてかんたんです。語幹のおしまいの音節にト[a]あるいは上[o]があれば、過去の接尾辞は [at] になります。ではいくつかの動詞を過去形につくってみましょう。

原形	過去形
받다 (もらう)	받-았-다
[pat-ta]	[pat-at-ta]
잡다 (払う)	잡-았-다
[kap-ta]	[kap-at-ta]
보다 (見る)	보-았-다(봤다)
[po-ta]	[po-at-ta]
놀다 (あそぶ)	놀-았-다
[nor-ta]	[nor-at-ta]
そのほかのばあいは、すべて [öt] をつかいます。	
먹다 (たべる)	먹-었-다
[mök-ta]	[mök-öt-ta]
걸다 (かける)	걸-었-다
[kör-ta]	[kör-öt-ta]
주다 (やる)	주-었-다
[ju-ta]	[ju-öt-ta]
불다 (吹く)	불-었-다

[pur-ta] [pur-öt-ta]

심다 (植える) 심-었-다

[sim-ta] [sim-öt-ta]

열다 (あける) 열-었-다

[yör-ta] [yör-öt-ta]

거들다 (てつだう) 거들-었-다

[ködür-ta] [ködür-öt-ta]

※ローマ字で <ködür-öt-ta> とかいて、横線で動詞のつくりを分解しておきましたが、これは音節のきれめをしめたものではありません。ですから、よむときは <kö-dü-röt-ta> というふうに発音してください。

しかし、このきまりも二つの例外があつて、こわされます。その一つは、語幹の母音と接尾辞の母音とが同じであるばあいです。このばあい、二つの母音は一つの母音にとけあつてしまいます。たとえば、가다 [kada] (行く) という動詞は、まえにあげた [at] にしたがえは、가-았-다 [ka-at-ta] とならなければならないところが、ト[a]という音がトトと二つならびますので、それがとけあつて、その二つのトが一つになり、갔다 [kat-tta] になるのです。つぎのような動詞はこのグループにはいるものです。

서다 (たつ) 서-었-다 → 섰다

[soda] [sö-öt-ta] [söttta]

자다 (ねる) 자-았-다 → 잤다

[jada] [ja-at-ta] [jattta]

もう一つは、動詞語幹が [i], [æ], [e], [ë], [i], [i], でおわっているばあいです。[i], [æ], [e], [ë], [i] は文字のかきかた(正書法)の上からみると、そこにはすべて [i] があるでしょう。(文字のかきかたについては二回目の講座で説明して

ありますからそれをもう一度みて下さい。)これらの母音あるいは重母音のあとに接尾辞の^ㄹ[ot]がくつくと、そのあいだにわたりの母音である] [y]つまり、みじかい [i] がはいりこむのです。例をあげましょう。

기다 [kida] (はう)

기-였-다 → 기-였-다
[ki-öt-ta] [kiyöt-ta]

매다 [mäda] (むすぶ)

매-였-다 → 매-였-다 (였다)
[mä-öt-ta] [mä-yöt-ta]

깨다 [käda] (たたむ)

깨-였-다 → 깨-였-다 (졌다)
[kä-öt-ta] [kä-yöt-ta]

되다 [tëda] (なる)

되-였-다 → 되-였-다 (났다)
[të-öt-ta] [të-yöt-ta]

쥐다 [jida] (にぎる)

쥐-였-다 → 쥐-였-다
[ji-öt-ta] [ji-yöt-ta]

ところで(する)という意味の動詞 하다 [hada] は、まったく風がわりな過去形をもっています。まえに説明したきまりにしたがえば、하다の過去形は하-였-다-했-다になりそうにおもえるのですが、하였다 [hayötta]あるいは했다 [hættta]になります。朝鮮語のならいかけの人が하다の過去形を했다などとまちがえてつかっているかたをよくみかけますが、みなさんはこのようなまちがいがおこらないようにりくつぬきにおぼえてください。

先過去形

まえに説明してあるように、過去形は過去の動作の結果うまれてきた現在の状態をもしめすことができます。と

ころが先過去形は、動作の結果うまれてきた過去の状態をしめします。たとえば, 그는 회칙마를 읽었다.のとき (읽었다)を日本語に訳するとき(きている)としましたが(읽다)という動詞を先過去形にかえると(읽였었다)となり、日本語には(きていた)と訳さなければなりません。このように過去形と先過去形とのちがいはちょうど日本語の(きている)と(きていた)とのちがいのようなものです。

さらに、先過去形は、過去におこなわれたほかの動作、それに先行する動作をしめすためにもちいられます。つまり、先過去形でしめされる動作はほかにいろいろおこなわれた動作よりもまえににおこなわれているものなのです。こういうところから、先過去はその意味が回想的です。

1) 動作より先行しているばあい

그 때는 일곱시가 넘었었다.
[kü-ttænün-irgopsiga-nömö-ssöt-tta]

(その時は 七時を すぎていた)

2) 回想的なばあい

그 날은 비가 왔었다.
[kü-narün-piga-wat-ssöt-tta]

(その日は 雨が ふっていた)

先過去形のつくり方は、語幹と語根とのあいだに接尾辞^았였,あるいは^었였을をさしこめばいいわけです。^았였, ^었였, ^았였을のいずれをどうつかいわけするかは、過去形の接尾辞^았였, ^었였, のつかいわけとまったくおなじです。ではいくつかの動詞の原形を過去形、先過去形につくりかえて見ましょう。

原形 보다 [poda] (見る)

過去形 보-았-다 [po-at-ta]

先過去形 보-았-었-다 [po-atöt-ta]

原形 있다 [ittta] (ある)

過去形 있-었-다 [it-öt-ta]

先過去形 있-었-었-다 [it-ötöt-ta]

原形 배다 [peda] (きる)

過去形 배-였-다 [pe-yöt-ta]

先過去 배-였-었-다 [pe-yötöt-ta]

未来形

未来形は、はなす時からみて、あとになっておこなわれる動作をしめします。

나는 매일 학교에 가겠다
[nanün-næir-hakkyoe-kagettta]

(私は あす 学校へ 行く)

나는 기차를 타겠다
[nanün-kic-arür-ttagettta]

(私は 汽車に のる)

この例でわかるように、未来形をつくるのには、語幹と語尾とのあいだに^겠ketをさしこめばいいのです。

前の号で説明してあるように、朝鮮語では、ふつう未来の動作をあらわすためには現在形がつかわれるのですが、そのうえに未来形があるとすれば、おかしいことになります。実は、朝鮮語の動詞の未来形というのは、かならずしも未来の動作をしめしているとはいえないのです。というのは、未来の接尾辞^겠ketは、つぎの表のように、過去形や先過去形のなかにもあらわれて予想、推量、意志、蓋然性の意味をもっています。

このことは、ちょうど日本語の(…だろう)や(…そうだ)という助動詞にちかいです。(彼はあす学校に

行くだろう)といえ、たしかに未来の意味をしめしているのですが(彼はきのう学校に行っただろう)といえるのですから、助動詞(だろう)が時間をしめす手つづきだとはいえません。

原形に ^겠 がつく場合	보겠다
過去形に ^겠 がつく場合	보았겠다
先過去形に ^겠 がつく場合	보았었겠다

あきらかに(だろう)ははなし手の気持ちをしめしているのです。はっきり判断をくだせないばあいに、はなし手は(だろう)をつけるのです。

朝鮮語の^겠という接尾辞もだいたい日本語の(…だろう)や(…そうだ)にちか意味をもっているのです。かならずしも時間をしめすものとはいえません。^겠[ket]はむしろ推量法をつくる接尾辞といった方がいいでしょう。例文を見ましょう。

구름을 보니 비가 오겠다
[kurümür-poni-piga-ogettta]

雲を見ると 雨が ふりそう
저 나무 그늘은 시원하겠다
[jö-namu-künürün-siwön-hagettta]

(あの 木かげは ずずしそうだ)したがって、原形に^겠のついたかたちは現在の推量法、過去形に^겠のついたかたちは過去の推量法、先過去形に^겠のついたかたちは先過去の推量法とみなして、直説法に対立させることもできます。では直説法とはなにか、それについてはつぎの講座で説明します。(金 礼坤)

新しい世代



昭和三十三年九月一日発行（第二種郵便物認可）

新しい世代

九月号

（第五卷第七号）

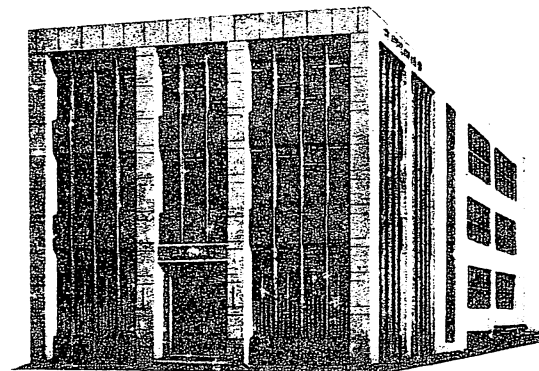
定価

五十円

（送料六円）

共信ビル建設出資増強月間

出資金 目標 6千万円(7月1日～9月30日)

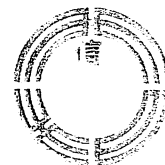


(共信ビル完成想像図)

★ 同胞はみな組合員になりましょう

★ みんなで預けて明るく暮らし

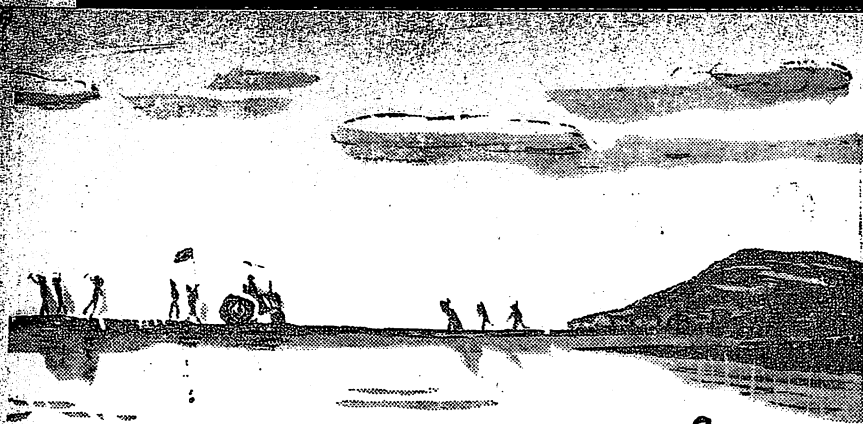
- 1 建設地 神戸市長田区御蔵通5の4（現在地）
敷地坪数 約100坪
- 2 建物 鉄骨、鉄筋コンクリート造り、地下1階
地上3階、坪数延 350坪
- 3 総工費（概算） 4千万円
- 4 工期 6ヶ月（1961・10 着工—1962・4 竣工）



共和信用組合

- 本店 神戸市長田町御蔵通5の4
電話 (5) 6067・9834 (6) 0838
- 三ノ宮支店 神戸市生田区阪急高架下二階7
電話 (3) 7637～8・3551
- 尼崎支店 尼崎市昭和通り7の266
電話 大阪 (48) 313・2421
- 姫路支店 姫路市十二所前38
電話 姫路 4626・6259
- 西宮支店 西宮市池田町34
電話 西宮 (2) 6297

A. 101



新しい世代 十月号 目次 (第二巻 第八号)

祖國の平和的統一のために

朝鮮労働党第四回大会宣言

朝鮮労働党第四回大会日誌…………… 編集部編…………… (15)

平和統一一任殺にうごめく米帝国主義…………… 韓桂玉…………… (19)

南朝鮮の軍事政権に思う…………… 松本清張…………… (34)

民族日報幹部に死刑の判決があったがそれをだまってみていられない

信川をたずねて…………… 曹良奎…………… (24)

朝鮮をもっと知りたい…………… 黄重次…………… (28)

土をふむ感激…………… 李富子…………… (30)

東京朝高蹴球部遠征随記…………… 朴志亨…………… (38)

西日本、九州各地で日本高校選抜軍との朝・日親善サッカー試合をみる

連載マンガ 青春日記…………… 全哲…………… (37)

読者のひろば

対馬の人々…………… 敏君子…………… (64) 青年学校と私…………… 金文子…………… (36)

朝鮮人も人間だ…………… 鄭静子…………… (64) 「不屈のうた」を読んで…………… 川島みどり…………… (65)

本名を名乗る…………… 末秋湖…………… (65) 人類の一人として抗議する…………… 李泰鎭…………… (66)

朝鮮学校生徒文集

朝鮮人であるということ…………… 朴順姬…………… (60) 朝鮮学校にはいって…………… 権桂子…………… (66)

詩・父の失敗…………… 崔憲英…………… (61) 詩・わたしの祖國…………… 金和子…………… (60)

新刊良書紹介・キューバ、コンゴ、ガーナの指導者を知る本

国語講座 (8) (動詞)

朝鮮の文学 (一 李朝時代の劇文)…………… 安宇植…………… (45)

朴堦と姜希顔 (人物物語)…………… 姜在彦…………… (50)

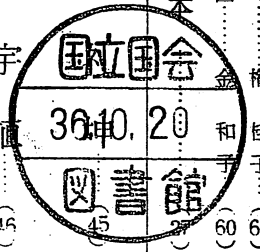
剣君 (朝鮮史話)…………… 李甲基…………… (54)

折れた銃…………… 抗日バルチザン参加者の回想…………… 崔洸…………… (67)

筆随 千里の駒…………… 李箕永…………… (72)

写真特集 願いはひとつ

カット 禹万石



国語講座

動詞の活用 (その 三)

前回は、朝鮮語の動詞が文のおわりにくるとき、時間の観点から、どのように活用するかということについて説明しました。さらに、動詞は法(きもち)という観点からいくつかの形に変化しますが、その法(きもち)の作りかたと使いかたについてこれから説明します。

朝鮮語の動詞が文のおわりにくるとき、話し手のきもちから、ことがらをどのようにとらえるかということによって、①直説法(述べたてる形)、②疑問法(問いかける形)、③命令法(いいつける形)、④勧誘法(さそいかける形)の四つにつかいはわけています。では、そのひとつひとつについて説明しましょう。

1) 直説法

直説法は、話し手が、ことがらをありのままみとめて、述べたてる形です。そして、前号で勉強した動詞の現在、過去、未来の形が直説法なのです。つまり、動詞の時間というのは、直説法のなかに典型的にあらわれてくるのであって、時間と法(きもち)というものは、実際にははなれてはありえないのです。直説法の作り方については、まえに説明しました。もう一度、直説法の例をみましょう。

直説法のかたち 먹다 (たべる)

現在	過去	先過去	未来
먹-는다	먹-었다	먹-었었다	먹-겠다

2) 疑問法

疑問法は文字どおり話し手が、ことがらがどうであるか、相手に問いかけるかたちです。疑問法の作りかたは、現在形のばあいは、語幹に^ㅓをつけませんが、過去、先過去、未来のばあいは時間をあらわす接尾辞のあとに^ㅓをつけます。^ㅓのかわりに^ㅓという接尾辞をつけてもおなじ疑問法ができますが、このばあいはいくらかきこえがやわらかくなります。では、つぎの表で直説法と疑問法をみくらべながら、疑問法の作りかたを身につけてください。

時間	먹다の直説法	먹다の疑問法
現在	먹-는다	먹-(느)냐
過去	먹-었다	먹-었(느)냐
先過去	먹-었었다	먹-었었(느)냐
未来	먹-겠다	먹-겠(느)냐

3) 命令法

命令法は、話し手が相手に動作をいいつける形です。その作りかたは、語幹が母音でおわっている場合は^ㅏ, 語幹が子音でおわっている場合は^ㅑあるいは^ㅓをその語幹のあとにつけ

ます。この命令法は、直説法のように、時間にしたがって、過去、先過去、未来というふうにわかれています。ちょっと考えればその理由がわかります。命令する以上、文で述べられていることがらは未来にきています。

語幹が母音でおわっている動詞	語幹が子音でおわっている動詞
가-라 (行け)	잡-아라 (つかめ)
보-라 (見よ)	걸-어라 (あるけ)

4) 勧誘法

勧誘法は、話し手が相手にさそいかける形です。勧誘法も命令法のように過去、先過去、未来などの形はありません。作りかたは、動詞の語幹に^ㅓをつけます。

먹-ㅓ (たべよう)
가-ㅓ (行こう)
보-ㅓ (見よう)

さて、以上述べたように朝鮮語の動詞は、時間と法にしたがって活用するわけですが、これで活用の体系の全部をとらえたわけではありません。みなさんごぞんじのように、朝鮮語の動詞は、階称(テイネイサ)という観点から活用していて、わたしたちはだれにはなすかということにしたがって動詞の語尾を変化させなければならないのです。説明をわかりやすくするために、いままではこのことを無視してきました。実際には、述語になる動詞の形は、それぞれ時間と法と階称との意味をかねそなえています。ですから、階称をひとまず勉強しておかなければ動詞をつかうことができません。

朝鮮語の動詞は、階称という観点か

らつぎの5つの形に活用します。①尊敬したいいいかた、②ていねいといいかた、③したしみのあるいいかた、④えんりよのないいいかた、⑤らんぼうないいいかた。

話しというものは、かならず相手がいいて、なりたつのですが、階称(テイネイサ)というのは、その相手にたいする話し手の態度をあらわしています。この話し手の態度は、社会的な身分関係、家族関係やそのときの感情などによってまぎります。

つぎに階称を使いわける規準をだいたい説明しておきましょう。

第一の形 尊敬したいいいかた

この形は、聞き手が話し手より目上の人に(子供が大人に、わかいものがとしよりに、社会的地位のひくい人がにたかい人に)対して、あるいは特別尊敬しなければならない相手に対して使われます。

第二の形 ていねいといいかた

聞き手が話し手より少し目上のばあいは、あるいはあまりしたしくないあいだで使われます。

第三の形 したしみのあるいいかた

この形は、聞き手とはなし手との関係がほとんど対等なばあいに、あるいははしたしいあいだから使われます。

第四の形 遠慮のないいいかた

聞き手が話し手より目下のばあいは(大人が子供に、年上の人年下の人に対して)使われます。

第五の形 らんぼうないいいかた

話し手と聞き手とのあいだからごく親しいばあいや、子供どうしのあいだで使われます。しかし、大人の会話でこれを使うと、相手を軽蔑したいい

かたにもなることがあります。では、その5つの階称が4つの法とどのようにくみあわさるかみてみましょう。

1) 直説法

まえに説明してあるように、朝鮮語の動詞は階称の観点(テイネイサ)から5つの形があるわけですから、直説法の現在や過去、先過去、未来は、それぞれ5つの形があるわけです。それを表でしめします。

A) 直説法の現在

第一	第二	第三	第四	第五
ㅂ니다	(으)오	네	니다	아
습니다	소	베	니다	어

第四のかたちは語幹に時間をあらわす現在の接尾辞のあとに다가ついていますが、そのほかのものはすべて語幹のあとに直接つけて作ります。たとえば(来る)という動詞の오다は直説法現在では第一、第二、第三、と第五のかたちは現在をしめす接尾辞がかけています。

- (例) 학교에 갑니다.
(学校へ 行きます.)
길을 걷습니다.
(道を あるきます.)
학교에 간다.
(学校へ 行く.)

ㅂ니다と습니다, 니다と는다の使いわけかたは、発音上の問題で、語幹が子音でおわっているか、母音でおわっているかのちがいです。

B) 直接法の過去

第一	第二	第三	第四	第五
았습니다	았소	았네	았다	았어

表でわかるように直接法過去の接尾辞のあとに第一、第二……のかたちを作る語尾をつければいいのです。

- (例) 영화를 보았습니다.
(映画を みました.)
영화를 보았다.
(映画を みた.)

C) 直説法の先過去

第一	第二	第三	第四	第五
있었습니다	있었습니다	있었습니다	있었습니다	있었습니다

- (例) 저가 갔을 때는 벌써 고기를 다섯(5)마리나 낚았습니다.
(私が 行った 時は すでに 魚を 5匹も 釣っていました.)

- 고기를 낚았습니다.
(魚を 釣っていた.)

この形も、直接法過去の形を作るばあいとおなじように、時間をしめす過去の接尾辞のあとに、階称をしめす語尾をくっつけます。

D) 直説法の未来

第一	第二	第三	第四	第五
겠습니다	겠소	겠네	겠다	겠어

- (例) 열(10)시에 가겠습니다.
(10時に行きます.)
일곱(7)시에 가겠다.
(7時に行く.)

2) 疑問法

疑問法のばあいも、直説法のばあいとおなじく現在や過去、先過去、未来があつて、それらは階称の観点から5つのかたちにわかれます。

A) 疑問法の現在

第一	第二	第三	第四	第五
(으)ㅂ니까	(으)오	는가	(느)냐	아
습니까	소	는가	(느)냐	어

- (例) 학교에 갑니까?
(学校へ 行きますか?)
학교에 가느냐?
(学校へ 行くか?)

疑問法の現在形も、直説法の現在とおなじように語幹に階称の語尾をつけて使います。

B) 疑問法の過去

第一	第二	第三	第四	第五
갔습니까	갔소	갔는가	(느)냐	어

- (例) 어제 학교에 갔습니까?
(昨日 学校へ 行きましたか?)
근년은 바다에 갔나?
(今年は 海へ 行ったか?)

C) 疑問法の先過去

第一	第二	第三	第四	第五
있었습니다	있었습니다	있었습니다	(느)냐	었어

- (例) 어제 학교에 갔습니까?
(昨日 学校へ 行きましたか?)
근년은 바다에 갔나?
(今年は 海へ 行ったか?)

D) 疑問法の未来

第一	第二	第三	第四	第五
겠습니까	겠소	겠는가	겠다	겠어

- (例) 래일 학교에 가겠습니까?
(あす 学校へ 行きますか?)
래일 바다에 가겠나?

(あす 海へ 行くか?)

疑問法の過去や先過去、未来の形も直接法の過去や先過去を、未来の形とおなじように、それぞれ時間をあらわす接尾辞のあとに階称(テイネイサ)の語尾がつけられています。

3) 命令法

まえにも説明したように命令法には直説法や疑問法のように過去、先過去未来などはありません。ただ階称(テイネイサ)のちがいがあるのみです。

第一	第二	第三	第四	第五
(으)십시오	(으)오	게	타	아
	소		(아)타	어

- (例) 자동차를 타십시오.
(自動車に のりなさい)
자전거를 타라
(自転車に のれ)

4) 勧誘法

勧誘法も命令法のように過去、先過去、未来などはありません。

第一	第二	第三	第四	第五
(으)십시오	(으)오	(으)세	자	아
시다	십시오			

- (例) 기차를 타십시오.
(汽車に のりましょう)
조선어를 열심히 배우자
(朝鮮語を 熱心に 学ぼう)

さて、これで階称という勸点からのかたちについての勉強は一応おわったわけですが、この階称(テイネイサ)の形を勉強しているうちに、まえに法についての説明であげた例をよくみますと、すべて階称の第四の形であることにおきずきでしょう。

話し手が常に相手を考慮して話すのは、談話においてです。だが文章のば

あいでは潜在的には相手がいるといえるのですが、ちよくせつ目の前にいるわけではありません。ですから、文章では階称は必要でなくなります。そして文章では、階称という観点からは中性になった第四の形がもちいられます。そういうことで、第四のかたちは論文や新聞などをよむためにたいせつなのです。時間と法の説明のときに第四の形をもちいたのは、このような理由によります。ですが、おなじ文章であっても手紙や演説では会話とおなじように階称が問題になります。きき手よみ手のことを考ずに、客観的に描写

するとき、第四の形がもちいられるとおぼえておいてください。
階称をもう一度わかりやすく説明すれば、第四の形は日本語の文章につかわれる、だ、である体にちかいいかたであって、第一の形に日本語の、です、ます体であるといえます。さしあたっては、みなさんは会話の時には第一の形をもちい、文章では第四の形をもちいるといいいのですから、第一の形と第四の形をよくおぼえてください。
ではこれまで勉強してきたすべてのかたちを表にまとめておきます。

動詞活用の一覧表

法 時 間 語 幹 テ イ ネ サ	直 接 法			疑 問 法			命 令 法	勸 誘 法
	現 在	過 去	未 来	現 在	過 去	未 来		
第 一	가 받	받 습 니다	왔 습 니 까	(으) 받 니 까	왔 습 니 까	겠 습 니 까	(으) 시 오	(으) 습 시 다
第 二	가 받	(으) 소	왔 소	(으) 소	왔 소	겠 소	(으) 오 소	(으) 받 시 다
第 三	가 받	네	왔 네	는 가	왔 는 가	겠 는 가	계	(으) 세
第 四	가 받	나 다	왔 다	나 (느) 냐	왔 - 나 (느) 냐	겠 - 나 (느) 냐	(아) (어)	자
第 五	가 받	아 어	왔 어	아	왔 어	겠 어	아	아 어

※ この表では先過去のばあいは、時間をあらず過去のかたちにくっつけられる階称(テイネイサ)の語尾と同じなので、ここでははぶきました。

◇前回訂正

- 57 P 右上から 1 行 panTe を pa~e
- 56 P 右上から 12 行 왔 [öt] → 왔 [at]
- 55 P 左上から 3 行 왔 [ot] → 왔 [öt]
- 55 P 左上から 19 行 왔다 [jida] → 왔다 [jida]
- 55 P 右下から 14 行 回想的なあい → なばあい

(金 礼坤)

た。まず一点は、二十三分や前よりの高石準のパスを田成培がシュートして先行、おしきみに試合はすすめられた。しかし相手も九州男子の面目と十五日間の合宿訓練の成果を生かして両ヴィングを走らせるなど善戦したが、朝高バックの好守にはばまれ得点できず、前半は終わった。後半、朝高の出足はますます好調で二十分、フアードセンター田成培、高石準とわたり高石準シュートして二点、三点目は九州選抜ゴールキーパーの送り球を田成培のロングシュートが成功して、四点目は高石準からのパスを田成培が蹴りこんで連続的に得点をつみ、五点目は中央からの好球が田成培にわたりロングシュートが決まって大勢を決した。大量得点にすっかり気おちした九州選抜軍はゼロ敗するかと思われたが、朝高ゴールキーパーのドリブルミスをフアードセンターが蹴りこんで一矢をむくいた

朝高 5 3 0
2 1 1
1 高 東 京 城 北
校 北

三十一日、国体東京代表にえらばれた城北高校を一方的にくだいた。まず前半十四分、中央からのパスを高石準が決め、十分にも左ヴィングのセンターリングを高石準がシュエ

トして二点を先取して前半を終えた。後半になって実力の差はますますはっきりし、五分、右からのパスを田成培が決め、十分にも相手の反則によるフリーキックを右ヴィングが決めて大勢を決した。ボールはほとんど城北側にくぎづけにされたかたちで、防備に全力をふりむけるありさまだった。
城北の一点は朝高ゴールキーパーのドリブルミスをフアードセンターが決めてわずかにゼロをまぬがれた。
こうして日本の高校との試合で東京朝高チームは圧倒的勝利をおさめた。しかし、欠点はボールの持ちすぎ、バスの悪さ、トラッピングの未熟さなど、こんごなおしてゆかねばならない点が多々ある。こういう欠点をもちながらもこのような好成绩をおさめた大きな原因の一つとして、遠征中一日も欠かさず抗日パルチザン闘士の回想記を読みつづけたら、各自がその精神でもって試合にのぞんだことをあげることができよう。先輩の長所を学び、短所の指摘をすなおにうけとめる態度も高校生らしく、朝鮮民族としての自覚と誇りをもって行動していることがうかがえた。
(朴志享)

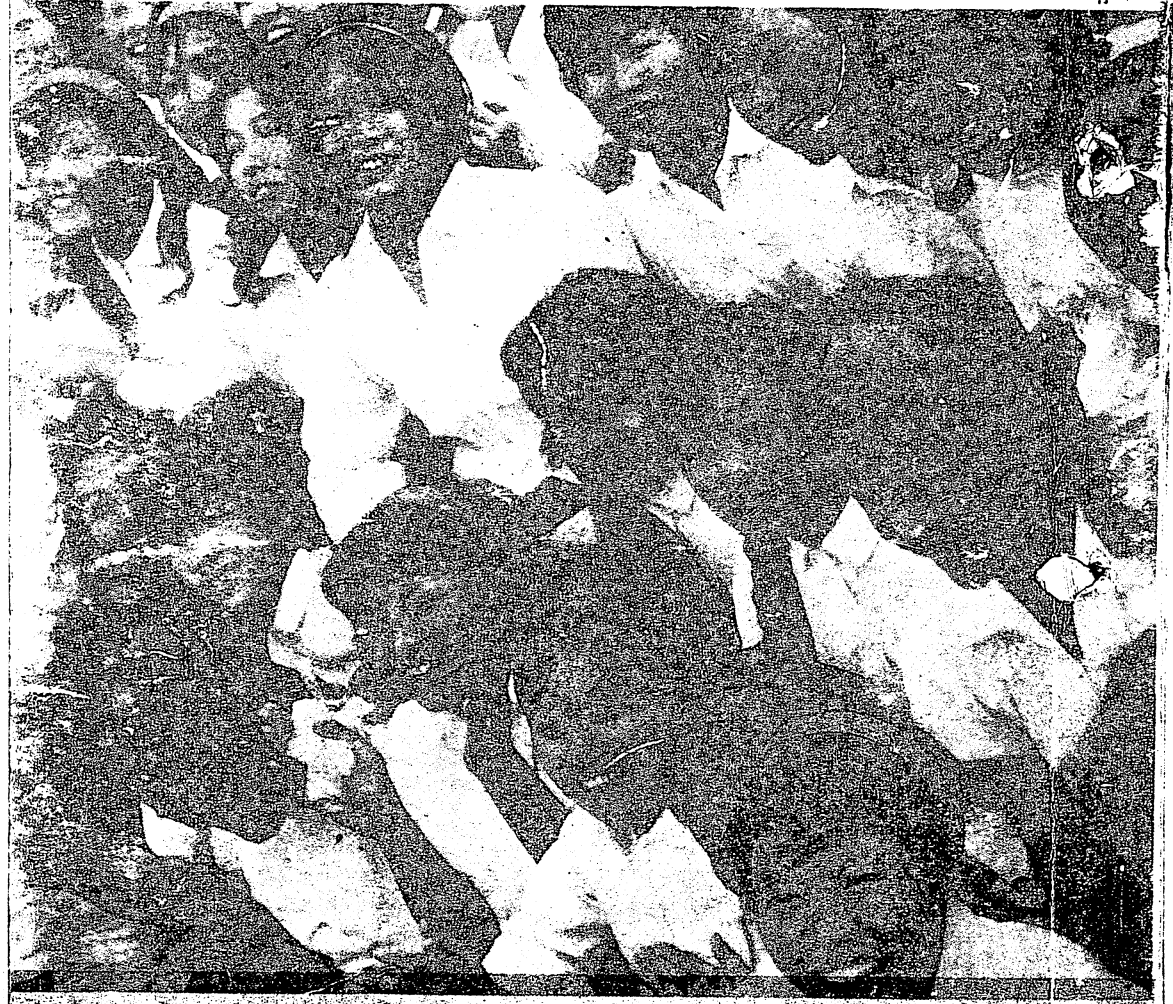
平壤サッカーチーム
ソ連最強チームに勝つ

ソビエトを遠征中の平壤サッカーチームは、九月二十三日、モスクワでおこなわれた試合でソビエト最強のチームの一つであるモスクワ「スパルタク」チームと対戦し、二対一で勝利した。
(タス通信)

朝鮮の女子バスケット
チーム・トルコに圧勝

八月二十六日からブルガリアの首都ソフィアでおこなわれた国際大学生体育大会に参加した朝鮮女子バスケットチームは、九月二日にあったトルコ女子チームとの試合で、国際バスケット競技史上まれにみるスコア一〇三対一五で勝利した。朝鮮女子チームは、息つく間もない速攻と正確な防禦陣で相手の活動を完全に封じ、前半は五一対〇、後半は五二点を獲得して、観覧者たちを驚歎させた。
(朝鮮通信)

新しい世代



労働党時代に生きる喜び
座談会 明日をより美しく

11

労働者時代に生きる喜び 金恩順

在日朝鮮人祝賀代表団団長として参加した筆者のみた朝鮮労働党第四回大会

卒業証書は失業証書 玄光洙 (20)

南朝鮮学生はいまどういう境遇におかれているかをみる

「韓日会談」の舞台裏 白漢基 (24)

韓・米・日反動の策動 なせ妥結をいそぐのか

母の願い 張順愛 (26)

しあわせのたね 具良善 (28)

すこやかに育つ子 蔡鴻悦 (30)

■明日をになう新しい世代 柳昌夏 (34)

東京朝鮮中・高級学校 朴志亨 (44)

神奈川朝鮮中・高級学校 朴雄 (38)

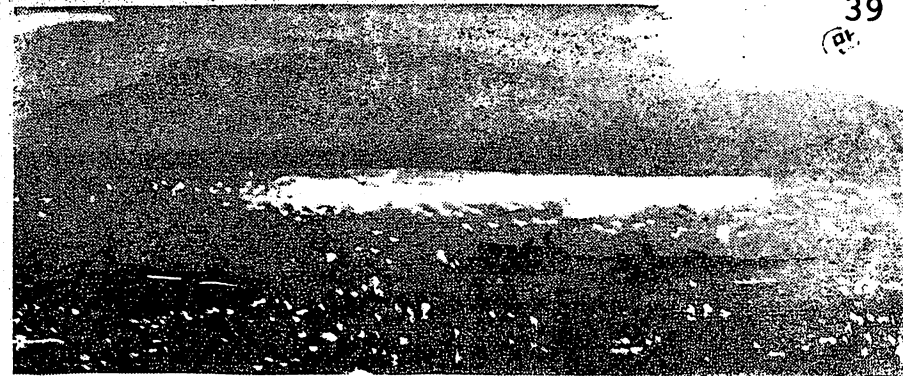
友情 風刺マンガ 蔡峻 (23)

帰国してまず驚いたことはみんなの友情があつたことだった

友 共和国の拳闘界 短 信 (70)

連載マンガ 青春日記 全 哲 (43)

短 信 (70)



座教会 明日をより美しく

わたしたちの青春は祖国の花咲く未来につながっている

金勝雄 鄭武子 張健二 金英子 14

読者のひろは

なかまのひとりになって 韓和淑 (67) 朝鮮人としての誇り 高徳哲 (66)

胸のない生きかたを 金昭子 (67) 祖国へ帰って 羅積威 (67)

連載講座

国語講座 名詞その一 金礼坤 (53)

祖国めぐり 咸鏡南・北道 金緑陽 (46)

朝鮮の文学 啓蒙期の文学 安宇楠 (54)

李舜臣將軍 姜在彦 (58)

うさぎ伝の出処 (朝鮮史話) 李甲基 (62)

はじめての行軍 抗日ハルチサン参加者の回想記 趙明善 (72)

写真特集 朝鮮の子

写真提供 朝鮮新報写真部 表紙写真撮影 鄭顯祚 カット 禹万石



国語講座

〔第九回〕

名詞の格(その一)

前回で、動詞はおもに動作をあらわしている単語だといいました。そして、この動詞は時間や法(きもち)などの観点からいろんなかたちに活用するということを勉強しました。

動詞が動作をあらわしているのに対して、名詞は、**말** [kyur] (みかん), **일년감** [iryongam] (トマト) **산** [san] (山), **바다** [pada] (海) **곰** [kom] (熊) などのように、物のなまえです。ですが、**운동** [undo] (運動) と **일** [ir] (しごと), **이야기** [iyagi] (はなし) とかいう名詞は意味のうえからみて物をしめしている単語だといえませんが、動作をあらわしている単語です。ですが、これらの単語は動詞ではなく、やはり名詞なのです。なぜかといえば、動詞が活用の体系をもっているのに対して、名詞は格変化といわれる独自な変化の体系をもっていて、**운동** (運動) とか, **이야기** (はなし) とかいう単語は名詞の特徴である格変化をするからです。

動詞とは、時間や法などにしたがって活用する単語であり、名詞とは格変化をする単語であるとおぼえておけばいいわけです。では、格とはどういうものか考えてみましょう。

日本語の字引きをひくと、熊や猿などの名詞が、ほかの単語とは関係なし

に、はだかのままでくるのですが、この単語を文のなかにつかおうとすれば、熊が、猿が、犬が、あるいは熊を、猿を、犬を、というふうにかたちをかえて、ほかの単語との関係をつけないければなりません。国語で(熊が魚をつかまえた)という文をつくってみましょう。

곰이 고기를 잡았다
[komi kogirur jabatta]

もうみなさんも知っているように、朝鮮語では熊のことを**곰** [kom] といふ魚のことを**고기** [kogi] といいますが、この単語で文をつくるばあい、そのままつかえば、熊、魚、つかまえた、になって意味があいまいになるか、さっぱり意味がとらなくなります。ですが、**<熊>**を**<熊が>**に、**<魚>**を**<魚を>**にかたちをかえてやると、これらの単語と動詞**<つかまえる>**とのむすびつきがはっきりしてきます。名詞とほかの単語とのむすびつきは、いろんな方法でしめされますが、朝鮮語では、まず第一に接尾辞をつかってしめされます。接尾辞というのは、単語ではなく、単語の部分であっていつも単語のうしろについてくる**しっぽみ**たいなものです。ほかの単語とのむすびつきをしめすために名詞につく接尾辞を格といい名詞がこの格をもつと、格変化するといえます。

朝鮮語の名詞は、おおまかにわけ

とふたとおりの格変化をします。第一に、名詞が動詞や形容詞とくみあわさるときの名詞の格変化、これを格変化の連用形と名づけておきます。第二に名詞が名詞や代名詞とくみあわさるときの名詞の格変化、これを格変化の連体形と名づけておきます。まずはじめに連用形の格変化から説明しましょう。名詞が動詞や形容詞とくみあわさるばあいは、つぎのように変化します。

格なまのえ	接尾辞	日本語の語幹が母音でおわるばあい	名詞の語幹が母音でおわるばあい	名詞の語幹が子音でおわるばあい
絶対格			바다 (海)	집 (家)
主格	가 / 이	가	바다-가	집-이
属格	의	의	바다-의	집-의
対格	를 / 을	를	바다-를	집-을
与・格位	에 (에게) 에서	에 (에게) 에서	바다-에 (에서)	집-에 (에서)
造格	로 / 으로	로 / 으로	바다-로	집-으로
共格	과 / 와	와	바다-와	집-과
呼格	아, 야 어, 여	아, 야 어, 여	아, 야 어, 여	아, 야 어, 여

1 絶対格 いまは、字引きにでてくるかたちだと思ってください。絶対格は、格をしめすための接尾辞がついていません。だからといって格のはたらきがないというわけではありません。絶対格のはたらきは、あとで説明することにしましょう。

2 主格、語幹に、**가**あるいは**이**をつけてつくります。語幹が母音でおわるばあいは**가**、子音でおわるばあいは**이**。そのはたらきは、日本語の格助詞

<が>に相当していますので、そのつかいかたはむづかしくありません。つまり、名詞の主格のかたちは、動詞や形容詞でしめされる動作や状態の主体(もちぬし)であることをしめします。いいかえれば、名詞が主語になるばあいに、その名詞は主格のかたちをとるのです。例をみましょう。

겨울이 왔다 (冬が来た)

[kyouri wattta]

바람이 분다 (風がふく)

[parami punda]

비가 온다 (雨がふる)

[piga onda]

기차가 간다 (汽車が行く)

[kichaga kanda]

しかし、朝鮮語の主格のつかいかたは、日本語の格助詞**<が>**のつかいかたとかならずしも一致しません。**<かれは大学生になった>**というばあい、**<大学生に>**を朝鮮語に訳すと、**대학생이** となります。つまり、日本語の**<大学生に>**を主格のかたちに訳さないといけなわけです。ほんたいに、**동생이 간호부가 되었다**という朝鮮語の文は、(妹が看護婦になった)と訳すとおかしいことばになります。

日本語の**<医者になる>****<教員になる>****<学生になる>**というくみあわせは、朝鮮語では**의사가 된다**, **교원이 된다**, **학생이 된다**というぐあいに、名詞は主格のかたちをとります。

また、日本語の**<医者でない>****<教員でない>****<学生でない>**というくみあわせは、朝鮮語では**의사가 아니다**, **교원이 아니다**, **학생이 아니다**というぐあいに、名詞は主格のかたちをとります。むづかしいいえば、なる一

だ、ない—아니다という単語がつなぎ(繫詞)としてはたらくばあい、このつなぎとくみあわさって、述語になる名詞は、朝鮮語では主格のかたちをとるのです。つなぎ(繫詞)というのは、主語と述語とをつなぐ単語のことで、ですから、いちばんよくつかわれるつなぎ(繫詞)は<である>です。この<である>は、朝鮮語では<다>あるいは<어다>です。この다, 어다とくみあわさって、述語になる名詞は主格のかたちをとりません。絶対格です。

3. 属格は、日本語の格助詞<の>に相当していて、おもに名詞と名詞とをくみあわせるためにつかわれます。日本語にある<雪のふる日>や<顔のきれいな人>というように、朝鮮語でも修飾する文のなかの主語をしめすために属格がつかわれています。

영희의 그린 그림

[yöŋ hui üi künin künim]

(永姫の かいた絵)

구름의 낀 날 (雲のかかった日)

[kurümüi kkin nar]

얼굴의 고운 사람 (顔のきれいな人)

[örgurüi koun saram]

もちろん日本語とおなじように、この属格を主格におきかえてもかまいません。

비가 오는 날 (雨がふる日)

[piga onün nar]

구름이 낀 날 (雲がかかった日)

[kurümi kkin nar]

4 対格の曇, 曇のちがいは、主格の場合とおなじように、かたちはちがついていても意味の上からはちがいありません。ただ発音上のちがいです。母音でおわっている語幹のあとでは<曇>

を、子音のあとでは<曇>をつかいます。対格には曇, 曇のほか、☁のかたちがあります。これは母音でおわっている語幹につけてつかいます。そしてこれは、曇, 曇とおなじ意味をあらわしていますが、このかたちはおもにはなしことばのなかでつかわれます。

예 나는 바닷 갔다 왔다

[nanun padar kattta wattta]

(私は海へ行ってきた)

対格は、動詞でしめされる動作の対象をしめしているのです。この場合朝鮮語の対格曇, 曇のかたちは、日本語の格助詞<を>とまずおなじだといえるのでここではくわしく説明しません。

(a) はたらきかけをうける対象

나무를 베다 (木をきる)

[namurür peda]

유리를 쪼다 (ガラスをわった)

[yurirür kkættta]

책을 읽는다 (本をよむ)

[chægür iŋnunda]

(b) 所有の対象をあらわすばあい

돈을 받았다 (金を受けとった)

[tonür padattta]

표를 샀다 (キップをかっつた)

[pʰyorür sattta]

집을 샀다 (家をかっつた)

[jibür sattta]

(c) 心理的な活動の対象をあらわす

ばあい

미제를 미워한다 (米帝にくむ)

[mijerür miwöhanda]

그를 사랑한다 (彼女を愛する)

[kurür saraŋ handa]

조국을 사랑한다 (祖国を愛する)

[jogugür saraŋ handa]

朝鮮語の対格は、動作の対象ではな

く動作の相手をしめすことができます。この点で日本語の格助詞<を>とちがついています。たとえば、日本語では<花をおかあさんにあげます>というところを朝鮮語では<花をおかあさんにあげます>

어머니를 꽃을 드린다

[öhmöirür kkotʰur turinda]

ということが出来ます。つまり<あげる>드린다。<やる>주다, などのような所有権のゆずりわたしをしめす動詞が対格をもつ名詞とくみあわさるとゆずりわたしの対象をしめすだけでなく、ゆずりわたす相手をもしめします。ですから、対格のかたちをとる名詞がひとつの文のなかにふたつあるということは、日本語になれている人には奇妙な現象にみえるでしょう。このばあい、ゆずりわたしの対象であるか、相手であるかということは、名詞の語イ的な意味(字引きにかいてある意味)が決定するわけです。対格は与格にとりかえてもいいわけです。

(例) 꽃을 어머니에게 드린다.

[kkotʰur ömöniege türinda]

(花をおかあさんにあげます)

対格のかたちをとる名詞が、移動動作をしめす自動詞とくみあわせるばあいも、日本語と同じように空間(場所)的なむすびつきをつくります。このばあい名詞の語イ的な意味は山, 川, 海, 運動場, 道, のように空間(場所)をしめしているものです。

(a) 動作のおこなわれる場所

길을 걷는다 (道をあゝる)

[kirur konnunda]

운동장을 돈다 (運動場をまわる)

undoŋjaŋür tonda

(b) 出発点をあらわす場合。

학교를 나간다 (学校をでる)

[hakkkyorür naganda]

일본을 떠난다 (日本を去る)

[ir bonür ttönanda]

(c) 通過する場所をあらわすばあい

산을 넘는다 (山をこえる)

[sanür nömnunda]

바다를 건너 조국으로 간다

[padarür konnö joguguro ganda]

(海を渡って祖国へ行く)

このかぎりでは、朝鮮語の対格のはたらきは、日本語の<を>のはたらきとおなじなのですが、朝鮮語の対格は, 가다 (行く), 향하다 (むかう) 들어가다 (はいる) のような自動詞とくみあわさって、目的地(行く先)をしめすことができます。

この点で朝鮮語の対格は、日本語の格助詞<に>に相当しているわけです。もつとも、朝鮮語でも、このばあい対格をつかわないで、与格あるいは造格をつかってもいいわけです。たとえば, 산을 간다 (山に行く) を 산에 간다 (山へ行く), 운동장을 들어 간다 (運動場に入る) を 운동장에 들어 간다 (運動場へ入る) 운동장으로 들어 간다 (運動場に入る) などがその例です。

朝鮮語では타다 (のる) という動詞も移動性の自動詞であって日本語のように<馬にのる>とはいわないで 말을 탄다 (馬をのる) といひす。

전차를 탄다 (電車にのる)

[jönčarür tʰanda]

자동차를 탄다 (自動車にのる)

[jadoŋ čarür tʰanda]

さらに動作性の抽象名詞(たとえば魚つり, 勉強, そうじなどのようなも

菜や南道の棉作がめだつ。一九六〇年、社会主義的農業協同化が完了し、七カ年計画では完全な水利化と電氣化ならびに機械化の達成をめざし、穀物六〇〇万トンと工芸作物五・九倍（一九六〇年の）を完遂するため、他道とともに歩調を合わせてまい進している。

畜産業においても、牛、豚、馬、緬羊など、全国的比重が高く、高原草地の利用に適し、長津、慶興、慶源、明川、花台等の大規模な国营細羊牧場がある。養蚕や果樹栽培もひろくおこなわれ、とくにリンゴ、梨など栽培面積は北朝鮮でもっともひろい。

水産業は全国第一位を占める地域で、とくに咸鏡南道は、一道での産額が北朝鮮総額の五〇パーセントをこえる。新浦、端川、利原、洪原、雄基、羅津、清津その他海岸各地に漁港を配し、国营水産事業所をもうけて、四季をわたぬ漁撈がおこなわれている。主な産物は明太、さば、ひらめ、にしん、たら、たい、ぶり、たこ、いか、なまこ、かに等をはじめ、かき、貝類、わかめ、てんぐさ等の各種があり、七カ年計画では、一九六〇年の倍—二〇万トンの目標達成のため、咸鏡南北道はその主目的の役割をおっている。

興南地帯は世界的屈指の総合化学工業地帯

として誇り、化学肥料、各種薬品、油脂類の製造や、化学繊維、製材、窯業、製錬、ゴム等各種工業が発達している。清津、富寧、金策一帯を中心とする黑色冶金工業もめざましく、製鉄、製鋼、機械、造船工場が林立する。製紙、パルプ工場も、吉州、会寧等にさかんで、紡織は清津、咸興、永興、北青等に大工場がある。

その他、雄基、魚大津（造船）、利原（鉄道）、新浦（機械）、境城（窯業）、阿吾地（化学）等をはじめ、建材、食料品、水産加工、醸造などの各種工業が発展し、東朝鮮唯一の近代の大工業地帯としての威容を陣どるようになった。

それらはすべて、アメリカ帝国主義侵略軍により破壊された灰燼のあとに再建され、発展・拡張した。全人民の愛國的な千里の駒運動とその飛躍的成果のめざましさにただおどろくほかない。



草原にたむろう羊の群 (咸鏡北道雄基郡総合農地)

をさすきあげ、全同胞ひとしく、伸びゆく祖国の喜びをわちあおうではないか。
(金線閣)

おわび — 本講座を三回にわたってやりました。金線閣先生は昨年からは病気のため入院されましたが、このたび手術を終え、退院されました。本号からまたつづけて執筆をお願いすることになりました。読者のおみなさんにことわりもなく休載したことをおわびいたします。
— 編集部 —

の) が対格のかたちで가다(行く), 향하다(むかう) という動詞とくみあわさると、この名詞は動作との関係において目的をしめします。동경을 간다 (東京に行く) 고기 낚기를 간다 (魚つりに行く) との関係とおなじ現象です。

時間をしめしている名詞が、対格のかたちで、移動性の自動詞とくみあわさると、動作のおこなわれる時間をしめすことも日本語とかわりありません。

(例) 사흘을 걸었다 (三日をあるいた)

[saürür körottta]
도쿄에서 봄을 지났다
[tokkoesö pomur jinattta]

(東京で春をすごした)
また状況をしめす名詞が、対格のかたちで、移動性の自動詞とくみあわさると動作のおこなわれる状況をしめすという点でも、日本語とかわりありません。

(例) 눈 속을 간다(雪の中に行く)
[nun sogür kanda]
물 속을 간다(水中に行く)
[mur sogür kanda]

時間的なむすびつきや状況的なむすびつきのばあいでは、自動詞がかならずしも移動性であるという限定がなくあります。この点も日本語とおなじです。

練習問題

次にあげた文で、発音のしかたや格のつかいかたなどを練習しましょう。(棒線のところはなるべく本文を参考にしてください)

- ① 가) 겨울이 왔다
나) 눈이 온다
- ② 가) 저것은 눈이 아니라 밭이다
나) 그것은 학교가 아니라 병원이다
- ③ 가) 그는 초등 학생이 아니라 대학생이다
- ④ 가) 귀국선의 떠나는 날
나) 바람이 센 날
- ⑤ 가) 아버지는 씨를 뿌린다
나) 어머니는 꽃을 심는다
다) 수남이는 자전거를 탄다
라) 영남이는 배스를 탄다

- 発音のしかた
- ① 가) kyöuri wattta 나) nunionda
 - ② 가) jögsöön noni anira pac'ida
나) kügösün hakkkyoga anira pyöŷ wönida
 - ③ 가) künün kodüŷhaksæŷi anira tæhaksæŷida
 - ④ 가) kiguksonüi ttönanün nar
나) parami sen nar
 - ⑤ 가) aböjinün ssürür ppurinda
나) ömöni nün kkot'ür simnünda
다) sumaminün jajöngörür thanda
라) yöŷnaminün ppösürür thanda

- 日本語訳
- ① 가) 冬がきた 나) 雪がふる ② 가) あれはたんぼでなく、畑だ 나) それは学校でなく、病院だ ③ 가) 彼は高等学生でなく、大学生だ
 - ④ 가) 帰国船のでる日 나) 風のつよい日
 - ⑤ 가) 父はたねをまく 나) 母は花をうえる 다) スナミは自転車にのる 라) ヨンナミはバスにのる

金 礼 坤

新しい世代

贈呈

昭和三十三年五月九日 第三種郵便物認可
新しい世代 十月月号 定価 五十四円 送料別

贈呈
36.12.19

12



未来にかがやく 新しい青年像

君の名は、宇宙飛行上第一号ガガーリン
コルホーズ農民の息子に生まれてから、
宇宙飛行を終えるまで——かれの生活の
すべてを、たんとつづつたこの手記
ほど、「共産主義時代の人間」を身近か
に知ることのできる本はない。
「宇宙への道」——文字どおりの意味で
またこの魅力ある本の標題として——は
幾百万の人びとの心への道でもある。

原書からの
完訳決定版 / B6判254頁 / 写真8葉 / 定価200円(〒40)
ユーリー・ガガーリンの手記

宇宙への道

日本共産党出版部発行 / 東京都代々木局 振替東京194897

■新しい世代臨時増刊 朝鮮労働党第四次大会特集号

■ 主要内容 ■

金日成委員長の党中央委員会活動総括報告・金一第一副首相の国民経済
発展7カ年計画についての報告・大会決定書・大会宣言・7カ年計画目
標数字・金昌満 李孝淳 吉確実 金寿福諸同志の討論・外国代表の祝
賀演説(ソ・中・日・ベトナム・キューバ・フランス・イギリス・アル
ジェリア)、在日朝鮮人代表の祝賀演説・中央委員会役員名簿・大会進行
にかんする報道・グラビヤ ほか

A5版 320頁
定価 150 円 30

お申し込みは
朝鮮青年社各支局へ

編集人 李丞玉 発行人 文成夏 印刷 朝鮮新報社
発行所 朝鮮青年社 東京都港区信濃町25 TEL (351) 4560 振替・東京 83623



新しい世代 十二月号 目次 第二卷十一号(通卷二十一号)

朝鮮人民は「韓日会談」を認めない 白南雲 (8)

平壤での「韓日会談」排撃・反対市民大会の報告
韓日会談を粉砕せよ (10)

労働新聞十一月二十五日の社説の要旨
図でみる朝鮮民主主義人民共和国国民経済
七カ年計画の展望 編集部 (13)

座談会 日本で生まれた朝鮮青年として、どう生きればよいのだろうか。これからの人生をきめていく重大な岐路に立ってあなたはどうか考える。

進学と就職 池明孝・許承貴・姜永原 朴喜子・徐点守・編集部 (24)

先輩から後輩へ 日本に生きて 李昌洛 (19)

朝大への道 馬贊吉 (21)

大阪朝鮮高級学校 明日をになう新しい世代 Ⅱ 梁永厚 (30)

感激は火と燃えて 李殷直 (34)

新潟における朝赤代表団歓迎の蹴球試合を観戦する

魂にふれあう交流の場をもちたい 金親清 (38)

千里の駒(詩) ハン・ユンホ (42)

読者のひろば 朝鮮労働党第四回大会にささげる

Kさんとの対話……黄勇 (60) 自分をとりとどして……(61)

夜明けがくれば朝がくる……姜周泰 (62) 懸賞原稿募集要項(63)

新しい世代「一九六一年度主要目次」 信 (75)

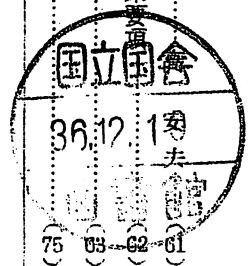
国語講座 祖国めぐり (西江道・慈江道) 金礼坤 (51)

朝鮮の文学 (新傾向派の文学) 安宇植 (52)

朴仁老と許筠 (人物物語) 姜在彦 (56)

不屈の女隊員 抗日バルチザン参加者の回想記 金玉順 (66)

写真特集 偉大なる建設へ 写真提供 朝鮮新報社写真部 表紙写真 鄭頭 昨 カット 禹万石



国語講座

名詞の格(その二)

5) 与格

まえの講座でかかげた格の一覧表では、예[e], 에[ge]と에서[esö]とを与位格というなまえでまとめておきましたが、実際には예, 에[ge]を与格とし、에서を位格とした方が説明しやすいので、これからは、わけて説明することにします。

与格のつかいかたは、日本語の格助詞の<に>とほとんどおなじです。だから説明する必要はないようなものですが、ほかの格との関係を理解するためにいくらかくわしく説明します。

朝鮮語の与格には예と에[ge]の二つのかたちがあるのですが、このつかいわけは、与格のかたちをとる名詞が活動体をしめすものか、非活動体をしめすものかによるのです。つまり、人や動物をしめす名詞が与格になる場合は예[ge]というかたちをとり、物や現象をしめす名詞が与格のかたちをとる場合は、에のかたちをとるのです。

朝鮮語の与格が動詞とむすびつく場合は、基本的には対象的な関係をつくります。対象的なくみあわせは、だいたいつぎのようなものがあります。

1. 対象的なくみあわせ

A) ありか(存在)

与格のかたちをとる名詞は、있다[ittta](ある), 없다[optta](ない)とかいう存在をあらわす動詞とむすび

つく場合は、物や現象のありかをしめします。

(例) 우리 집에 화로가 있다
[uri jibe hwaroga itta]

(私の 家に 火鉢が ある)

(例) 주머니에 돈을 가지고 있다
[jumönie tonür kajigo itta]

(ポケットに 金をもっている)

B) くつつけ

この場合は、あるものがあるものにくつつける動作を表現する場合、くつつけるものは対格疊、疊で表現し、くつけられるものは、与格で表現し、くつけられるものは、与格で表現するのです。

くつつけをあらわす動詞には、부리다(つける), 매다(しぼる), 달다(つるす), 없다(のせる), 놓다(おく), 입다(きる), 심다(植える), などのようにたくさんあります。

(例) 주머니에 만년필을 꽂는다
[jumönie maryön phirür kkonnünda]

(ポケットに 万年筆を さす)

(例) 머리에 빗을 꽂는다
[morie pisür kkonnünda]

(かみに くしを さす)

(例) 방에 화로를 놓는다
[paDe hwarorür non nünda]

(部屋に 火鉢を おく)

C) 相手

所有物をゆずりわたす相手も与格であらわすのです。この場合も朝鮮語の与格は、日本語の格助詞<に>にうつしかえるといいのです。

(例) 동무에게 담배를 준다
[toDmuae tambæür junda]

(トムム(君)に タバコを やる)

D) 認識(態度)の対象

느끼다(感ずる), 좋아하다(よろこぶ), 반하다(ほれる), 즐기다(たのしむ), 만족하다(満足する), 확인하다(確認する), 회상하다(回想する), 상상하다(想像する)のようなものと与格のかたちをとる名詞とくみあわせる場合、認識(態度)のさしむけられる対象をしめします。

(例) 그는 일본을 방문하는 박정희에게 분격을 느꼈다.

[künün irbonur paDmun hanün pak jöDhüiege pungyögür nükki yöttta]

(彼は 日本を訪問する 朴正熙にふん激を感じた)

(例) 그는 그 여성에게 뜻을 두었다.

[kunün kü yösoDege ttüsür tuöttta]

(彼は あの 女性に 思い(意味)を かけた(おいた))

E) 与格のかたちをとる名詞は、보다(見る), 발견하다(発見する)などの動詞とくみあわさって、発見の意味をも表現するので

(例) 슬픔은 그의 얼굴에 보였다
[sürphümün küüi örgüre poyöttta]

(かなしみは 彼の 顔に見えた)

そして、このくみあわせはいくらか原因的な関係をもしめしています

(例) 아이 우는 소리에 잠을 깬다
[ai unün sorie jamür kkættta]

(子供の なき声に 目(ねむり)をさました)

(例) 그는 한잔 술에 취했다
[künün han jan sure chi hættta]

(彼は 一杯の酒に よった)

2. 空間, 時間的なくみあわせ

A) 空間的なくみあわせ

与格のかたちをとる名詞は移動性の動詞とむすびつく場合、行くさきをしめします。移動性の動詞というのは、가다(行く), 향하다(むかう), 나아가다(進む), 오르다(のぼる), 걸다(あるく), 달리다(はしる), 나르다(はこぶ)などのような動詞のことです

(例) 나는 평양에 간다
[nanün phyöDyaDe kaŋda]

(私は 平壤に 行く)

(例) 나는 도쿄에 간다
[nanün tokkyoe kanda]

(私は 東京に 行く)

B) 時間的なくみあわせ

空間的なくみあわせでは、与格の名詞は場所(行くさき)をしめしていますが、この与格の名詞が、時間をしめすものであれば、時間的なくみあわせができあがります。この場合、動詞はかならずしも移動性のものでなくいいのです。

(例) 오늘은 여덟시에 집을 떠난다
[onürün yödürsie jibür ttönanda]

(今日は 8時に 家を出る)

(例) 회의는 열시에 시작된다
[hëuinün yörsie sijak tända]

(会議は 10時に 始まる)

C) 状況的なくみあわせ

与格の名詞が動作のおこなわれる状況をしめす場合には、状況的なむすびつきになります。

(例) 이 비에 우산도 없이 가느냐?

[i pie usando öpsi kanünya]

(この雨に あまがさも なしで行くの?)

6. 位格

A) 場所

位格の基本的な意味は、動作のおこなわれる場所をしめします。この意味では、朝鮮語の位格は、日本語の格助詞<で>に相当しています。

(例) 나는 학교에서 놀았다

[nanün hakkoesö norattta]

(私は 学校で あそんだ)

(例) 나는 모래 밭에서 씨를 심었다

[nanün moræ pathesö ssirümür hättta]

[私は 砂場(砂畑)で すもうをとった(した)]

B) 出発点

位格の名詞が移動性の動詞とくみあわさるときには位格の名詞は出発点をしめし、日本語の格助詞<から>に相当します。

(例) 저 사람은 공화국에서 온 대표다

[jö saramün koŋhwagugesö on täp̄yoda]

[あの人は 共和国から 来た代表だ]

(例) 미군은 남조선에서 나왔다

[migünün namjosönesö nagara]

(米軍は 南朝鮮から 出て行け)

C) 時間的な出発点

与格のかたちは、場所的な出発点だけではなく時間的な出発点をもあらわします。

(例) 대회는 두시에서 네시까지입니다

[tähenün tusiesö nesikkajimni da]

(大会は 2時から 4時までです)

時間的な出発点をあらわす場合は、普通, 예서よりも助詞 부터[puthō]の方がよくつかわれます。

(例) 영화는 한시부터 시작 합니다

[yöŋhwanün hansı puthō sijak hamnida]

(映画は 1時から 始まります)

例でおわかりのように朝鮮語の助詞 부터を日本語にうつしかえると<から>になります

D) 判断の基準(よりどころ)

보다[poda](見る), 생각하다(考える), 판단하다(判断する)などのように、思考活動をしめす動詞とくみあわせると位格の名詞は立脚点、立場などをしめします。この場合は、日本語の格助詞<から>に相当しています。

(例) 그의 행동에서 보면 자기 반성을 한 것 같다

[küüi häŋdoŋesö pomyön jagi pansödür han götkattta]

(彼の 行動から 見ると 自己反省を したらしい)

3. 形容詞とくみあわさる場合

A) 特徴や性格のありどころをあらわす場合、この場合は日本語の格助詞<で>に相当しています。

(例) 이 배는 조선에서 가장 큰 배다

[i päenün josönesö kajaŋ khün päda]

(この船は 朝鮮で もっとも 大きい 船だ)

(例) 세계에서 제일 큰 비나롱 공장

[segyeesö jeir khün pinaroŋ koŋjaŋ]

(世界で 一番 大きな ビナロン工場)

B) 比較のよりどころ

比較のよりどころをしめすときにつかわれる朝鮮語の名詞の位格を日本語にうつしかえると<から>になります

(例) 평양은 서울에서 가깝다

[p̄yöŋ yaŋün souresö kakka-ptta]

(平壤は ソウルから 近い)

そして朝鮮語の예서는、名詞にくっついて主語をあらわす場合があります。

この場合, 예서のかたちをとる名詞が集団をあらわす場合です。

(例) 우승기를 우리 학교에서 쟁취 했다.

[usüŋgirür urihakkyoesö jäŋc̄hi hättta]

以上説明してあるように朝鮮語の与格は格助詞<に>にうつしかえればよいし、位格は<で>あるいは<から>にうつしかえるといいいのです。

7) 造格

朝鮮語の造格の基本的な意味は動作の手段をあらわします。この場合、朝鮮語の造格は日本語の格助詞<で>に相当しています

A) 手段のくみあわせ

a. 道具をあらわす場合

(例) 툼으로 나무를 베다

[t̄obüro namürür peda]

(ノコギリで 木を きる)

(例) 연필로 편지를 쓴다

[yönp̄irro p̄yönjirür ssünda]

(エンピツで 手紙を かく)

b. 材料をあらわす場合

쌀로 떡을 만든다

[ssarro ttögür mandünda]

(米で もちを つくる)

(例) 밀가루로 빵을 만든다

[mirkkaruro p̄paŋür mandünda]

(小麦粉で パンをつくる)

c. 原因あるいは理由をあらわす場合

(例) 병으로 쉬었다

[pyöŋuro siyöttta]

(病気で やすんだ)

B) 空間的なくみあわせ

この場合は、行きさきをしめす名詞の与格(예)つまり日本語の格助詞<に>とほとんどおなじですが예の方は到着点をしめし、로/으로の方は、方向的ニュアンスがあるのです。この로/으로のかたちを日本語にうつしかえる場合、格助詞<へ>になります

a. 方向をあらわす場合

(例) 나는 동쪽으로 동쪽으로 걸었다

[nanün toŋjogüro toŋjogüro körottta]

(私は 東の方へ 東の方へ(と) あるいは)

b. 目的をあらわす場合

この場合、目的をあらわす対格疊/을とほとんどおなじです。この場

合、朝鮮語の格助詞로 / 으로を日本語にうつしかえると<に>になります。

(例) 그는 모스크바에 유학으로 갔다

[kūnun mossük^hūbae yuhagūro kattita]

(彼はモスクワへ留学に行った)

8) 呼格

この格は人によびかける場合につかいます。それにはつぎのようなかたちがあります。

(例) 친구여! [toŋmuyö] (友よ!)

練習問題

(一) 본문 [pon mun] (本文)

- 1) a. 나는 그에게 조선어를 배웠다
- b. 나는 꽃병에 물을 넣었다
- 2) a. 새 해를 맞아한다
- b. 엽서에 무엇이라고 쓸가?
- c. 오늘 야학에서 선생님에게 물어 보자
- 3) a. 파세 안녕하십니까?
- b. 금년에야말로 남조선에서 미군을 몰아 내자
- c. 그리고 조국의 평화 통일을 쟁취하는 해로 합시다
- 4) a. 엽서는 조선 말로 쓰자
- b. 조선 말을 배우는 파정에서 조선 력사를 배우면 얼마나 좋으라

(二) 발음 [parüm] (発音)

- 1) a. [nanūn kūege josōnrūr pæwötta]
- b. [nanūn kkot pyoŋe mūrūr

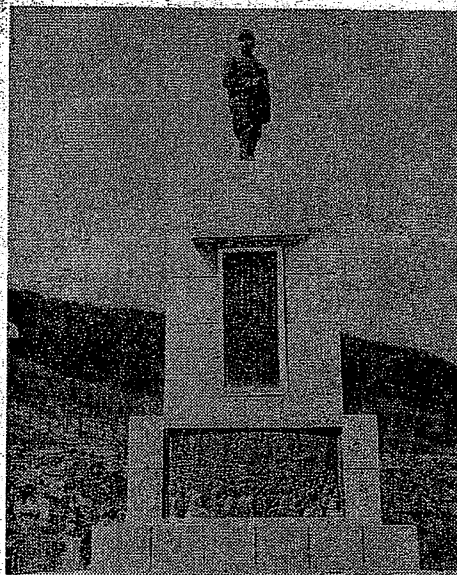
nōötta]

- 2) a. [sæ hæriur majihanda]
- b. [yöpssöe muösirago ssürkka]
- c. [onür yahagesö sösnæŋ nimege murö poja]
- 3) a. [kwase annyöŋ hasimnikka]
- b. [kümnyöneyamarro namjosōnesö migunür moranæja]
- c. [kürigo jogugūi p̄hyoŋhwa t̄hoŋirür jæŋ c̄hi hanün hæro hapssida]
- 4) a. [yöpssönün josōnmarro ssūja]
- b. [josōn marür pæunün kwajöŋesö josōn yoksarür pæumyön ōrmana jōurya]

(三) 번역 [pön yök] (翻訳)

- 1) a. 私は彼に朝鮮語をまなんだ
- b. 私は花ビンに水を入れた
- 2) a. 新年をむかえる
- b. はがきになんとかこうか?
- c. 今日夜学で先生にきいてみよう
- 3) a. (파세) (過歳) あけまして(안녕)(安寧)おめでとうございませう
- b. 今年こそ南朝鮮から米軍をおいだそう
- c. そして祖国の平和統一をたたかいてる年にしましょう
- 4) a. はがきは朝鮮語でかこう。
- b. 朝鮮語を学ぶ過程で朝鮮歴史を学ぶとどんなにいいだろう

(金礼坤)



普天堡にある金日成元帥の銅像

な高原牧草地に展開する細羊の群れと牧童の平和な姿がこの土地にある。慈江道の中江国営牧場、両江道の恵山、普天、豊山、揚平、三水、甲山等の各地に農牧場があり、豚、牛、鶏、兎など各種の畜産が目立つ。とくに両江道には四〇〇カ所の牧草地、一〇万二町歩の放牧地があって、「同胞よ、肉をたくさん召しあがって下さい」と胸をはって

誇っている。地下資源では両江道の銅(甲山)、マグネサイト(白石)、無煙炭(恵山)をはじめ、慈江道の鉛、亜鉛、銅、金、銀と黒鉛があり狼林、熙川付近などの各地に埋蔵が多い。両江道の甲山は、いまはなき朴達先生が指導された朝鮮民族解放同盟の国内反日闘争根拠地としてわすれられないところである。また近代的で大規模な機械工業の発達した熙川から満浦線を北へ一五〇キロほど進めば慈江道川かの主都、江界がある。江界は鉛筆、葡萄酒、農機械などの工場や、畜産大学があるが、祖国解放戦争のとき、中国義勇軍とともに手をつないで総反攻作戦に転じた基地として名高い。慈江道の北端にある中江では冬、零下四三・六度も下るといふ。酷寒の地に敵と闘って、民族を解放させ国を守った人々の辛苦をしのぼう。

(金緑陽)

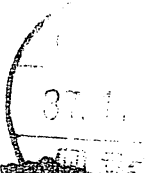
川付近では二三〇〇ミリもある。両江道では見られぬ綿花も栽培され、トウモロコシ、米、豆、馬鈴薯、大麻などが主産物である。両道とも鴨綠江に北流する各支流(渭源江、秀魯江、慈城江、長津江、赴戦江、虚川江)と豆満江にそそぐ西頭江などの河川にそう谷間に農耕地を見る。畑作の雑穀が主で他道からの食糧補給をあおいでいたこの土地が、今は自給自足の楽園と化し、トラクターの音もけたたましく先進農法のコルホーズの村に凱歌があがった。三水、甲山が山間へき地の代

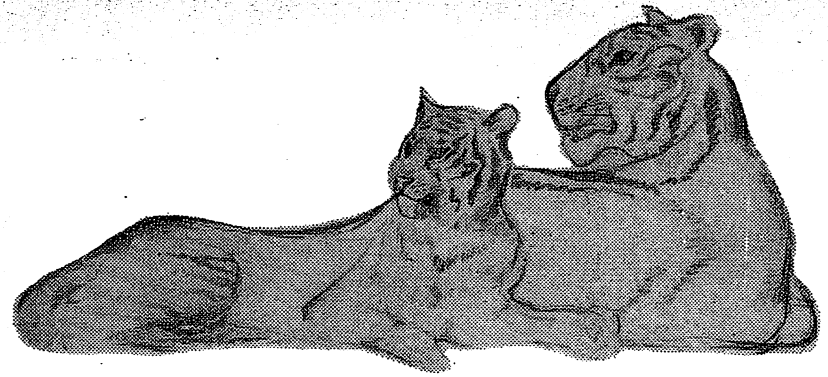
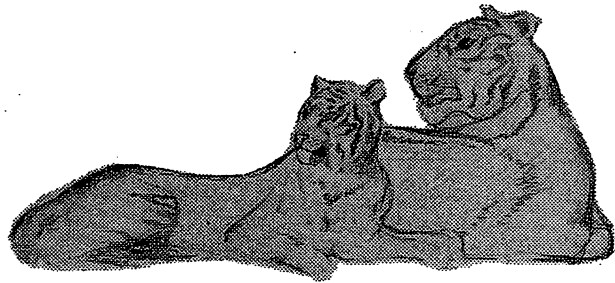
各詞であったのは昔のことである。恵山、豊山、厚昌、赴戦、白岩等各地に耕地面積が拡張され、さらに七カ年計画へと歩みを進めている。両江道と慈江道の経済は、林産と畜産、鉱業の三分野が全国的な意義をもつ。山林面積は九〇パーセントをこえ両江道は、全北半部の四〇パーセント、慈江道は全北半部の四分の一の原木生産がある。のどかな鴨綠江の筏流しと、高地帯の林産鉄道のばく進するたくましさは、対蹠的でも調和する。繁栄と建設である。も一つ広潤

な高原牧草地に展開する細羊の群れと牧童の平和な姿がこの土地にある。慈江道の中江国営牧場、両江道の恵山、普天、豊山、揚平、三水、甲山等の各地に農牧場があり、豚、牛、鶏、兎など各種の畜産が目立つ。とくに両江道には四〇〇カ所の牧草地、一〇万二町歩の放牧地があって、「同胞よ、肉をたくさん召しあがって下さい」と胸をはって

新しい世代

■ 祖国をよりよく知るために





新しい世代 一月号 目次 (第三卷第一号 通卷二十二号)

一九六二年をむかえて 金相権 10

「韓日会談」に反対する 李季白 12

飢えにあえぐ 南朝鮮の農民 編集部 21

金日成総合大学 編集部 26
六三年には東洋屈指の科学の殿堂となるだろう

■明日をになう新しい世代■

京都朝鮮中・高級学校 徐基瑋 30

茨城朝鮮中・高級学校 李舜雨 33

神戸朝鮮中・高級学校 金永吉 37

愛知朝鮮中・高級学校 崔永洙 41

九州朝鮮中・高級学校 権淳徽 46

新年寸感 洪鳳寿 52

日本のなかの朝鮮文化 金達寿 54

私は朝鮮をどうみるか 木下順二 62

世界的水準の球技 朴志亨 66

生まれかわった若者たち 卞宰洙 50
書評・南日竜編「また逢う日には」

新春マンガ特集 蔡峻・全哲 57
連載マンガ 青春日記 呉日禹 61

読者のひろば………65 祖国をもっと知ろう 李雨哲 45

短 信………84 表紙について………92

連載講座

国語講座 (名詞その三) 金礼坤 75

祖国めぐり (黄海南・北道) 金緑陽 68

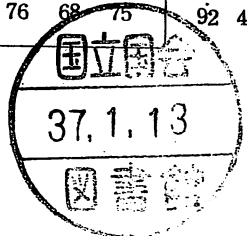
朝鮮の文学 (カプの文学) 安宇植 76

朴趾源と丁若鏞 (人物物語) 姜在彦 80

人民を愛する心 許鳳学 86

抗日バルチザン参加者の回想記

写真提供 朝鮮新報社写真部
表紙・カット 呉炳学



国語講座

名詞の格(その三)

まえにも説明してあるように、朝鮮語の名詞の格変化には連用形(動詞や形容詞とくみあわさるばあいの格変化のかたち)と連体形(名詞や代名詞とくみあわさる場合の格変化のかたち)とがあつて、連用形には絶対格、主格、属格、対格、与位格(与格、位格)造格、共格(呼格をのぞく)があります。しかし、実際には名詞の格変化の連用形には複合した形態(格が二つかさなりあつてできているもの)があります。たとえば、与格の接尾辞[er]と対格の接尾辞[rür]とがかさなりあつて、예를[erür]という格変化のかたちができあがります。いまはかりに、このようなかたちを複合形態となづけておきます。예를[erür]が複合形態だとすると、その構成要素である예や을や어など、まえにあげたかたちは単純形態ということになります。

ふつう、朝鮮語の文法書では예서[es5]は、単純形態としてあつかわれていますが、この接尾辞は예と서からなりたっている複合形態であるともみなすことができます。なぜなら예と예劑との対立に相応して、예서と예劑との対立があるからです。예서はすでに位格として説明をくわえてあります

から複合形態としてはあつかわないことにします。

格変化の複合形態にはつぎのようなものがあります。

1. 与対格(与格と対格が複合している場合)

예를 [erür]

예게를 [egerür]

2. 与造格(与格と造格が複合している場合)

예로 [ero]

예게로 [egero]

これらのかたちを一つ一つ説明しましょう。

1. 与格と対格とが複合している場合を与対格となづけておきます。この格には예를[erür]と예게를[egerür]との二つのかたちがありますが、そのつかいわけは예と예劑とのつかいわけとおなじです。不活動体名詞には예를がくつつき、活動体名詞には예게를がくつつくわけです。

예를は与格の意味をつかっても、対格の意味をつかってもいいようなばあいにつかいます。つまり、ふたつの格が一致する意味は移動動作の行くさきです。日本語には(に)あるいは(へ)以外には訳せません。

(例) 나는 동무 집에를 갔다

[nanün toɔmu jiberür kaŋtta]

(私は 友達の 家に行つた)

(例) 나는 병원예를 향했다

[nanün pyoɔwönerür

hyaɔhæŋtta]

(私は 病院に 向つた)

2. 与格と造格が複合している場合を与造格と名づけておきます。この格にも예로と예게로との二つのかたちがありますが、そのつかいわけはまえにしました通りです。この格は与格をつかっても造格をつかってもかまわなような場合につかわれます。与格と造格が一致する場合もやはり、移動動作の行くさきをしめします。

(例) 나는 세시까지 비행장으로

간다

[nanün sesikkaji pihæɔjaɔero

kaŋda]

(私は 3時まで 飛行場に行く)

(例) 저가 당신예게로 가겠습니다

[joga taɔsinægero kaɔetssümnida]

(私が あなたのところに 行きます)

つぎに格変化の連体形について説明します。連体形というのは名詞や代名詞とくみあわさるときの名詞の格変化のことをさします。連体形にはつぎのようなかたちがあります。表にしてみました。

(連体形をあらわす名詞の格の一覧表)

格 の なまえ	名詞の語幹 が母音でお わる場合	名詞の語幹 が子音でお わる場合	日 本 語 本 訳
属 格	의	의	の
与 格	예의 (예게의)	예의 (예게의)	への
造 格	로의	으로의	での への
共 格	와의	과의	との
位 格	예서 (예게서)	예서 (예게서)	での からの
与 造 格	예로의 (예게로의)	예로의 (예게로의)	への

連体形で一番大切な格は、日本語の格助詞(の)に相当する属格です。そのほかの連体形は、連用形に属格の의をくみあわしてできています。これはちょうど(東京へ旅行する)というくみあわせと(東京への旅行)というくみあわせとの関係とおなじようなものです。連用形の格助詞(へ)が連体形になるとときには(への)になるのとおなじように(예)に(의)がくつついて連体形の예의ができるのです。ですから예의あるいは예로의などのなかの(의)は連体形をつくるはたらきをしていて、本来の格としてののはたらきをうしなっています。絶対格、主格、対格、呼格には連体形がないということをおぼえておいてください。では連体形の格の一つ一つについて説明しましょう。

1. 属格

朝鮮語の属格は日本語の格助詞(の)にうつせばだいたいまちがいありません。ですが他の単語との関係をするために、すこしくわしく説明しておきましょう。

日本語の格助詞<の>をもつ名詞がどんな単語とくみあわさって、どんな関係をつくるかということによって、日本語の格助詞<の>のはたらきは、ちがっています。たとえば<祖国の山河>と<祖国の統一>という文の中の格助詞<の>のはたらきは、かなりちがっています。前者は、その属性を規定しているし、後者は、その対象を規定しているといえます。このようなちがいは、朝鮮語の属格<의>にもあるのです。では朝鮮語の属格<의>のつかいかたについて、おおまかに説明しましょう。

A) 所属の規定をあらわす場合。

このかたちは属格<의>の中でも一番基本的なはたらきをするかたちです。これは文字通りものごとの所属をあらわす場合のことです。

(例) 학교의 운동장
[hakkyōi undōjaŋ]
(学校の 運動場)

(例) 쓰베트의 배
[ssobethūi pæ]
(ソビエトの 船)

B) 属性の規定をあらわす場合。

콘크리트의 교사
[kʰoŋkʰriitūi kyosa]
(コンクリートの 校舎)
소고기의 국
[sogogiui kuk]
(牛肉の スープ)
침실'밖의 반찬
[jōmsimppabūi paŋʰan]
(昼食の おかず)

C) 主体をあらわす場合。

朝鮮語の属格<의>のかたちをとる名詞が主体をあらわす場合があります。この場合、かざられ(修飾される)名詞が動作をあらわす名詞、いいかえれば、動詞から派生した名詞がそのほとんどです。

(例) 조선 노동당의 부름
[josōn. nodoŋdaŋui purūm]
(朝鮮 労働党の よびかけ)

(例) 선생님의 가르침
[[sōnsæŋnimūi karūʰim]
(先生の おしえ)

D) 対象をあらわす場合。

この場合も、C)の場合とおなじくかざられ名詞が、動詞から派生した名詞になっています。

(例) 조국의 통일
[jogugūi tʰoŋir]
(祖国の 統一)

(例) 자본의 축적
[jabonūi cʰukjōk]
(資本の 蓄積)

2. 与格

連体形をつくる名詞の与格には、예의 [eūi] と, 예게의 [egeūi] があります。まえにも説明しましたが, 예의は不活動体の名詞にくっつくかたちで, 예게의は活動体名詞にくっつくかたちです。このかたちを日本語に訳すと<への>になります。

(例) 조합에의 가입 문제
[johabeūi kaip munje]
(組合への 加入 問題)

(例) 미군에게의 증오심
[migunegēui jūŋosim]
(米軍への 憎悪心)

3. 造格

連体形をつくる名詞の造格には로의 [roūi] / 으로의 [ūroūi] があります。まえに説明しましたが, 로의は名詞の語幹が母音でおわっている場合につかき, 으로의は, 名詞の語幹が子音でおわっている場合につかきます。この場合, 日本語になおすと<での>や<への>になります。

(例) 바다로의 출어
[padarōui cʰurō]
(海への 出漁)

(例) 조국으로의 귀국
[joguguroūi kiguk]
(祖国への 帰国)

(例) 밀가루로의 요리
[mirʰkaruroūi yori]
(うどん粉での(の) 料理)

4. 共格

連体形をあらわす共格には, 와의 [waūi] / 과의 [kwaūi] がありますが 와의は名詞の語幹が母音でおわる場合につかわれ, 과의は名詞の語幹が子音でおわる場合につかいます。このかたちは日本語の<との>に相当しています。

(例) 우리 나라와 중국과의 관계
[urinarawa juŋgukkwāui kwangye]
(わが国と 中国との 関係)

(例) 나와 나의의 사이
[nōwa nawāui sai]
(君と 僕との 仲)

5. 位格

連体形をあらわす名詞の位格には, 에서의 [ēsōūi] と 예게서의 [egesōūi] があります。에서의は不活動体の名詞に, 예게서의は活動体名詞にくっきます。このかたちは日本語の(での) や (からの) に相当します。

(例) 농촌에서의 생활
[noŋchyonēsōūi sæŋhwar]
(農村での 生活)

(例) 꽃분이에게서의 편지
[kkotppuniegēsōūi pʰyŋŋji]
(花ちゃん(かわいい人)からの 手紙)

6. 与造格

与造格には에로의 [eroūi] と 예게로의 [egerōūi] があります。에로의は不活動体名詞に 예게로의は活動体名詞にくっついていて日本語の<への>という意味をあらわします。

(例) 모스크바에로의 유학
[moŋsŋkʰabaerōui yuhak]
(モスクワへの 留学)

(例) 꽃분이에게로의 편지
[kkotppuniegērōui pʰyŋŋji]
(花ちゃん(かわいい人)への 手紙)

練習問題

- (一) a 공화국의 칠 개년 계획
b 칠 개년 계획의 초과 달성을 위하여
c 조국의 평화적 통일을 위하여 온갖 힘을 다 하자
d 남스의 자본론을 조선말로 번역한다
e 일본어판의 김 일성 선집
- (二) a 대리석의 기둥
b 재일본 조선 청년 동맹회의 가입
c 지부 위원장에게의 부탁
d 청년 학생들에게의 국어 교육
e 미국에서의 인종의 차별
- (三) a 신문에서의 보도
b 남조선에서의 생활
c 고향에서의 편지
d 청년 학교에서의 학습
e 행복에로의 길
- (四) a 저기 백두산이 보인다
b 나는 백두산을 본다
c 나는 금강산을 보고 싶다
d 백두산을 올라 가 보고 싶다
e 나는 백두산에서 내려 왔다
- (五) a 지금은 평양에서 모스크바에로의 직통 열차가 있다
b 춘하 추동을 사시라고 한다
c 동서 남북을 가리켜 사방이라고 한다
d 나는 일본 료리보다 조선 료리가 좋다.
e 고기잡기는 바다보다 강이

중다

発音のしかた

- (一)a [koŋhwagugüi cʰir kænyon kyehək]
 b [cʰir gænyon kyehégüi cʰyogwa tarsöŋür ihayö]
 c [jogugüi pʰyöŋhwajök tʰoŋirür ihayö ongat himür ta haja]
 d [makssüüi jabonnonür josön marro pönyökʰanda]
 e [irbonöpʰanüi kim irsöŋ söŋjip]
- (二)a [tærisögüi kiduŋ]
 b [jeirbon josönin minju cʰyoŋnyön toŋmæŋeüi kaip]
 c [jibu iwön jaŋegeüi putʰak]
 d [cʰyoŋnyön haksæŋduregeüi kugö kyoyuk]
 e [migugesöüi injoŋüi cʰabyor]
- (三)a [sinmunesöüi podo]
 b [namjosönesʰüi sæŋhwar]
 c [kohyaŋesöüi pyönji]
 d [cʰyöŋnyön hakʰkyoesöüi hakssüp]
 e [hæŋbogeröüi kir]
- (四)a [jogi pæktusanı poında]
 b [nanün pæktusanür ponda]
 c [nanün kümgaŋsanür pogosipʰta]
 d [pæktusanür orra ka pogo sipʰta]
 e [nanün jæ:tusanesö næryö waŋʰta]
- (五)a [jigumün pyoŋyaŋesö mossü-kʰübaeröüi jiktʰoŋ yorcʰaga itʰta]
 b [cʰunʰa cʰudoŋür sasirago handa]

- c [toŋsö nambuŋüro karikʰyö sabaŋirago handa]
 d [nanün irbon yoriboda josön yoriga jotʰa]
 e [kogi nakkkinün padapoda kaŋi jotʰa]

日本語訳

- (一)a 共和国の7カ年計画
 b 7カ年計画の超過達成のために
 c 祖国の平和的統一のためにすべての力をつくそう
 d マルクスの資本論を朝鮮語に翻訳する
 e 日本語版の金日成選集
- (二)a 大理石の柱
 b 在日本朝鮮青年同盟への加入
 c 支部委員長へのたのみ(お願い)
 d 青年学生たちへの国語教育
 e 米国での人種の差別
- (三)a 新聞での報道
 b 南朝鮮での生活
 c 故郷からの手紙
 d 青年学校での学習
 e 幸福への道
- (四)a あそこに白頭山がみえる
 b わたしは白頭山をみる
 c わたしは金剛山をみてみたい
 d 白頭山に登ってみたい
 e わたしは白頭山からおりてきた
- (五)a いまは、平壤からモスクワへの直通列車がある
 b 春夏秋冬を四季という
 c 東西南北をさして四方という
 d わたしは日本料理より朝鮮料理がいい
 e 魚つりは海より川がいい

(金 日 成)

在地が中心である。鳳山と海州のセメントや瑞興の石灰、沙里院の煉瓦等の建築資材ならびに、海州、松林の化学工業や遂安、谷山の朝鮮紙等各種がある。

このなかでもっとも大きい比重を占め、全国的意義をもつ生産部門は黑色冶金工業である。東北地方の清津、金策とならんで西北地方の製鉄基地となっている松林の黄海製鉄所では、銑鉄、鋼鉄、コークス、各種圧延製品、煉瓦ならびに副産物の各種化学製品を産している。松林は過去の日帝がのこした廢亡



わが国の田野は基本的に水利化された

の地であり、また去る祖国戦争のときのアメリカによる廢墟であったことを思えば、ただ奇跡というほかはない。

かかる重工業の一次資源は黄海南北道の各地で採掘される。有色金属、タンングステン等をはじめ各種鉱石が勿洞、遂安、谷山等、北道の東北山地に多く、南道では殷栗、載寧、下聖、三泉等の鉄と、長淵、龜津付近の金銀鉱または多金属鉱が有名で、その他各地の石灰石や海岸島嶼の珪砂、大理石の産出も豊富である。

黄海南道の近海では、山に劣らぬ豊富な水資源をもつ。椒島、白翎島、大青島、延坪島付近には、イシモチ、エビ、太刀魚をはじめ、ナマコ、カキ、天草や南部海岸のノリ養殖と延安の延白製塩はとくに名高い。

山や海に働く勤労人民の汗は、黄海南道のいたるところに散在する温泉休養地で憩いやされる。温井里、温泉里、三泉、龜津、白川など九カ所もゆげをふく。

高麗の太祖王建が位につき、李朝太祖李成桂にはろぼされるまで、四六〇年の歴史をもつ王都・開城は、古く松都と呼ばれ、去る祖国解放戦争の後、黄海南道の龜津、延白地方とともに、付近の板門郡、開豊郡を合わせて、

李承晩虐政から解放された特別地区の政治、経済、文化の中心地である。人蔘の産出で高く、金川、平山、瑞興など各地の蔘園とともに、紅蔘の輸出が盛んである。

また白菜やリンゴの栽培も多く、食料品工場や、ゴム、農機具、建材ならびに、本道各地の養蚕と棉花を原料にする織物業も発達している。沙里院の師範大学とならんで開城には松都政治経済大学があり、各級学校が併設されて、黄海道の学術文化の都でもある。

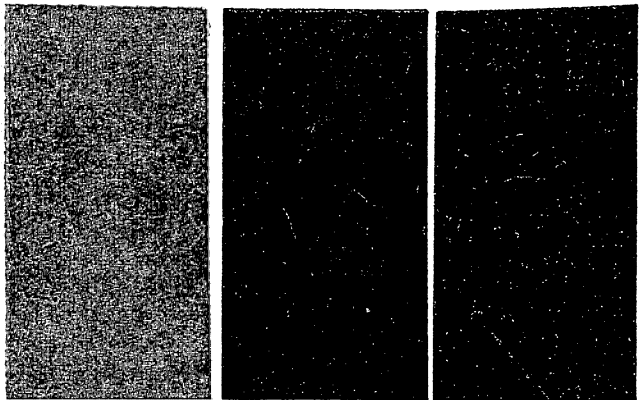
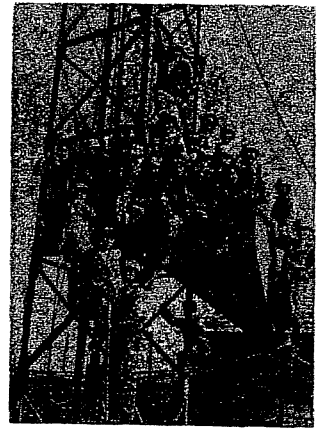
開城より八キロ南方の板門店は、祖国解放戦争の勝利の終結点である。そのさらに南は恨み多き軍事分界線に分断された臨津江が黄海北道と江原道から源を發して、南朝鮮の京畿道へと、分界線を無視して力強く流れる。

統一をめざす全民族の意気込みをのせて、えんえんと、北と南をつなぐ臨津江のように、わが国北半部から南への旅が、板門店を過ぎて臨津江をわたり、さらに済州島の果てまで自由に行かれる日が必ずくるだろう。今のようながまんのならない事態に終止符をうたねばならない。

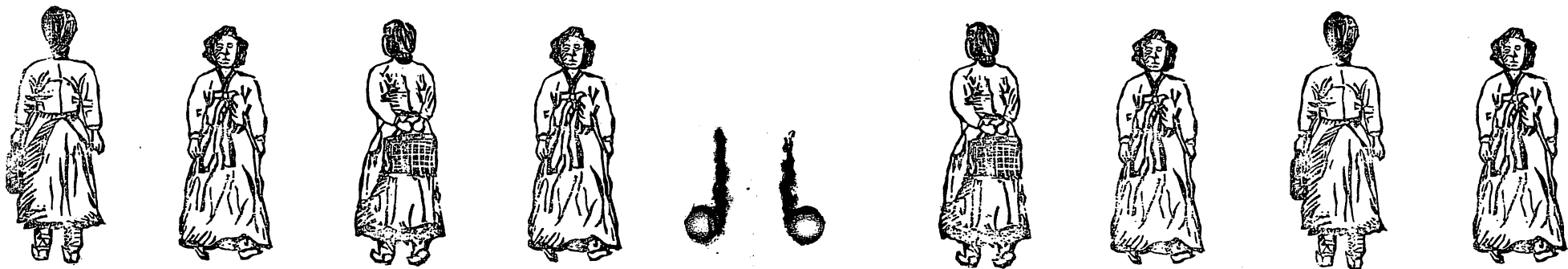
(金 日 成)

新しい世代

■祖国をよりよく知るために



2



新しい勝利めざし
さらに前進しよう 金 日成 8

金日成首相の新年のあいさつ

南朝鮮の「ローゼンバーグ事件」 白 漢基 20

こんごの朝・日貿易 張 正燮 15

のろわしい回想 金 明子 48

ある女教師のはなし 金 民 40

手記 新しい人生 許 光子 36

寄宿舎建てる朝大生 岡 邦雄 44

朝鮮青年諸君へ 岡 邦雄 44

■明日をになう新しい世代9■

広島朝鮮中・高級学校 林 武鐘 32

連載講座	
国語講座	形容詞 その一 金 礼坤 65
祖国めぐり	平安南・北道 金 緑陽 58
朝鮮の文学	抗日武装闘争の中で生れた文学 安 宇植 66

金弘道と金正浩(人物物語) 姜 在彦 70

三五一高地の英雄たち 李 沢基 76

再会 参加者の回想記 崔 賢 81

連載マンガ 青春日記	金 哲 47
ひろば	
「在阪朝鮮人高校生の集い」に参加して	玄 成子 54
「劣等感」の克服	島村 英子 55
後悔先にたたず	高 順子 56
1961年をかえりみて	成 允沢 57
短編集後記	信 記 74
写真特集 寄宿舎を建てる朝人生	李 鍾基 86
表紙・カット	呉 炳学
目次カット	神戸朝鮮中級学校生徒作品より

国語講座

形容詞(述語になる場合)(その一)

形容詞という単語のグループは規定語になったり、述語になったりして名詞でしめされているものごとの性質や状態をあらわします。朝鮮語の形容詞をつくり(語構成)の観点からみれば、だいたいつぎのような種類にわかれます。これからあげる形容詞の例は原形です。

1. 本来の形容詞

좋다 [jotʰa] (よい), 검다 [kŏmʰta] (黒い), 붉다 [pukʰta] (赤い), 깊다 [kipʰta] (深い), 얕다 [yatʰta] (浅い)

これらの単語をみるとわかるように本来の形容詞は語根に다 [ta] という語尾がくっついてできています。原形のつくりからみれば 먹다 [mokʰta] (たべる), 잡다 [japʰta] (にぎる), 걷다 [kŏtʰta] (あるく), 앉다 [antʰta] (すわる) のような動詞とまったくおなじです。

2. 名詞からつくられた形容詞

名詞にいろんな接尾辞をくっつけて形容詞をつくることができます。よくつかわれる接尾辞にはつぎのようなものがあります。

—하다 [hada], —스럽다 [süröptʰa]
—롭다 [ropʰta], —지다 [jida]
—적이다 [jögida]

a) 하다 [hada] がくつつく場合

용감—하다 [yonggam-hada] (勇敢だ)

유능—하다 [yunüŋ-hada] (有能だ)

유명—하다 [yummyŋ-hada] (有名だ)

유력—하다 [yuryök-hada] (有力だ)

この形容詞は용감(勇敢), 유능(有能), 유명(有名), 유력(有力) という名詞にそれぞれ接尾辞하다가くっついてできています。—하다という接尾辞はもともとは(する)という意味の動詞です。ですから운동—하다 [undoŋ-hada] (運動する), 사랑—하다 [saraŋ-hada] (愛する) のように動作性の名詞にくつつくと動詞になります。하다가くっついて形容詞になる場合は状態をしめしたものです。

b) —스럽다 [süröptʰa] がくつつく場合
재미—스럽다 [jæmi-süröptʰa] (おもしろい)

고생—스럽다 [kosæŋ-süröptʰa] (くるしい)

자연—스럽다 [jayön-suröptʰa] (自然だ)

대담—스럽다 [tædam-suröptʰa] (大胆だ)

この例でも 재미(興味), 고생(苦勞), 자연(自然), 대담(大胆)などの名詞に—스럽다가くっついて形容詞をつくっています。스럽다という接尾

辞は(なんらかの性質をもっている)という意味をもっています。

c) —롭다 [ropʰta] がくつつく場合
해—롭다 [hæ-ropʰta] (害だ)
평화—롭다 [pʰyohwa-ropʰta] (平和だ)

순조—롭다 [sunjo-ropʰta] (順調だ)

자유—롭다 [jaju-ropʰta] (自由だ)

例の해—롭다, 평화—롭다, 순조—롭다, 자유—롭다の해(害), 평화(平和), 순조(順調), 자유(自由)は名詞です。その名詞に롭다という接尾辞をくっつけて形容詞がつくられているのです。接尾辞롭다는스럽다とだいたいおなじような意味をもっています。

d) —달다 [tapʰta] がくつつく場合
어른—달다 [örün-tapʰta] (大人らしい)

인간—달다 [ingan-tapʰta] (人間らしい)

학생—달다 [haksæŋ-tapʰta] (学生らしい)

군인—달다 [kunin-tapʰta] (軍人らしい)

この例もやはり 어른(大人), 인간(人間), 학생(学生), 군인(軍人) という名詞に接尾辞달다가くっついて形容詞になったものです。달다という接尾辞は(似ている, らしい) というような意味をもっています。

e) —지다 [jida] がくつつく場合

모—지다 [mo-jida] (角張る)

오늘—지다 [künür-jida] (かげる)

기름—지다 [kirüm-jida] (あぶらのがしっている)

살—지다 [sar-jjida] (ふとる)

この場合も모(角), 오늘(かげ),

기름(あぶら), 살(肉) のように前にある単語は名詞です。その名詞に接尾辞—지다가くっついて形容詞をつくっているのです。接尾辞—지다のもつ意味は日本語の(なる) という意味にちかいです。

f) —적이다 [jögida] がくつつく場合
인민—적이다 [inmin-jjögida] (人間的だ)

사회—적이다 [sahë-jögida] (社会的だ)

인간—적이다 [ingan-jögida] (人間的だ)

진보—적이다 [jinbo-jögida] (進歩的だ)

—적이다という接尾辞は日本語の(資本主義的)や(政治的)などの(的)とおなじような意味です。これらの形容詞も인민(人民), 사회(社会), 인간(人間), 진보(進歩) のような名詞に接尾辞적이다をくっつけて形容詞をつくっているのです。

3. 動詞からつくられた形容詞

미덥다 [midöptʰa] (信用のおける, 信らいてきる)

この単語は, 믿다という動詞の語い 믿に接尾辞엿다가くっついて믿엿다となった単語ですが, 正書法では発音のされるままに미덥다とかくのです。

우습다 [usöptʰa] (おもしろい, こつけいだ)

この単語も미덥다とおなじく웃다という動詞の語幹に웃という接尾辞をくっつけて웃슴다という単語ができています。形態主義のたちばをとるなら미덥다を믿엿다と, 우습다を웃슴다とかかなければならないわけなのですが, 現行の正書法では우습다, 미덥다

と発音通り音節単位にかかれています。このような接尾辞をつかった形容詞づくりの方法はいまはつかわれていません。민업다를미업다, 웃음다를웃음다のようにかくのはそこからきているのです。

4. 形容詞からつくられた形容詞
깊-속하다 [kip-ssukhada](深い)
맑-속하다 [mar-ssukhada](清い, きれい)

높-다랗다 [nop-tarahha](高い)
깊-속하다の깊は깊다(深い)という形容詞の語幹であり, 맑-속하다の맑も形容詞맑다(清い)の語幹です。높-다랗다の높もまた形容詞높다(高い)の語幹です。このように形容詞の語幹に-속하다や-다랗다のような接尾辞がくっついてできた形容詞です。これらの接尾辞は形容詞の語幹にくっついて形容詞のあらわしている性質のつよさ(程度)をしめしているのです。

5. 二つの語根あるいは語幹がくみあわきつてできている形容詞

名詞の語幹に있다-[-ittta](ある)や없다 [öpitta](ない)をくっつけてくる場合がもっとも普通です。

재미-있다 [jäemi-ittta](おもしろい, 興味ある)

정신-없다 [jöpsin-öpitta](おちつかない)

形容詞재미-있다의재미は(おもしろみ, 興味)という意味の名詞です。この名詞の語幹に接尾辞-있다をくっつけて재미-있다(興味ある)という形容詞ができたのです。정신-없다という形容詞も정신(精神)という名詞の語幹に接尾辞-없다(ない)をくっつけて(おちつかない)という意味の

形容詞がつくられたのです。

6. 名詞の語幹に動詞がくっついてできる形容詞

この場合, 初めの方にある形容詞は語根だけです。

옳-바르다 [or-parüda](正しい)
굳-세다 [kut-seda](かたい, つよい)

검-붉다 [köm-buktta](赤ぐろい)
くわしく説明しますと옳-바르다という単語は옳다(正しい)という形容詞の語根に바르다(まっすぐだ, 正しい)がくっついて옳-바르다ができています。

굳-세다という単語の굳は形容詞굳다という単語の語幹です。その語幹に세다(つよい)という形容詞がくっついて굳-세다(つよい)という意味の形容詞をつくっているのです。검-붉다의검は形容詞검다(黒い)の語幹です。その語幹に붉다という形容詞がくっついて(あかい, あかぐろい)という形容詞をつくっているのです。

まえにも説明してあるように, 形容詞は規定語(修飾語)にも, 述語にもなることができるのですが, ここでは述語になる場合, どのように活用するか説明します。動詞の活用を思いだしてください。動詞は法(きもち)と時間と階称(ていねいさ)にしたがっていろいろなかたちに変化するでしょう。形容詞も述語になるときはやはり法や時間や階称にしたがって活用します。文章につかわれる第四番F(10月号44ページ参照)の階称のかたちを例にして時間のかたちを説明しましょう。

形容詞も動詞とおなじように話す階間からみて現在, 過去, 先過去, 未来

のかたちがあります。次の表をみてください。

하이다 [hüida](白い)

原形	하-이다	[hüi-da]
現在形	하-이다	[hüi-da]
過去形	하-였-이다	[hüi-yöt-itta]
先過去形	하-였-었다	[hüi-yösöt-itta]
未来形	하-질-이다	[hüi-ge-t-itta]

動詞には現在形をつくる接尾辞があつて原形と現在形とはちがっていたのですが形容詞の場合は原形がそのまま現在形になります。

形容詞の過去形は動詞とおなじように語幹と語尾とのあいだに過去をしめす接尾辞였, 였あるいは였, (이었)などがはいらいます。

先過去の場合も動詞とおなじく語幹と語尾とのあいだに先過去をしめす接尾辞였였, 였였, 였였, 이었였などがはいらいます。

過去をしめす接尾辞였, 였, 였や先過去をしめす接尾辞였였, 였였, 였였のつかいわけについては動詞の場合とおなじく前にある母音の性質によってつかいわけのです。

未来形のつくりかたも動詞の場合と

原形	유명-하다	[yummyöD-hada]
現在形	유명-하다	[yummyöD-hada]
過去形	유명-하였다	[yummyöD-hayötitta]
	유명-했다	[yummyöD-hættita]
先過去形	유명-하였었다	[yummyöD-hayösötitta]
	유명-했었다	[yummyöD-hæösötitta]
未来形	유명-하겠다	[yummyöD-hagetitta]

おなじく語幹と語尾とのあいだに未来をしめす接尾辞였을をいれてつくりま

す。
유명하다や모지다のような派生形容詞についていえば, この種の形容詞は接尾辞-하다, -지다, -답다, -스렵다, -롭다가上の表どおりに活用するのです。これらの接尾辞はむしろ形容詞をつくるための助形容詞といったほうがたがいでしょう。-지다は-지었다-지였었다-지겠다というふう

に活用します。したがって모지다は모지였다, 모지였었다, 모지겠다のように活用するのです。ですが유명-하다(有名だ)の하다という助形容詞の場合は下の表のように不規則に変化します。まえにも説明してあるように, 動詞の現在形は・[n]あるいは는 [nün]という接尾辞が語幹と語尾のあいだにはいらいます。ですから動詞をつくる-하다の現在形は-한다になります。たとえば운동하다の現在形は운동-한다になります。ところが유명하다(有名だ)の現在形は유명-하다です。形容詞と動詞と似ているようですが, このようなところにちがいがあ

ります。現在形とか過去形とか名前はおなじでも動詞とは意味はずいぶんちがうの

です。

現在形と過去形は文字通り現在と過去の状態をしめしているのです。ところが先過去はおなじ過去のことであっても回想的なニュアンスがくわわっています。

未来形は推量的な意味をもったものと思えばいいでしょう。

次に例をあげておきましょう。

現在形の場合

남조선의 학생들은 용감하다
[namjosönüi haksæŋdürün
yoŋgamhada]

(南朝鮮の 学生達は 勇敢だ)

조선어는 일본어보다 발음이
어렵다

[josönönün irbonöpoda parümi
öropytta]

(朝鮮語は 日本語より 発音が むずかしい)

조선어 문법을 알아 둠은 외국
어를 배우는데 유리하다

[josönö munppöb ürara tumün
ëgugörür pæunünde yurihada]

(朝鮮語文法を して おくことは
外国語をまなぶのに 有利だ)

독일어 문법과 러시아어 문법은 비
슷한 곳이 많다

[togirö munppöpkwa rossia
munpöbun pisutan kosi mantha]

(ドイツ語 文法と ロシヤ語文法は
似ているところが 多い)

過去形の場合

작년 설은 추웠다 (추우었다)

[jadnyön sörün chuwöttta]

(昨年(の) 正月は さむかった)

금년 설은 날씨가 매우 따뜻했다

[kümnyön sörün narssiga mæu

[tattuthættta]

(今年の 正月は 天気が とても
あたたかかった)

先過去形の場合

그는 학생 시대는 공부에 열심했
었다

[künün haksæŋsidenün koŋbue
yörsimhættta]

(彼は 学生時代は 勉強に 熱心で
あった。)

내가 어릴때 이 강물은 맑았다

[næga örirtæ i kaŋmurün
margattta]

(私が おさないころ この 河の水
は きれいだった)

未来形の場合

이 외투는 따뜻하겠다

[i èthunün itattuthagetta]

(この 外套は あたたかそうだ)

조금만 더 열심히 공부하면 신
문을 읽을 수 있겠다

[jogümman tö yörsimi koŋbn-
hamyön sinmunur igrür su
itketta]

(もう すこし 熱心に 勉強すれば
新聞が(を) よめそうだ)

이 책은 재미있겠다

[i chægün jæmiitketta]

(この 本は おもしろそうだ)

저 자동차는 빠르겠다

[jö jadoŋčanün pparügetta]

(あの 自動車は はやそうだ)

(金 礼坤)

大同江下流地帯の棉花栽培はなだかい。平安南道では落花生、平壤の栗、徳川の養蚕(徳川元羅)などが昔からの名産となっている。この地方の農業発達の原因は、鴨綠江、清川江、大同江の沖積地帯にあり、地形はほぼ一〇〇メートル内外の高さで低い丘陵の多い平坦なところであること、気候は大陸性で東海岸地帯にくらべてやや寒い、平壤では平均気温が九・二度で海岸では一〇度内外で



平壤にたちならぶ労働者アパート

あり、平安北道でも冬は零下二〇度にも下る時が多いが、夏は二四度もあり中朝朝鮮とはほとんど似ている。雨量は海岸では九〇〇ミリ、広梁湾付近の最寡雨地帯では七〇〇ミリとなるが、内陸地方では一、二〇〇—一、三〇〇ミリもある。降水量の悪条件を克服するための大規模な灌溉工事は大同江と清川江の水を引水する施設をもって完全に成功した。金日成首相が「この施設は土木工事における一つのりっぱな総合大学を連想させる」といわれたごとく、総合開発の大事業である。「安州郡の水水池工場の総土量は六二四万立方メートル、コンクリートは約二五万立方メートル、鉄材は三、〇〇〇トンに達する。これはコンクリートが一萬二、五〇〇棟分の二階住宅であり、掘り上げた土の量は一立方メートルで延長すると新義州から釜山迄の距離を七回半も連結することができる」といわれる。

このように自然改造の大事業は不可能をくだけき奇跡を生んだが、このたたいは海にもいどまれた。人間が海の上で歩きながら活動できる舞台を開いたといえよう。干拓地の拡張である。干満の差の多い西海岸の浅い緩傾斜地形を利用してすでに三〇万町歩を越す新しい国土を戦争と侵略ではなく、自然との闘争の中で拡張したのである。

このようにして「こんご十年内に一〇〇万町歩の新しい土地を獲得する遠大な目標のもとに、西海岸一帯の干潟地と全国の丘陵地、さらに普天、白岩などの高原地帯を開墾する大自然改造事業を強力におしすすめ……七カ年計画期間に五〇万町歩の土地をあらたに開墾して農耕地面積を二五〇万町歩に到達させるべき」幕はすでに切っておとされた。

七カ年計画完成のための歌声は黄海の波浪の上でもひとしお高く、特産のイシモチ、太刀魚、マス、エビ、カキ、貝類、昆布、ノリの増産に力をそそぎ、とくに広梁湾、南陽付近の製塩は全国一の産額を上げ、北朝鮮全生産額の八五%を越すといわれる。

かくして山や海に計画は貫徹され、村や工場に大成果の凱歌はとどろき、「全労働者、農民、インテリゲンチヤが明るい未来と勝利にたいする不動の信念にみちている」ここ平安道の息吹きは全国に吹きわたる。全民族の団結と、アメリカ帝国主義を押し倒す力の基地でもある。

(金 綠陽)

今号をもって地理講座「祖国めぐり」を終ります。病床にあつて執筆してくださいました金先生にお礼申しあげます。編集部

昭和36年3月8日第3種郵便物認可 1962年3月8日発行 (毎月1日発行)

新しい世代

■祖国をよりよく知るために



93



特集 / 民主民族教育

新しい世代の新しい教育 李 東準 9

■朝鮮大学の先生の立場から

真・善・美のハーモニ 朴 庸坤 14

■民主民族教育をうける喜び

民 族 意 識 崔 正鶴 18

唯一の学びの場 鄭 鎮仙 20

わたしたちのクラス 康 英才 22

■日本学校の先生の立場から

朝鮮を君らのその手で 楡 島利雄 26

若い朝鮮の友へ 森 川平八 28

三・一独立運動四十三周年 裴 秉斗 30

六つの高地占領(その一) 文 性守 32

「坡州木こり射殺事件」 編 集 部 36

世界的発見「経絡」 編 集 部 38

日本海を平和の海に 小 島晴則 54

連載マンガ	青春日記 全 哲 38
ひろば	
「島村」さんへ	朴 文玉 41
決 心	朴 玉善 42
朝高での生活	申 鈴姫 44
もしあの時こと	
わっていたら	李 潮 45
身ぢかに感じた祖国	申 秀竜 46
「若き抗日バルチザン」	
を読んで	康 成輝 48
短 信	58

日本軍国主義者の南朝鮮再侵略策動を糾弾する 祖国統一民主主義戦線中央委員会の声明

国 語 講 座 (形容詞) 金 礼坤 53

朝鮮古典名作物語 洪 吉章 伝 李 殷直 60

官地付近であった話 抗日バルチザン参加者の回想記 李 斗燦 67

金日成將軍

(一) 韓 雪野 71

国語講座

形容詞 (その二)

前回は、朝鮮語の形容詞が述語になるとき、時間の観点からどのように活用するか、ということについて説明しました。つぎに形容詞の法(きもち)について説明しましょう。

動詞の法には①直説法、②疑問法、③命令法、④勧誘法の4つがありますが、形容詞には基本的に①直説法と②疑問法の2つしかありません。では、そのつくりかたとつかいかたについて説明します。

1) 直説法

形容詞の直説法は、動詞の直説法とおなじように、はなし手がことごらありのままにみとめて、述べたてるかたちです。前号でとりあげた形容詞の現在、過去、先過去、未来のかたちが、同時に直説法としてのはたらきをもっています。そのつくりかたについてはすでに説明しましたが、もう一度その例を見ることにしましょう。

形容詞の直説法

(희다 [hüida] (白い) の場合)

現在	희-다	[hüi-da]
過去	희-였-다	[hüi-yöt-tta]
先過去	희-였였-다	[hüi-yösöt-tta]
未来	희-겠-다	[hüi-ge-ttta]

(例) 백두산 봉우리는 언제나 희다

[pækt̚tusan poθurinün önjena hüida]

(白頭山(の)峰は いつも白い)

(例) 압록강은 우리 나라 강 중 에서 가장 길다

[amnokkkaθün uri nara kaθju-θesö kajaθ kirda]

(鴨綠江は わが くに(の) 江(の)うち) でも つとも ながい)

2) 疑問法

疑問法は、ことごらについてきき手に問いかけるかたちです。疑問法のつくりかたは、動詞の場合とおなじように、現在の場合は語幹に(으)냐,あるいは느냐をくっつけてつくります。過去形、先過去形、未来形の場合は、時間をしめす接尾辞のあとに(으)냐あるいは느냐をくっつけてつくります。

(形容詞の直説法と疑問法)

時間	直説法	疑問法
現在	희-다 밝-다	희-(느)-냐? 밝-(으)-냐?
過去	희-였-다 밝-았-다	희-였(느)-냐? 밝-았(느)-냐?
先過去	희-였였-다 밝-았았-다	희-였였(느)-냐? 밝-았았(느)-냐?
未来	희-겠-다 밝-겠-다	희-겠(느)-냐? 밝-겠(느)-냐?

では、直説法と疑問法をひとつの表にならべた上の表をみくらべながら、

疑問法のつくりかたをおぼえてください。

(例) 너는 밤'길이 그리도 무섭
느냐?

[nönün pamk̚kiri kürido musöm-nünya]

(君は 夜道が そんなに こわいのか?)

(例) 일본에 조선인 학교가 삼백 여개나 된다' 정말 그렇게 많
으냐?

[irbone josönin hak̚kkyoga sabæk yögaena tëndani joθmar kurök̚be

manünya]

(日本に 朝鮮人 学校が 300 余個にもなるってほんとうに そんなに おおいの?)

さて、形容詞は基本的には直説法と疑問法の二つしかないのですが、<하다> がくっついてできた 대담-하다 [tædam-hada] (大胆だ), 조용-하다 [joyoθ-hada] (しずかだ) などのような一部の形容詞に、命令形や勧誘法のかたちがつかわれることがあります。例をみましょう。

時 間	直 説 法	命 令 法	勧 誘 法
現 在	대담하-다	대담하-라	대담하-자
発 音	tædamha-da	tædamha-ra	tædamha-ja

命令法と勧誘法とは、直説法のように、時間にしたがって活用しません。

(例) 그 분은 모든 일에 대담하다

[kü punün modün ire tædamhada]

(あの 方は あらゆる ことに 大胆だ)

(例) 너는 조금 더 자기 자신에 충실하라

[nönün jogum tö jagi jasine c̚huθ sirhara]

(君は もうすこし 自(己)分自身に 忠実であれ)

動詞が述語になる場合、階称にしたがって活用しましたが、形容詞も動詞とおなじように階称があります。ですから形容詞も階称にしたがって活用します。階称についてはまえに説明してありますので、ここで説明しません。

(1961年10月号をみてください。)形容詞は階称にしたがって、どのように活用するか、表にまとめておきます。この表は、時間や法にしたがう活用もふくんでいますから、述語になる形容詞の

全活用をふくんでいるわけです。例語には 밝다 [pakt̚ta] (明るい), 희다 [hüida] (白い) をもちいます。(51P) -하다, -지다, -스럽다, -롭다のよ様な接尾辞(あるいは単語)がくっついてできている形容詞はその接尾辞(あるいは単語)をこの表にあわせて活用させるといいわけです。ただ気をつけなければならないのは-하다がくっついてできた形容詞용감하다 (勇敢だ), 충실하다 (忠実だ) などの過去形は, 용감했다と용감했다との二つのかたちがあります。하다という動詞あるいは하다が名詞にくっついてできた形容詞が過去形になる場合は, ふつう, 했다の方がよくつかわれています。でも, どちらをつかってもかまいません。

つぎに-스럽다, -롭다がくっついて形容詞になる재미스럽다 (おもしろい), 해롭다 (害だ) が過去形になる場合は, 재미스러웠다, 해로왔다ある

(形容詞の活用表)

階 稱	時 間 語 幹	直 説 法			疑 問 法		
		現 在	過 去	未 来	現 在	過 去	未 来
第 一	회- ㅂ- 니다	회-였습 니다	회-겠습 니다	회-니까?	회-였습니까?	회-겠습니까?	
第 二	회- ㅂ- 오 ㅂ- 소	회-였소 ㅂ- 았소	회-겠소 ㅂ- 겠소	회-오? ㅂ- 소?	회-였소? ㅂ- 았소?	회-겠소? ㅂ- 겠소?	
第 三	회- ㅂ- 에 ㅂ- 네	회-였네 ㅂ- 았네	회-겠네 ㅂ- 겠네	회-는(ㄴ)가? ㅂ- 은가?	회-였는가? ㅂ- 았는가?	회-겠는가? ㅂ- 겠는가?	
第 四	회- ㅂ- 다 ㅂ- 다	회-였다 ㅂ- 았다	회-겠다 ㅂ- 겠다	회-냐? ㅂ- (으)(느) 냐?	회-였냐? ㅂ- 았냐?	회-겠냐? ㅂ- 겠냐?	
第 五	회- ㅂ- 어 ㅂ- 아	회-였어 ㅂ- 았어	회-겠어 ㅂ- 겠어	회-어? ㅂ- 아?	회-였어? ㅂ- 았어?	회-겠어? ㅂ- 겠어?	

いは해로웠다になります。재미스럽었다, 해로웠다とはなりません。(これは럽다の럽 [röp] の終声 p が v (兩唇ハレツの有声音) に移行し、さらにそれが w (兩唇まさつ音) に移行した結果おこった歴史的な現象です)。現行の音韻 (イン) 法則ではありませんので規則的に活用する집다 [jip̚t̚a] (縫う) では、過去形は집었다で지웠다にはなりません。特殊な不規則変化のケースですからいちいちについておぼえる必要があります。

いずれにせよ、これらの単語も法や階称のかたちは時間の接尾辞のあとにくっつけるものとおぼえてください。

さて、以上で動詞と形容詞とが、熟語になる場合どのように活用するかおまかに説明したわけですが、これでも全部とりあげたことにならないのです。というのは、肯定のかたちだけをとりあげて、否定のかたちはきりすてとりあつかわなかったからです。

英語のように no あるいは not という単語を動詞のまえあるいはうしろに

おけば、肯定が否定になるようなことばでは否定のかたちをことさら説明する必要はありませんが、日本語のように<行く>の否定のかたちは<行かない>になり、<いけ>の否定のかたちが<いくな>になるようなことばでは否定のかたちをひとつひとつおぼえなければなりません。

朝鮮語の動詞・形容詞の否定のかたちも、すこしばかりややっこしいので、ここで説明しておきます。

朝鮮語では、否定のかたちは、2つの方法でつくられます。ひとつは、動詞・形容詞のまえに아니 [ani] (省略したかたちでは안 [an]) あるいは못 [mot] をくっつけて、つくる方法です。못のほうはたんなる否定ではなく、不可能(できない)という意味もっています。ですから、못は、形容

肯定のかたち	否定のかたち
회다 (白い)	아니(안)회다 (白くない)
가다 (行く)	아니(안)가다 (行かない)
가다 (行く)	못가다 (行けない)

詞の否定のかたちをつくるためには、原則的にもちいられません。(51ページ下の表をみてください)

この아니다, 아니가다を法や時間や階称にしたがって活用させると、それぞれ肯定のかたちに対する否定のかたちができあがります。

第二の方法では, 아니다 (省略したかたちでは않다 [ant̚a]),あるいは못하다 [mot̚ada] という否定の助動詞を動詞・形容詞のあとにおいて、否定のかたちをつくります。この場合、助動詞のまえにある動詞・形容詞には、語幹のあとに지 [ji] という接尾辞をつけます。

- 회지 아니하다 (회지 않다)
(白くない)
- 가지 아니하다 (가지 않다)
(行かない)

가지 못하다 (行けない)
否定の助動詞아니다や못하다が하다 (する) に<아니>や<못>がくっついてできている単語であることは、すぐにわかります。実際そうです。아니다は日本語の(よみはしない); (たべもしない) の(しない)に相当する単語なのです。この日本語を朝鮮語になおすと、<읽지는 읽는다> <먹지는 읽는다>になり、つくり方までてしています。(는は日本語の<は>であり、은は<も>にあたります。) ちがう点は、動詞・形容詞の語幹に<지>という接尾辞がくっつくことです。

この接尾辞<지>は、動詞や形容詞を名詞化するためのものです。この否定の助動詞を法や時間や階称にしたがって活用させます。

階 稱	時 間 語 幹	直 説 法			疑 問 法		
		現 在	過 去	未 来	現 在	過 去	未 来
第 一	아니하 다 않	아니하- 습 니다	아니하- 였 습 니다	아니하- 겠 습 니다	아니하 니 까?	아니하- 였 습 니 까?	아니하- 겠 습 니 까?
第 二	아니하 다 않	아니하- 소 ㅂ- 오	아니하- 였 소 ㅂ- 았 소	아니하- 겠 소 ㅂ- 겠 소	아니하- 오 ㅂ- 소 까?	아니하- 였 소 ㅂ- 았 소 까?	아니하- 겠 소 ㅂ- 겠 소 까?
第 三	아니하 다 않	아니하- 네 ㅂ- 에	아니하- 였 네 ㅂ- 았 네	아니하- 겠 네 ㅂ- 겠 네	아니하- 는 가 까?	아니하- 였 네 가 까?	아니하- 겠 네 가 까?
第 四	아니하 다 않	아니하- 다 ㅂ- 다	아니하- 였 다 ㅂ- 았 다	아니하- 겠 다 ㅂ- 겠 다	아니하- (느) 냐? ㅂ- (느) 냐?	아니하- 였 (느) 냐? ㅂ- 았 (느) 냐?	아니하- 겠 (느) 냐? ㅂ- 겠 (느) 냐?
第 五	아니하 다 않	아니하- 어 ㅂ- 아	아니하- 였 어 ㅂ- 았 어	아니하- 겠 어 ㅂ- 겠 어	아니하 어 까?	아니하- 였 어 ㅂ- 았 어 까?	아니하- 겠 어 ㅂ- 겠 어 까?

名詞の述語形
ついでに、日本語の(だ, である)を朝鮮語ではどうか、説明しておきましょう。

名詞を述語にする場合、日本語では文のおしまいに(だ, である, です)のようなむすびの単語を用いますが、それとおなじように朝鮮語では(다)



朝鮮青年社刊
価150 千40

「若き抗日パルチザン」

を読んで

不死鳥のような朝鮮人民の英雄性と愛國的熱情、そして創造的エネルギーの源泉は、いったいどこに根ざしているのだろうか？

本書は、この問題に対して明確な解答をあたえてくれている。長期かつ困難だった金日成元帥の抗日パルチザン回想記は、今日祖国だけでなく、日本においても読者に大きな反響と勇気をあたえているが、本書は、その回想記の中から二十三編を収録している。
周知のように、金日成元帥は

人民革命軍は、日本帝国主義侵略軍を祖国から追いだし、民族の独立を勝ちとるたたかいを幅広く展開した。このときから祖国が解放されるまでの十五年にわたる抗日の不屈の闘いの中で、金日成元帥はつねにその先頭に立って指揮し、隊員の生活と学習、その他日常生活にいたるまで親しく指導された。戦闘のつかれをいやす間もなく、作戦の研究をし、隊員をみまわっては励まし、病人の隊員に自分の毛皮をかけていたわり、勇気づけた。また抗日パルチザン

一九三〇年代に、先進的な労働者、農民、愛国青年を中心に抗日パルチザンを組織し、当時分散的に活動していた抗日武装部隊を統合して一九三〇年に朝鮮人民革命軍を創建した。朝鮮人民革命軍は、日本帝国主義侵略軍を祖国から追いだし、民族の独立を勝ちとるたたかいを幅広く展開した。このときから祖国が解放されるまでの十五年にわたる抗日の不屈の闘いの中で、金日成元帥はつねにその先頭に立って指揮し、隊員の生活と学習、その他日常生活にいたるまで親しく指導された。戦闘のつかれをいやす間もなく、作戦の研究をし、隊員をみまわっては励まし、病人の隊員に自分の毛皮をかけていたわり、勇気づけた。また抗日パルチザン

の闘いは、日帝との闘いであると同時に零下四〇度をこえる酷寒との闘いであり、食糧もなく、数十日をひもじいままにごす空腹との闘いでもあった。隊員たちは、困難な時であればあるほど金日成元帥を信じ、団結して不屈の精神で闘いぬいた。一週間も食事をとらなかつた隊員三〇余名が、一合たらずの食糧をわけ合いたがいゆずりあった結果、半分もあまつた話(一合のミシカル)、トウモロコシ半斤を病人たちに与え、あとの隊員はカエルをとってたべながら、祖国のうるわしい山河に想いをはせながらすこした話(忘れぬメーデ)、勝利するためには学ばねばならないと、元帥自から隊員に字を教えた話(学習の第一歩)など感銘深い事実が記されている。
このように本書には、金日成元帥がいかにして抗日武装闘争を勝利へとみちびいたか、パルチザン隊員をいかにして不撓不屈の愛国者に教育したかについ

て、また金日成元帥の高まいな祖国愛と、気高い革命的同志愛が感銘深く叙述されている。
本書を熟読して、わたしは、敬愛してやまない金日成元帥の気高い人となりや胸底に焼きつけられ、元帥に対するいっそうの尊敬の念をいだかせた。
今日、わたしたちは、民族の至上課題である祖国の平和的統一のための闘いに立ちあがっている。この闘いにおいて、敬愛してやまない金日成元帥の教えに忠実に従って、抗日パルチザンのように考え、生活するならば、かならずや大きな勝利をかちえるということ確信している。わたしは、この本を、引きつづき座右の書として、闘いの教科書としてたえず身から離さないつもりである。本書はまた、朝鮮青年の必読の書として、広範な層に読まれるべきである。
(康成輝)

みんなにすすめたい本

ら、名詞の語幹が子音でおわる場合につなぎの母音(이)がつかわれるものとおぼえてください。では、<この建物は学校であった>という文は、朝鮮語ではどうかといえは<이 건물은 학교였다>といい、학교と語尾(다)との間に過去をしめす接尾辞(였)がさしこまれています。名詞述語形の法や時間や階称はこのようにしてつくられるのです。50ページの表を参照してください。

をもちいます。たとえば(あの建物は学校だ)という文は朝鮮語では<이 건물은 학교다>といい、むすびに(다)という語尾をもちいます。この場合、학교-이-다ともいい、학교と다のあいだにつなぎの이をいれます。このつなぎの母音は집-이-다(家だ)のように名詞が子音でおわっている場合はかならずもちいなければなりません。名詞が母音でおわる場合はほとんどもちいないのですが、학교-이-다(学校だ)のようにときたまつかわれます。だか

階 称	時 間 語 幹	直 説 法			疑 問 法		
		現 在	過 去	未 来	現 在	過 去	未 来
第一	코-손	코입니다 손입니다	코-였습니 다 손-(이)였 습니다	코-겠습니 다 손-이었습 니다	코-입니까? 손-입니까?	코-였습니 까? 손-이었습 니까?	코-겠습니 까? 손-이겠습 니까?
第二	코-손	코-요 손-이요	코-였소 손-이었소	코-겠소 손-이겠소	코-요? 손-이여?	코-였소? 손-이었소?	코-겠소? 손-이겠소?
第三	코-손	코-네 손-이네	코-였네 손-이었네	코-겠네 손-이겠네	코-인가? 손-인가?	코-였는가? 손-이었는가?	코-겠는가? 손-이겠는가?
第四	코-손	코-다 손-이다	코-였다 손-이었다	코-겠다 손-이겠다	코-냐? 손-이냐?	코-였냐? 손-이었냐?	코-겠냐? 손-이겠냐?
第五	코-손	코-여 손-이여	코-였어 손-이었어	코-겠어 손-이겠어	코-여? 손-이여?	코-였어? 손-이었어?	코-겠어? 손-이겠어?

この表を形容詞や動詞の活用表とよくみくらべてください。名詞の法や時間や階称のかたちにほとんどおなじです。動詞の場合も階称の第四のかたちをのぞいてはほとんどおなじです。

では、名詞の述語形の否定の場合はどうなるかといえは<아니다>(でない)という単語を文のおしまいにおきます。この場合述語になっている名詞は主格とおなじかたちをとります。たとえばつぎのようになります。

이 건물은 학교가 아니다

[i kŏn murŭn hakkyoga anida]

(この 建物は 学校(が)で ない)

교래는 고기가 아니다

[korænun kogiga anida]

(クジラは 魚(が)で ない)

朝鮮語にふなれな人にはこのようないいまわしをふしぎにおもうかもしれませんが、<あいつは金がない>といういいまわしにちかいと考えるとおぼえやすいでしょう。否定のかたちの場合は아니다を活用させて述語名詞の法時間、階称をしめします。<아니다>の活用表は紙面の都合で次の号にかかげることにします。(金 礼坤)

新しい世代

■ 祖国をよりよく知るために



今日成る神皇正統記60年記念号

4



朝鮮古典
名作物語
三人の少年の話
沈清の伝
李金
殷直
英順

連載マンガ	春日全哲 130
ひろば	
金日成首相への贈物	李光一 125
金日成元帥と私	姜玉順 125
金日成元帥の偉大さ	126
評判になった本	戸田明子 127
「不屈のうた」が教えるもの	張富成 127
初めて知った南朝鮮の現状	中義子 128
みんなにすすめたい本	「朝鮮／＼その北と南」 東榮壽 131
「ある女教師の手記」	全潤玉 132
写真特集	
金日成元帥(2)	
目次	カット 異日

動き・動き	
ハシカの能動免疫に成功	67
共和国の教育現状	68
「韓日会談」の危険な新局面	70
日本独占資本の南朝鮮侵入とその意図するもの	74
決意を新たにした母親たち	77

六つの高地占領	
日本の大学に進学した友に	
政見越えて技を争う	
朴成文	79
志亨	86
性守	90

金日成元帥誕生五〇年に際して	朴容徹	14
金日成元帥の偉大な指導	韓衡玉	18
私たちへの暖かい配慮	秋元政春	21
生涯忘れられぬ思い出	趙秀雄	23
二度お会いして	趙東旭	31
青年工作員への教え	黄順姫	42
元帥は私たちの親	韓雪野	51
人間金日成將軍	編集部	28
伝幼年時代から抗日	金光燮	32
略武装闘争に入るまで		
あなたの深いつくしみの手		
英知のひかりにみちひかれて		
金日成元帥誕生五〇年主要記念行事について		26
兄弟のさすなわが国よりピエト社会主義理邦		33
生死苦楽をともしする真の友		88
私がであった朝鮮青年たち	岩倉政治	88

国語講座

動詞の連体形

まえの号(1961年8・9月号)で、動詞が文のおしまいにきたとき、どういふふうに活用するか説明しました。動詞が文のおしまにくるときのかたちを終止形となづけておきましょう。ですが、動詞は文のおしまにくるだけではなく、文の中の名詞の前にもきて、名詞あるいは数詞、代名詞を修飾します。このときも、動詞はいろんなかたちに活用します。動詞が名詞のかざりになるときのかたちを連体形となづけておきましょう。連体形というのは、日本語にもありますので、簡単に理解できます。

《生きているものでなくっちゃ、こうびくつく訳がない。しめた、釣れたとぐいぐいたぐり寄せた。》(漱石「坊っちゃん」)

この文の中での《たぐり寄せた》という動詞は一番おしまにあるので、終止形なのですが、《すると今迄だまって聞いていた山嵐がふんぜんとして、起ち上がった。》(同上)という文の中の動詞《聞いていた》は名詞である《山嵐》という単語を修飾しているでしょう。このような動詞のかたちを、連体形というのです。

連体形の活用が終止形の活用とおなじ場合はここでとりあげません。あと

でひとまとめにして説明します。時間にしたがう変化のしかたが文末の述語になる場合と文の中で修飾語になる場合とでは、まるっきりちがっているのです。動詞の終止形と連体形とは、区別しなければならなくなっているのです。連体形が終止形とちがっているのは、法と階称と時間とにおいてなのです。しかし、連体形では、法と階称による活用はかけているともいえます。ですから連体形が終止形からことなるのは、まさに時間にしたがう活用のしかたにおいてであるといえるのです。では、朝鮮語の動詞の連体形の時間について、ここで説明しておきましょう。

朝鮮語の動詞の連体形の時間は、現在、第一過去、第二過去、未来に活用します。この活用のかたちをつぎの表にまとめておきましょう。

時間	接尾辞	例	日本語訳
現在	는	보는 사람 [panun saram]	見る人
第一過去	ㄴ/은	본 사람 [pon saram]	見た人
第二過去	던	보던 사람 [podon saram]	見ていた人
未来	을/ㄹ	볼 사람 [por saram]	見るであろう人

では、これらのかたちがしめす時間

の意味を説明しましょう。(連体形の時間のつかいかたのむづかしさは、それが、かならずしも終止形の場合のように話す瞬間と関係して、きまらない点にあります。どういう時間の連体形をもちいるかということは、終止形の時間と関係して、きまるのです。

《그 날 — 밤은 깊었는데 멀리서 닭이 우는 소리와 개 짖는 소리만이 들렸다.》

(その日の夜は深かったのに遠くから鶏がなく声と犬のほえる声だけがきこえた。)

このような文では、連体形の動詞우는(なく)や짖는(ほえる)は、現在のかたちがつかわれています。終止形の動詞들렸다(きこえた)は、過去のかたちがつかわれています。この場合、連体形の現在のかたちである우는(なく)や짖는(ほえる)は、文字通り現在をしめしているのではなく、終止形の動詞들렸다(きこえた)がしめしている動作のおこなわれた時間とおなじ時に、連体形でしめされている우는(なく)、짖는(ほえる)という動作がおこったことをしめしています。簡単にいえば、ないたりほえたりする動作がおこなわれているときと、きこえるという動作がおこなわれているときとおなじであることをしめしています。つまり、同時性をしめしているといえるのです。

《물레방아잔 옆에 어떤 여자 하나와 어떤 남자 하나가 서서 이야기를 하는 소리가 들리었다.》(水車小屋のよこに、ある女とある男一人が立って、話をしている声がきこえた。)

第一過去の場合

過去のかたちになっている連体形は時間の上でどんな意味をもっているかといえば、終止形でしめされている動作に先きだっておこなわれた動作をしめします。いいかえれば、連体形の過去は先行性をしめすものなのです。例をみましょう。

《그에게 얻은 책은 벌써 다 읽었다.》

(彼から(に)もらった本はすでにみんなよんだ。)

このような文では얻은(もらった)という動作は읽었다(よんだ)という動作よりも先におこなわれています。つまり、얻은(もらった)という動作よりも先行していることをあらわしているのです。そしてまた、この過去形は同時性をしめすことができます。たとえば、

《짐을 잔뜩 실은 우차가 떼져 떼져 소리를 내면서 그의 앞을 지나갔다.》

(荷物をいっぱい積んだ牛車がギシギシ音をたてながら彼の前を通りすぎた。)

このような文の場合では、실은(積んだ)という過去の連体形は지나갔다(通りすぎた)という動作がおこなわれるときの状態をしめしています。連体形の過去が状態の同時性をしめすことができるのは、타다(のる)、앉다(すわる)、입다(着る)のような瞬間性の動詞が連体形になる場合にかざられています。例えば

《새 학생복을 입은 학생이 교문을 들어왔다.》

(新しい学生服を着た学生が校門に入ってきた。)

第二過去の場合

ところが荷をつんだ牛車が通りすぎたという文を第二過去形をつかっていいあらわすと《짐을 실던 우차가 지나갔다.》(荷をつんでいた牛車が通りすぎた)となって、通りすぎるときはその牛車が荷物を積んでいるかいないかということには関係なくただ、積むという動作がその動作について話している瞬間より以前にあったということだけをあらわしているのです。したがって、等二の過去は過去におこった動作が問題になった場合にだけつかわれます。例をあげておきましょう。

《부엌에서 밥을 짓던 안해는... 방으로 들어왔다.》
(台所でご飯をつくっていた妻は部屋に入ってきた。)

未来の場合

動詞の未来の連体形は終止形でしめされている動作のあとでおこる動作をしめています。例文をみましょう。
《안해에게 말할 용기를 주었다.》
(妻に話す勇気をあたえた。)
この文の말할(はなす)という動作は、まだおこなわれていません。ただ話す勇気をあたえただけです。

そしてまた、この未来のかたちは、時間的に、未来をあらわすほかに、推量の意味をあらわすことがあります。

《오늘 낚일 고기를 상상했다.》

(今日つれるであろう魚を想像した。)
未来のかたちになっている連体形のあとに예(場合, ころ) 시간, (時間), 무렵(瞬間), 동안(あいだ)などのような時間をあらわす名詞がくるようなとき、連体形になっている未来のかたちがつ時間の意味は、単に未来をしめすだけでなく現在の意味にも、過去の意味にもつかわれています。

《내가 그와 친하게 된 것은 초등학교 다닐 때라고 기억하고 있다.》

(私が彼と親しくなったのは小学校に通っているころだと記憶している)

形容詞の連体形

形容詞の連体形というのは、動詞の連体形とおなじく、形容詞が文の中の名詞のまえにきて、名詞や数詞、代名詞を修飾するときのかたちです。そして、形容詞の連体形も動詞の連体形とおなじように、時間にしたがって変化します。では、朝鮮語の形容詞の連体形の時間について説明しましょう。

朝鮮語における形容詞の時間は、現在、過去、未来に活用します。この活用のかたちを、つぎの表におさめておきます。

では、これらのかたちがつ持っている時間の意味について説明しましょう。

時間	接尾辞	例	日本語訳
現在	ㄴ/은	용감한 사람 yoŋgamhan saram	勇敢な人
過去	던	용감 하던 사람 yoŋgamhadon saram	勇敢だった人
未来	ㄴ/을	용감할 사람 yoŋgamhar suram	勇敢であろう人

現在の場合

連体形になっている形容詞の現在形は、終止形でしめされている状態や動作が同時におこっていることをあらわしています。例をみましょう。

《깊은 밤에 촌으로 내려 왔다.》

(夜ふけに村へ下って来た。)

この文では、내려 왔다(下って来た)という動作がおこなわれている瞬間がちょうど깊은 밤(深い夜)なのです。

過去の場合

形容詞の連体形でしめされる性質が終止形でしめされる動詞の動作あるいは状態よりも、まえにあったということをあらわしています。つぎの文をみてください。

《그렇게 곱던 꽃이 어제 분바때 때문에 꽃'잎이 다 떨어져 버렸다.》

(あんなに美しかった花がきのうふいた)

風のために花びらがみんなちってしまっただ。)

未来の場合

連体形になっている形容詞の未来のかたちは、未来という時間そのものの意味が、推量や可能性などをあらわしているといえます。

《이 응용 문제는 쉬울 것 같이 보였다.》

(この応用問題はやさしそうにみえた。)

この、推量や可能性の意味をあらわす接尾辞は、時間をあらわす名詞예(とき, 場合), 시간(時間), 동안(あいだ)などのまえにつかわれることが非常に多いのです。

《춥고 눈이 많은 지방에 사는 사람들은 따뜻할 동안에 많은 일을 한다.》

(さむく 雪の多い 地方に住んでる人々は あたたかい うちに たくさん の 仕事をする)

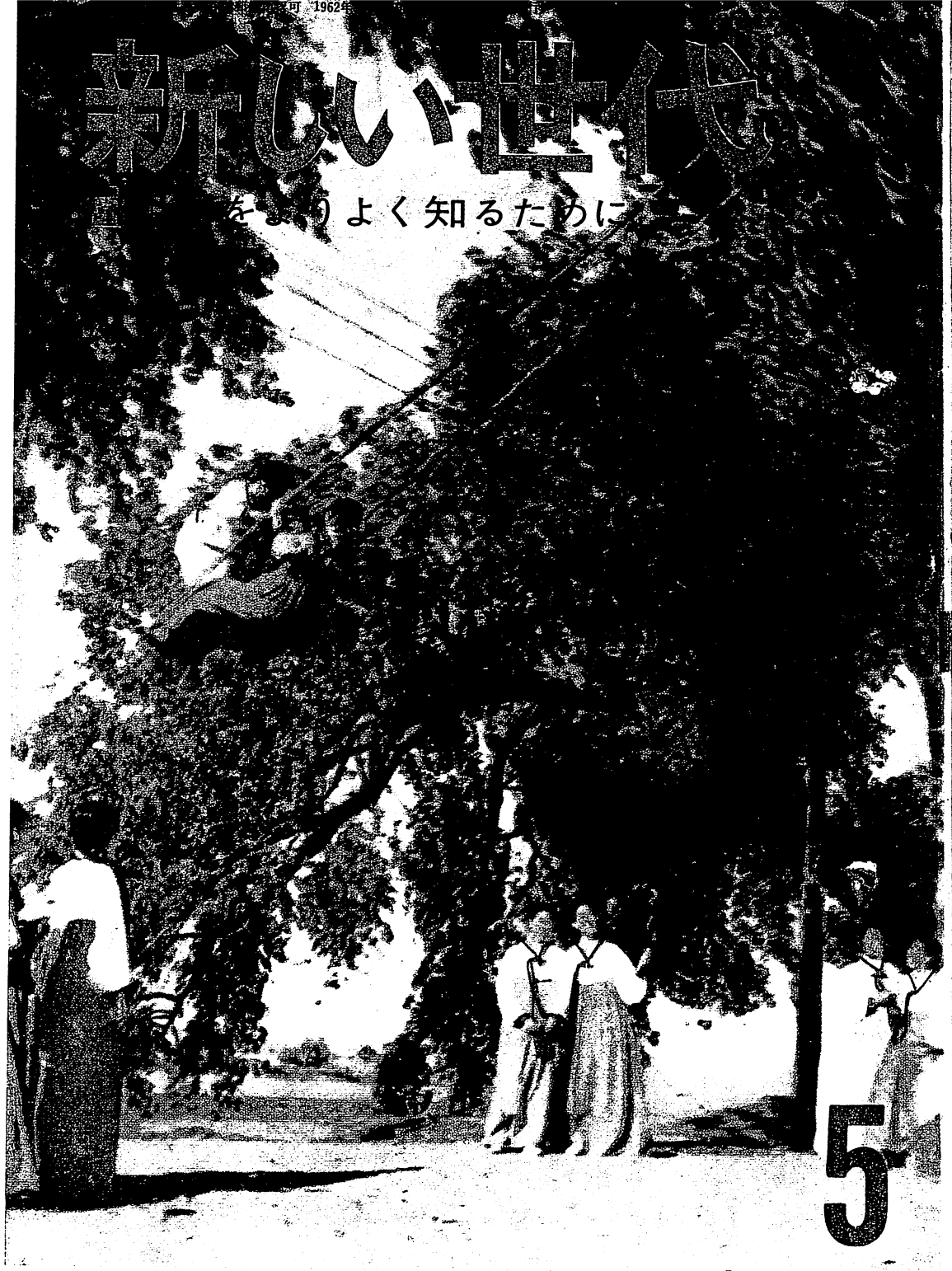
では、前号にのせられなかった《아니다》の活用表を下記の通りのせておきます。

階称 時間	法			疑問法		
	直	説	法	現 在	過 去	未 来
第一	아닙니다	아니-였 습니다	아니-겠 습니다	아닙니까 ?	아니-였 습니까 ?	아니-겠 습니까 ?
第二	아니-요	아니-였 소	아니-겠 소	아니-요 ?	아니-였 소 ?	아니-겠 소 ?
第三	아니-네	아니-였 네	아니-겠 네	아니-인가 ?	아니-였 는가 ?	아니-겠 는가 ?
第四	아니-다	아니-였 다	아니-겠 다	아니-냐 ?	아니-였 는냐 ?	아니-겠 는냐 ?
第五	아니-여	아니-였 어	아니-겠 어	아니-여 ?	아니-였 어 ?	아니-겠 어 ?

1962年

新しい世代

をよりよく知るために



貴重な血の教訓は
私たちの胸の中に脈うっている

11

……の動き

最高人民会議第二期第十四会議開かる
「四月の勇士」たちはたたかっている
前進するベトナム人民の反帝・反植民地闘争
日警の挑発策動に警戒心をたかめよう

31 29 25 22

六つの高地占領

文 性守 15

■兄弟のさすなご わが国と中華人民共和国

血で結ばれた永遠の友

編 集 部 19

メーデーのはなび

金 慶 吾 35

「動・植物名集小辞典」をみて

金 昌 男 58

本誌創刊二周年記念入選発表

魂の記 録(手記)

呉 善 姫 59

林具元君の手記(創作)

朴 榮 基 64

朴によく似た男(マンガ)

洪 永 昌 63

懸賞応募原稿入選発表について

63



金日成元帥誕生五十周年を祝う在日同胞

とこしえにすこやかであられよ 編集部 38

■座談会 朝鮮青年の間で「抗日バルチザン参加者の回想記」を説く運動
がおこなわれている。かれらはここから何を学んでいるか

抗日バルチザン回想記から何を学ぶか 44

■座談会 日活映画「キユーボラのある街」は好評裏に上映されている
原作者早船先生と女優さんをかこんで朝高生と対談してみた

未来を結ぶ朝鮮と日本の子ら 52

キユーボラのある街」を見て 劉 光 石 50

国語講座(動詞の相) 金 礼 坤 80

朝鮮古典 名作物語 壬辰録(上) 李 殷 直 68

群衆の中で(抗日バルチザン回想記) 朴 成 哲 81

人間金日成將軍(三) 韓 雪 野 87

写真特集 金日成元帥(その三)

カット 禹 万 石

国語講座

第十五回

抗日パルチザン
参加者の回想記

動詞の相

動詞の相の一般的な概念

これまでは、動詞が法(きもち)や時間や階称にしたがって、いろんなかたちに活用するということを説明しました。こんどは、動詞の相について説明します。まず、動詞の相についての一般的な概念を、日本語を例にして、理解していただくことにします。

相というのは、動詞の文法的なかたちのひとつであって、主体・客体と動作との関係を表現しています。主体というのは、動作をおこなうものことで、客体というのは、動作のはたらきかけをうけるものことです。たとえば、〈ブルトナーは木をたおした〉という文では〈ブルトナー〉は動作の主体であって、〈木〉は動作の客体です。ところが、この文でいいあらわしている意味は〈木はブルトナーにおしたおされた〉ともいえます。まえの文とくらべると、すぐわかることですが、あとの方の文では、動作のはたらきかけをうける客体は主語によって表現されています。そして〈おしたおす〉という動詞は、〈おしたおされる〉というかたちに変化しています。この〈おしたおされる〉というかたちを被動(うけみ)とよんでいることは、もう、みなさんにごぞんじでし

う。この被動のかたちにたいして〈おしたおす〉というかたちは、能動とよんでいます。

また、私たちは〈先生は生徒に本をよませる〉というような文をつくることがあるでしょう。このばあい、本をよむという動作の主体は〈生徒〉です。〈先生〉はその主体(生徒)によむという動作をおこすように刺激をあたえる人です。このような文では、動詞〈よむ〉は〈よませる〉というかたちに変化しています。このかたちを使動(使役)といいます。

そのほか、日本語には可能という動詞の相のかたちがあります。たとえば〈本がよめる〉という文のなかの〈よめる〉というかたち。このような能動被動、使動、可能などの動詞のかたちをひつくるめて、文法学では相とよんでいます。

他動詞と自動詞

この講座では、朝鮮語の動詞には、どういう相があるか、相はどんなかたちで表現されているかを説明しますが、そのまえに、他動詞、自動詞という概念をしつもらなければなりません。

動詞が、どんな動作をあらわしているかということでは他動詞と自動詞とにわかれるということは、もうみなさん

群衆の中で

朴

成

哲

「魚が水を離れては生きて行けないのと同じように、遊撃隊は人民を離れては生きて行くことはできない」といわれた金日成元帥の教えは、抗日遊撃隊の徹底した群衆観点であり、行動の指針であった。

わが遊撃隊が、日本帝国主義の苛酷なファッシヨテロ統治の暗澹とした時期に、風雪十五年というながい歳月にわたって敵とたたかい勝利をおさめることができたのは、ひとえに人民を信じ、か

は、動作をおこなうものは主語(인동어)でなく対格のかたちをとる補語(아이를)によって表現されています。主語は(なく)という動作を刺激し、さそいだす人をさしています。こういう点から見れば、自動詞に上の接尾辞がくつくと、動詞が使動(使役)的な意味をおびてきます。

他動詞に相の接尾辞がくついた場合

他動詞に相の接尾辞をくつくと動詞は、まず第一に使動(使役)の意味をおびてきます。たとえば 나는 책을 읽는다(私は本をよむ)という文を 나는 그에게 책을 읽힌다(私は彼に本をよませる)となおすと 읽는다(よむ)が 읽힌다(よませる)となつて使動(使役)の意味をもちます。つぎに、被動(受身)の意味をもつことがあります。たとえば 개가 영준이를 문다(犬がヨンチュニをかむ)という文を 영준이가 개에게 물린다(ヨンチュニが犬にかまれる)のようになおすと 문다(かむ)は 물린다(かまれる)となつて、被動をあらわしています。第三に、自動詞化することがあります。たとえば 문을 열다(戸をあける)という文を 문이 열린다(戸があく)という文になおすと, 열다(あける)가 열리다(あく)となつて、あるものが戸にはたらきかけなくても自然にあくという意味になって、自動詞になります。そしてこの文을 이 문은 열린다(この戸はあく)のようにつくりかえると, 열리다(あく)は可能の意味をあらわします。

おなじひとつの接尾辞が、使動(使

役)をあらわしたり、被動(受身)をあらわしたりする場合

以上の例であきらかなように相をつくる接尾辞は特定のもが特定意味をあらわしているわけではありません。相をあらわすひとつの接尾辞が使動をあらわしたり、被動をあらわしたりすることがあります。例をあげましょう。

업다	업-히-다
(お-う)	(おわす, おわされる)
물다	→ 물-리-다
(かむ)	(かます, かまれる)
안다	→ 안-기-다
(だく)	(だかす, だかれる)
보다	→ 보-이-다
(見る)	(見せる, 見られる)
맞다	→ 맞-이-다
(なめる)	(なめさせる, なめられる)

日本語の(かむ)という動詞は(かまれる)(かませる)のように受身と使役とのかたちがはつきりわかれているのですが、このような言葉になれているみなさんには、朝鮮語のこのような表現がむずかしく思えるでしょう。しかし、そうむずかしいことはありません。動詞そのもののかたちには区別がないとしても、文章全体の構造からみればすぐわかることです。単語というものはかならず文の中で一定の条件のもとにつかわれるものです。だから文全体の構造からみれば、きわめて簡単に区別できます。たとえば, 그는 동생에게 아이를 업히다(彼は弟に子供をおわせる)という文の主語(그는)は子供をおうようにしむけた人をあらわして 업히다という動作の主体は

与格のかたちをとった名詞동생でしめされています。したがって、この文の中の動詞은 업히다使動(使役)です。ところが 아이는 동생에게 업히다(子供は弟におわれている)という文では、(おう)という動作のはたらきかけをうける客体は主語でしめされています。したがってこの文의 업히다というかたちは被動の意味をもっています。こうしたことから 업히다는 文全体のなかで受身の意味をもっているか使役の意味をもっているかということをおきらかにすることができます。

使動と被動のかたちがちがう場合

では、朝鮮語の動詞には使動と被動の形態上の区別がまったくないのかといえば、そうではありません。朝鮮語の動詞にもそれを区別してつかわれようとする傾向が見られます。たとえば 쓰다(かく)に対する使動은 쓰이다というかたちがあり、쓰이다(かかされる)という被動のかたちがあります。このような例をいくつかあげておきましょう。

	使動	被動
뜨다(うく)	뜨우다	뜨이다
녹다(とける)	녹이다	녹히다
씩다(くさる)	씩이다	씩히다

アクセントによる相の表現

かたちの上から使動、被動の区別をしようとする傾向があるのに並行して、アクセントのちがいであらわそうとする傾向もあります。例をあげておきましょう。(※高い音は、で、長い音は一でしめします。)

	使動	被動
안다(だく)	안기다	안기다
업다(おう)	업히다	업히다
날다(とぶ)	날리다	날리다

—하-다という動詞つくりの接尾辞でできている漢語動詞では被動は키다という接尾辞がつかわれ、使動은 시키다という接尾辞がつかわれています。ここでは能動、使動、被動の意味がはつきりかたちの上に表現されています。ですからそのかぎりでは、朝鮮語の動詞には他動詞と自動詞のほかには被動、使動のかたちがあるといえるわけです。ですが固有朝鮮語の動詞については被動、使動のかたちがあるとはいえないでしょう。例をあげておきましょう。

使動形 被動形

해방하다	해방시키다	해방되다
(解放する)	(解放させる)	(解放される)
결합하다	결합시키다	결합되다
(結合する)	(結合させる)	(結合される)
무장하다	무장시키다	무장되다
(武装する)	(武装させる)	(武装される)
론증하다	론증시키다	론증되다
(論証する)	(論証させる)	(論証される)
증가하다	증가시키다	증가되다
(増加する)	(増加させる)	(増加される)

みなさんは動詞の相をめぐって、朝鮮語と日本語をくらべてみると、それぞれ民族語の独特の法則があるのにおきづきでしょう。朝鮮語と日本語とは文法的にはおなじだというふうにかんたんに理解してはいけません。

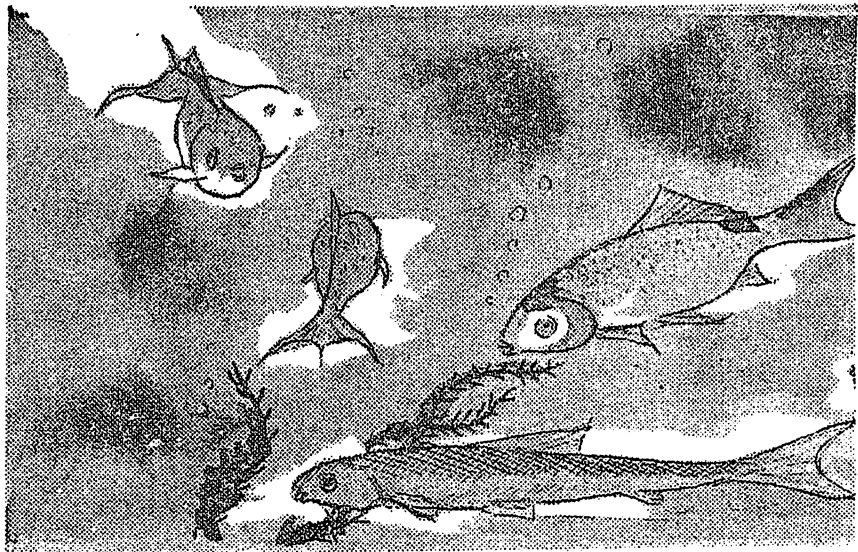
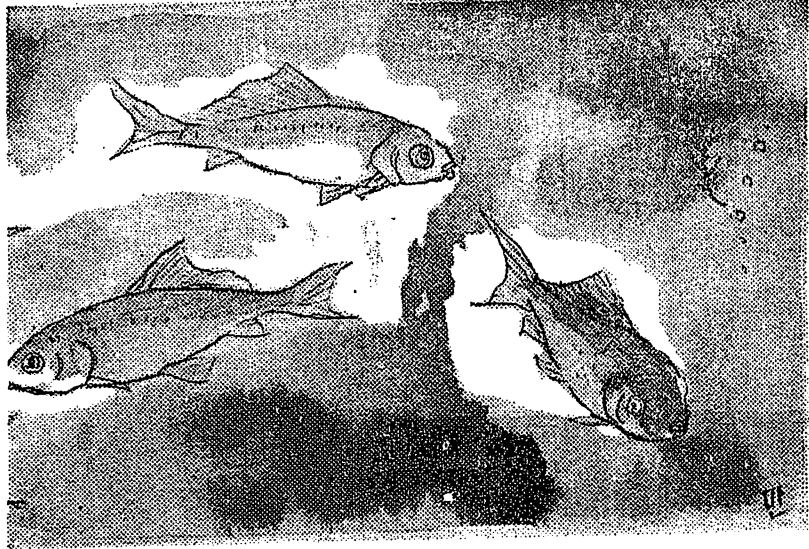
(金礼坤)

昭和35年 3月 8日 第3種郵便物認可 1962年 8月 1日 発行 (毎月1回1日発行)

新しい世代



7・8



祖国統一への早道

李元玉 7

◆兄弟のきずなき、ベトナム民主共和国とドイツ民主共和国

民族的苦痛をともしした国

現行帰国協定の延長をめぐって

世界青年学生祝典に在日朝鮮青年代表参加

松本正雄 28

アジア・アフリカの叫び

アジア・アフリカ作家会議カイロ大会に参加して

朝鮮の娘 20

朝鮮の娘

朴志亨 59

水穴の中で溺死寸前の七人の少女を救った金貞順さんの話

ひろば

今からでも遅くない
清潔で堂々とした女性
バラ色の人生
青年学校

金美智子 55
鄭美子 56
慎美子 57
権実 58

マンガ 青春日記 全 54
写真特集 アメリカ軍の正体 95

編集後記

特集 しあわせなつまつまな

「朝鮮人」とはかにされ、さげすまれてきたわたしたちの心は、毎日がまっ暗だった。そんなわたしたちが今年の春、朝鮮の学校に入学した。はたして朝鮮人は「野蛮人」だったか？ いやちがう。今わたしたちはそれを自信をもっていえる。

- 1 わたしたちはみな兄弟 金永子 40
 - 2 悩みにうちかつた喜び 呉英子 42
 - 3 新しい生活 姜龍子 43
 - 4 日本の学校と朝鮮の学校 姜末美 45
 - 5 一人でなく百人の有能な青年を 鄭洋美 46
 - 6 この幸福は決して離さない 李光子 47
- 茨城朝高と私 渡辺陽子 49
この子らとともに 朴正植 51

写真特集 朝鮮高校一年生 写真 鄭顯祚 文 朴密岩

国語講座 (接統詞)

朝鮮古典 名作物語 壬辰録 (中) 金礼坤 67

抗日バルチザン 回想記 死してもなお 黄錦玉 85

人間金日成將軍 (四) 韓雪野 76

南朝鮮からアメリカ軍を撤退させるための
全民族的闘争を展開する計画

国語講座

動詞の接続形(その一)

まえの講座では、動詞が述語になる場合のかたち(終止形)、規定語になる場合のかたち(連体形)を説明しました。こんどは、動詞の接続形というのを説明します。この接続形のはたらきはいろいろあって、一般的にいいますと、つぎのようになります。例に日本語をつかっておいた方がてっとりばやく概念がつかめるでしょう。

1) 述語(多くのばあい動詞でできている)とそれにさきだつ動詞との関係をしめします。たとえば<あの娘はきものをきてげたをはいている>という文では<きて>という動詞のかたちが接続形であって、このばあいくきて>は述語の<はいている>とおなじはたらきをしていることをしめしています。ですが、<彼は毒をのんでしんだ>という文では<のんで>という接続形は<しんだ>という述語にたいして原因をしめすはたらきをもっています。また<彼はいそいであるいた>という文では<いそいで>という<いそぐ>の接続形は、述語の<あるいた>を副詞のように規定しています。このように動詞の接続形というのは、述語に対する動詞の関係をいろいろと表現しているのです。

2) 文と文との関係をしめします

日本語でもふたつの文をならべるばあい、まえの文を接続形にして、ひとつのこみいった文にまとめてしまいます。たとえば<妹はあそんで兄はしごとをする>というぐあいに。こういうばあいは、ふたつの文の関係は並列的ですが、たいていばあいは、ひとつが主文になり他が従文になるという関係ができています。たとえば<雨がふれば、あすの遠足はとりやめだ>という文では、述語が接続のかたちをとっているまえの文<雨がふれば>は<あすの遠足はとりやめだ>というあとの文にたいして条件をしめしています。こんなふうに動詞の接続形は、複文のなかにおける文と文との関係をしめすはたらきをもっています。

では、朝鮮語の動詞にはどんな接続形があるかひとつひとつあげて、そのつかいかたを説明しましょう。

語幹に-고がついたかたち

動詞の語幹に-고という語尾をくっつけて、もっとも多かつかわれる接続形がつくられます。たとえば、

보다→ 보고 자다→ 자고
(みる)(みて)(ねる)(ねて)
잡다→ 잡고 입다→ 입고
(つかむ)(つかんで)(きる)(きて)

この接続形のつかいかたは、日本語の<して><よんで><かいて><あそんで>というかたちになにしています。おおまかに説明しますと、つぎのようになります。

1) 並列(ならべ)

ある主体の二つあるいはそれ以上の動作をおなじ資格でならべたてる場合。

(例) 정부는 농민에게 토지를 주고 노동자들에게 직장을 주었다.
[Cöbunün noŋminege thc Jirür Cugo nodoŋjadürege cikccaŋr Cuöt tta]
(政府は農民に土地をあたえ労働者たちに職場をあたえた)
(例) 청년들은 야학에서 글을 배우고 노래를 배우고 춤을 배웠다
[čhyöŋnyöndürün yahagesö kürür pæugo norærür pæugo čhumur pæwötta]

(青年達は夜学で字をならいうたをならいおどりをならった)

二つの文をおなじ資格でならべる場合にもやはりこのかたちがもちいられています。

(例) 형님은 공장으로 가고 나는 학교로 간다.

[hyöŋnimün koŋjaŋüro kago nanün hakkkyoro kanda]

(兄さんは工場へ行き私は学校へ行く)

(例) 개는 마당에 서명 멍질고 소는 외양'지에서 매-하고 울었다.

[kæŋün madaŋesö möŋmöŋ Citkko sonün eyaŋkkanesö mæ-hago uröt-tta]

(犬は庭でワンワンほえ牛は小屋でモーとないた)

2) 先行

このかたちはまた、ある動作にたいして先行していることをあらわします。つまり接続形でしめされる動作というものは、述語になる動詞でしめされる動作にさきだつておこるわけなのです。

(例) 그는 옷을 입고 구두를 신고 밖으로 나갔다.

[künün ösür ipkko kudurür sinkk-o pakküro nagattta]

(彼はきものをき、くつをはいてそとへてた)

(例) 옥순이는 이를 닦고 닳을 씻었다.

[okssuninün irür takkko natbür s-sisötta]

(玉順は歯をみがいて顔をあらった)

(例) 그는 밥을 먹고 목욕에 간고 공부를 한다.

[künün pabür mökkko mogyoge k-go koŋburür handa]

(彼はごはんをたべてふろに行つて勉強する)

二つの文で表現されるちがつたできごとの時間的継続をしめすためにもこのかたちがもちいられます。

(例) 어느 새 해가 지고 먼 산 넘어 등군 달이 뜬다.

[önü sæ hæga jigo mön san nöme tuŋgun tari tonnunda]

(いつのまに大陽がしずみ遠い山のむこうにまるい月がのぼる)

(例) 봄은 지나가고 여름이 닥쳐 온다.

[pomünc cnakago yörimi takčhyö onda]

(春はすぎて夏がちかづいてくる)

3) 様態 (ありさま)

この接続形は以上のような並列や先行の意味からずれて、あとにつづく動作の様態を規定するようになることがあります。

(例) 그는 언제나 가슴을 펴고 걸었다.

[kunün önjena kasümür p̄yögo k-öröttä]

(彼はいつも胸をはってあるいた)

-고がついた接続のかたちにはだいたい以上のような三つの意味があるわけなのですが、そのうち、第一にあげた並列の意味につかう場合には時間のかたちは語幹と語尾-고とのあいだに時間をしめす接尾辞をはさみこめばできあがります。

原形	現在	過去	先過去	未来
보다	보-고	보-았-고	보-았-었-고	보-겠-고

(例) 어제는 미술 시간에 음악을 하였고 오늘은 문학 시간에 작문을 지었다.

[öjenün misur sigane umagur hay-ötökkö onürün munhak sigane caðm-unüri cöttä]

(きのうは美術の時間に音楽をしたしきょうは文学の時間に作文をくつくと)かいた)

語幹に-며/으며がついたかたち

語幹に-며/으며がくっついてできあがった接続形は、まえにあげた接続形とほとんどおなじようなはたらきをもっています。-며/으며-の場合

も、並列、先行、様態をしめすはたらきがあります。

1) 並列 (ならべ)

(例) 그 처녀는 언제나 저고리를 입었었으며 머리를 곱게 땀었다.

[kü çhyönyönün önjena cögorirür ibössössümyö mörirür kopkke tta-ssöttä]

(あのむすめはいつもチョゴリをきていたし、かみ(頭)をきれいにあんでいた)

(例) 그들은 이 말을 눈을 플며 벼를 심는다.

[küdürün i pat̄ür nonür p̄burmyö pyörür simnunda]

(彼らはこのはたけをたんぼにし(つくり)稲をうえる)

-고の場合とおなじように、二つの文がおなじ資格でならべるときにもこのかたちがつかわれます。

(例) 어부는 바다에서 고기를 낚으며 농부는 논에서 논을 간다.

[öbunün pädaesö kogirür näkküm-yö noðbunün nonesö nonür kanda]

(漁夫は海で魚をつり農夫はたんぼで田をたがやす)

2) 先行

(例) 농민은 봄에 씨를 뿌리며 가을에 추수를 한다.

[noðminün pome s̄sirür p̄purimyö kaüre çusurür handa]

(農民は春に種をまき秋にとりいれる)

3) 様態

(例) 개는 꼬리를 흔들며 사냥

군을 따라 갔다.

[kænun kkorirür hündürmyö san-yaðkkunür ttara kattä]

(犬はしっぽをふりながらかりうどについていった)

(例) 그는 소리를 내며 책을 읽었다.

[kunün sorirür næmyö çæguur ir-göt tta]

(彼は声をだしながら本をよんだ)

このかぎりでは-고をつかっても-며をつかってもいいのですが、-며にはこのような意味のほかにも同時性をもしめします。-며のかたちには、ちょうど日本語の<よみながら><かきながら>の<ながら>にちかい意味があるので。

語幹に-아/-어あるいは-여がついたかたち

語幹に-아/-어あるいは-여がくついた接続形にはつぎのようなはたらきがあります。

1) 先行

-아/-어のかたちには-고や-며のかたちも持っている先行の意味がありますが-아/-어の場合はその先行の意味がきわめてはっきりしています。つまり第一の動作がおわってしまつてから第二の動作がはじまるというような場合に、この-아/-어のかたちがつかわれます。日本語の<よんでから><たべてから><あそんでから>というかたちもつ意味にちかいです。-고や-며のかたちも持っている先行の意味は並列の意味から派生したもので、基本的ではありません。

ですから、-고や-며は並列をあらわし、-아/-어は先行をあらわすというように理解していただければいいわけ

です。(例) 군에게서 편지를 받아 오래 되는데 회답하지 못한 것을 미안하게 생각하고 있소.

[kunegesö p̄yönjirür pada oræðe-nünde hedaphaji mot̄an kösür mianhage sæðgak hago ittso]

(君から手紙を受けとつて(もらつて)長くなるのに返事(回答)できなかったことをすまなく思っている)

この先行をしめすというはたらきから原因をしめすというはたらきが出来ています。つまり ある一つの動作が他の動作の原因になっているような場合、原因になっている動作が-아/-어のかたちでしめされるわけなので

2) 原因

(例) 그 사람은 병에 걸려(걸리어) 죽었다.

[kü saramün pyöðe körryö cügöt-ttä]

(あの人は病気にかかつてしんだ)

3) 目的

-아/-어のかたちをとる動詞がある種の心理動作をしめしている場合には、目的な関係をあらわします。

(例) 나는 현책을 구하여 간다를 하루 종일 걸었다.

[nanün hönc̄ægür kuhayö kandar ür haru joðir köröttä]

(私は古本をもとめて神田を一日中あるいた)

だ。こうして前半六点、後半を追加し合計九対〇で朝鮮チームの勝利に終わった。

市主催のレセプションはなごやかな雰囲気の中でおこなわれた。異口同音に朝鮮チームのすぐれた技をほめたたえ、これは青森県におけるサッカー普及におおいに役立ったと語った。特に県市議会議員諸氏は、「サッカーはひじょうによいスポーツだ。これを普及、発展させなければならない。そのためにわれわれは努力したい」と語り、関係者をよろこばせた。

北海道では四戦四勝

北海道では四カ所で行なわれた札幌では、今年五月、京都で行なわれた、全日本選手権大会に出場した北洋木材チームを

主力とする北海GFBと対戦した。この北海GFBは、今度の親善試合のために旭川で十日間の合宿練習をしたのだが、朝鮮チームのたくみなボールさばきに九対〇で屈した。翌日の第二戦は、岩見沢で友友奔別チームと降雨下で行なわれたが、十四対〇という大差で一方的に破った。室蘭でも富士製鉄を主力とする全室蘭と対戦し、三対〇で勝ち、北海道最終戦は函館市役所チームと対戦することになった。このチームは、歴史的にも古く、中央でも名のとおった名門である。最初函館はげんきなどところをみせていたが得点に結びつかず、反対に朝鮮チームの攻撃に屈し六点をいれられ零敗した。

になったと語り、岩見沢市の招待交歓会で市長代理は、スポーツを通じての技術向上も大切だが、これから日朝親善を深めるのもいっそう大切であると語っていた。また函館の主力選手の一人は、朝鮮選手には足が三本あるのではないかとその底力をたたえ、これから毎年訪れてくれるよう希望していた。

こうして今度の十一カ所における遠征親善試合で、朝鮮チームは九四点をかく得し、失点はわずか二点にとめ全勝をかざった。このように、試合が行なわれたすべてのところ、新しい朝鮮青年の底力を示した。在日朝鮮蹴球団は、遠征日程の半分を終えた。残る半分の西日本遠征にも、朝鮮チームは全力をつくすであろう。

国際五輪委 朝鮮の加盟承認

国際オリンピック委員会(IOC)は、朝鮮民主主義人民共和国オリンピック委員会を暫定的に国際オリンピック委員会の新しいメンバーに加入させることをきめた。同委員会はまた、「もし九月一日まで韓民主義人民共和国と統一チーム構成に同意しなければ」、一九六四年に開かれる「東京オリンピック大会に朝鮮民主主義人

民共和国スポーツ選手が独自のに出戦するよう許諾すること」に決定した。以前からIOCはオリンピック競技に参加するための南北統一チームを構成するよう南朝鮮に何度も提起した。しかしこれは南朝鮮の爲政者によって拒否された。一方、朝鮮民主主義人民共和国オリンピック委員会が南朝鮮側といつても会議する用意がある旨をなんども表明していたことは広く知られている。

一方IOC委員会執行委員会は、こんご責任ある国際競技の開催を、当該政府が全参加者への入国査証発給を保證するそのような国に委任することに満場一致で決定した。

るのですが、この場合も-며のかたちがもっている同時性の意味をはっきりさせるためにもちいられます。

(例) 그는 배우면서 일하고 일하면서 배운다.

[kūnūn pæumyōnsō irhago irham-yōnsō pæunda]

(彼はまなびながらはたらき、はたらきながらまなぶ)

語幹に -아서/-어서-여서 がくつついているかたち

-아서/-어서のかたちは -아/-어 とほとんどおなじような意味にもちいられます。ただ -아서/-어서には強調の意味があります。

(例) 그는 그 먼 길을 걸어서 떠났다.

[kūnūn kü mōn kirūr. kōrōsō ttōn-attā]

(彼はあの遠い道のあるいてたった<出発した。>)

これらの接続形のつかいかたに注意しなければならないのは、はじめにあげている一番目の意味をたいせつにすることです。二番目にあげている意味は一番目にあげている意味から派生した副次的なものであって、一番目の意味とくいちがってはつかえないからです。たとえば, 병에 걸려 죽었다という -아/-어 の原因をしめすというはたらきは、このかたちの先行性の意味からかけはなれてはありえないのです。したがって, 병에 걸려 (걸리어) 죽었다. という文の中にある -아/-어 というかたちをとった動詞のはたらきを先行性だと理解してもまちがいはならないのです。(金礼坤)

場合があります。

(例) 계곡의 맑은 물은 들고 돌아 밀림 사이로 흘러 내린다.

[kyegogūi margūn murūn togo t-ora mirrim sairo hūrrō næringda]

(溪谷のきれいな水はまわりまわって密林の間にながれて行く)

語幹に -고서, -면서/-으면서, -아서/-어서 がくつついたかたち
おおまかにいえば -고, -며, -아 -어 のかたちに -서がくつついてそれぞれの意味を強調しているというふうにかんがえればいわけなのですが、単に強調するだけではなく、多少意味がちがってきますので説明しておきます。

語幹に -고서がついているかたち
-고のかたちがもっているその先行性の意味をはっきりさせるために -고서のかたちがもちいられます。

(例) 너는 방금 사과를 먹고서 또 무엇을 달라고하.

[nōnūn paŋgūm sagwarūr mōkkkō-sō ttō mūōsūr tarranūnya]

(君はいまリンゴをたべてたのにまたなにをくれというのだ)

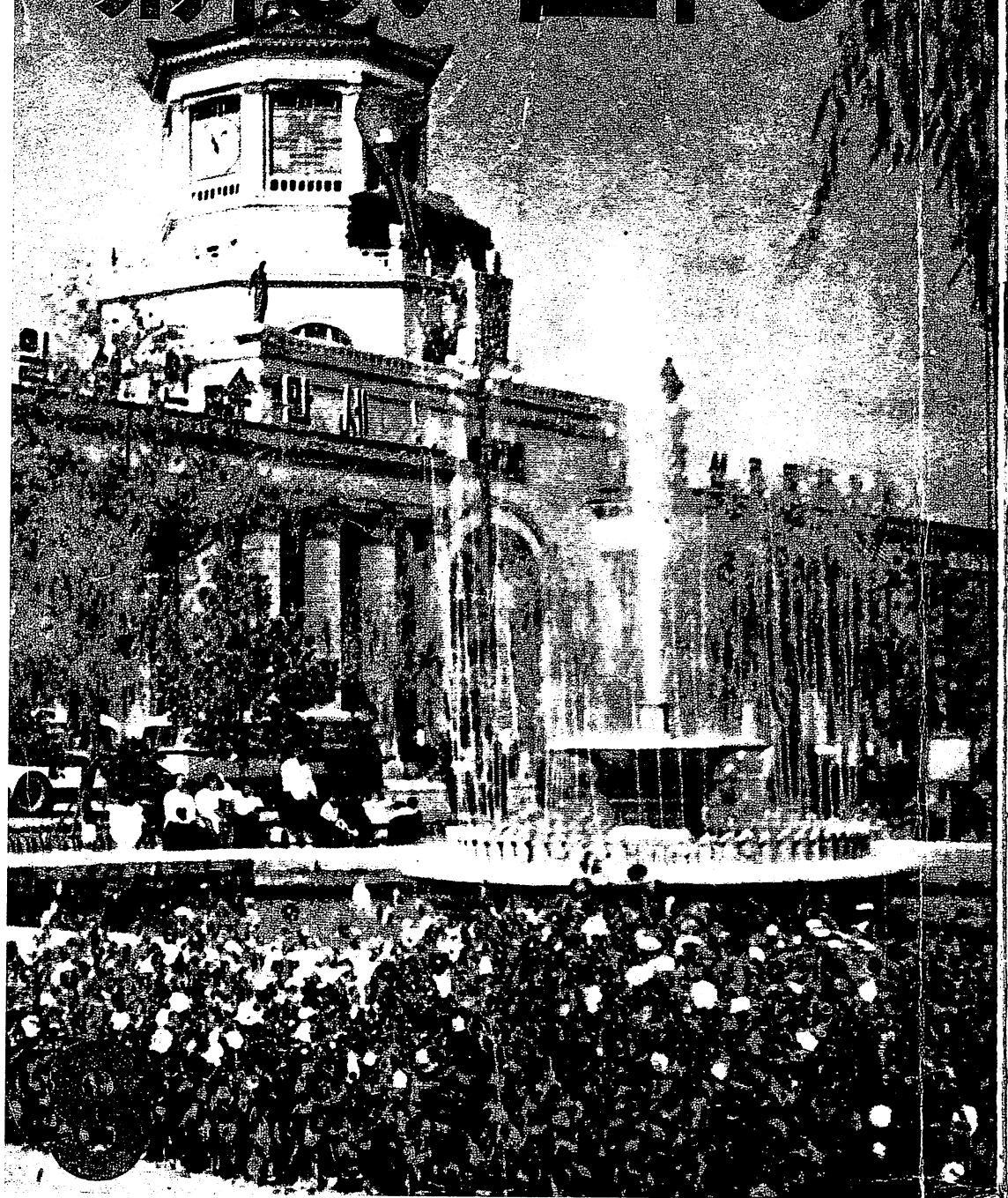
語幹に -면서/-으면서 がくつついているかたち

-면서/-으면서 がくつついてできている接続形は同時性、つまり二つの動作が同時におこることをしめしている

4) 様態

-아/-어 のかたちでしめされる動作が他の動作のありさまを特徴づける

新しい世代



◇今月のことは
明るい未来の主人公として自らをきたえておこう

祖国解放十七周年記念祝宴での金日成首相の演説

平和はたたかいとるもの……………梁 用斗 11
現行帰国協定を延長せよ……………石野 久男 12
関東大震災と朝鮮人……………朴 春 日 18

世界最高峰の芸術

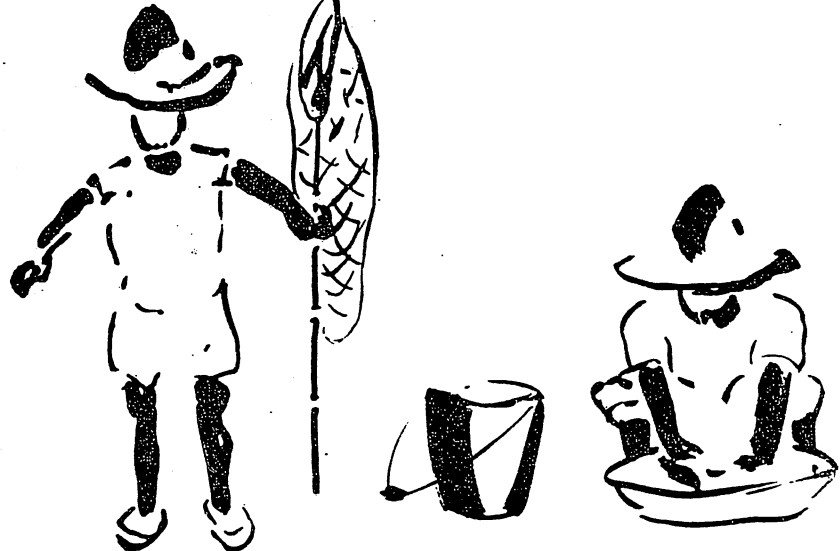
（第八回世界青年学生平和友好祭芸術部門で五個のメダルを獲得した絶賛された朝鮮の芸術）……………46

栄誉にみちたわたしたちの任務……………表 仁 洙 18
驚異の戦績……………金 慶 吾 58

二三戦全勝した在日本朝鮮蹴球団の底力は何か

朝鮮のほまれ、辛金丹選手、梁相斗

〈手記〉あつい感激をもって……………辛 金 丹 56
ある米兵の手記 わたしは呪われている……………ラッ・アブシアー 62



動き 外勢依存は亡国への道〔共和国〕……………35
語るに語れない〔南朝鮮〕……………37
核戦争の挑発者は誰か〔国際〕……………43
時 人道の航路を妨害するな〔日本〕……………40

「朝鮮人高校生の会」誕生

編 集 部 28

一人で悩まないで……………あなたに訴える
李 義 雄 30
私は孤立していない……………呉 久 子 32
全 京 子 31
さそいのハガキ……………生れるべくして生れた
李 成 俊 34
崔 洛 東 33

思想家・丁茶山

李 丞 玉 60

◆原稿募集……………110 マンガ・青春日記 全哲……………74 ◆目次カット 呉日

国語講座

金 礼 坤 79

壬辰録

李 殷 直 80

輝ける明日のために

李 永 淑 88

勇敢なかもめたち

李 永 淑 88

人間金日成將軍

韓 雪 野 91

ひろば 権永壁先生に学ぶ……………鄭 日煥……………68
朝青の事で頭がいっぱい……………李 春吉……………69
新しいタイプの青年……………高 幸子……………70
夜間登山……………呉 英子……………71
強く生きる……………金美代子……………72
朝鮮語を忘れた朝鮮人……………李 泰君……………73
表紙写真……………平壤駅前
グラビア……………青年学校の先生
カメラ……………鄭顯祚
白紙に墨をぬる……………文 朴密岩

国語講座

動詞の接続形 (その二)

動詞の語幹に -다가がついてきた
接続形

動詞の語幹, たとえば놀다の늘-に -다가をつけると, 놀다가というかたちの接続形ができます。この接続形のはたらきは, このかたちでしめされる動作が終止形でしめされる動作によって中断されることを表現しています。

(例) 안해가 나간 뒤에 나는 안해가 먹다가 던진 것을 찾으려고 야궁지를 뒤지었다。(쇠 서해)

[ânæga nagan tie nanün anæga mökŕtaga tönjin kösür çajuryögo aguðjirür tijyöŕtta]

(妻が出たあと, 私は妻がたべていて 食べた(すてた)ものをさがそうとして, かまどをかきまわした。)

この例でもわかるように接続形먹다가でしめされている動作は, つづいて終止形던지다でしめされている動作によって中断され, とりかえられています。この接続形も先行をしめしているといえるのですが, 単なる先行ではありません。先行をしめす接続形-아がつかわれている文とくらべてみましょう。

(例) A 나는 저 산을 어제 올 딱 (오르아) 오늘 내려 왔다。

[nanün cö sanür öje orra onür næ-

ryö wattä]

(私はあの山を昨日のぼって, 今日おりてきた。)

(例) B 나는 어제 저 산을 오르다가 내려 왔다。

[nanün öje cö sanür orüdaga næro wattä]

(私は昨日あの山をのぼって, おりてきた)

Aの文は訳文どおりに理解すればいいのですがBの文は訳文どおりに理解してはいけません。しいて訳するならば, (のぼりきらないで, 途中でやめておりてきました) というような意味になります。この-다가のつく接続形のかたちには過去と現在のかたちがあります。過去をあらわす場合は, 過去をしめす接尾辞のあとに-다가をくっつけるとできます。たとえば<よむ>という動詞<읽다>の過去は<읽었다>です。ですから, 읽었-のあとに-다가をつければいいのです。<읽었다가>が過去形であるのに対して<읽다가>は現在形です。

この-다가のほか, -다というかたちがあつて, だいたいおなじような意味につかわれます。

(例) 책을 읽다 무엇을 하느냐?
[çægür ikŕta muösür hanünÿa]

(本をよんでいて, なにをしているのだ) この本は<本をよんでいて, それ

をやめてなにをしているのだ>という
ような意味に理解してください。

くりかえしておこなわれて二つの動作をしめすときには, やはりこの-다가あるいは-다のかたちがつかわれます。

(例) 그는 운동장을 왔다 갔다 하였다。

[künün undoðjaðür wattä kattä hayöŕtta]

(彼は運動場を行ったり, きたり (きたり, いったり) した。)

このばあい普通-다をもちいます。

動詞の語幹に -자가ついてきた接続形

動詞, たとえば-타다の語幹타-に-자をつけると타자のような接続形ができあがります。この接続形のはたらきは, このかたちでしめされる動作がおわると, その瞬間につぎの動作がおこなわれることを表現します。

(例) 전차는 내가 타자 곧 움직이기 시작했다。

[cönçhanün næga taja kot umjigi sijakhættä]

(電車は, 私がのると, すぐにうごきはじめた。)

この接続形も先行をしめしていることにはちがいののですが, つぎの動作が瞬間的におこるという点がちがっているのです。ですから, 日本語に訳すときには<のるやいなや>のように訳すれば, 意味をうまくいいあてたことになるのですが, 実は, 朝鮮語にも<するやいなや>というようにいいまわしがあつて, 瞬間性を強調する場合にもちいられます。たとえば<よむやいなや>, <たべるやいなや>という

いいまわしは, 朝鮮語では<읽자 말자><먹자 말자>というようになります。

動詞の語幹に -도록がついてくるかたち

たとえば<明ける>という意味の動詞새다の語幹새-に-도록をつけると, 새도록という接続形ができます。このかたちは終止形でしめされる動作が進行する限界をしめします。日本語の<……まで>ぐらいの意味に理解すればいいでしょう。このかたちは時間をしめす接尾辞<았 (았, 었)>, <였>のあとにはつきません。

(例) 그는 밤이 새도록 공부를 했다。

[künün pami sædorok koðburür hættä]

(彼は夜があけるまで勉強した。)

(例) 어제 밤은 강아지가 방문 앞에 와서 밤이 새도록 울어 잠을 잘 수가 없었다。

[öje pamün kaðajiga paðmun aphe wasö pami sædorok urö camür car suga öpsöŕtta]

(昨夜は小犬が部屋(房)(の)戸(の)まえに来て, 夜あけまで (一晩中) ないて(ねむりを)ねむることができなかった。)

でも, つぎのような文では-도록という接続形は<……ように>と訳さなければなりません。

(例) 의사는 환자들에게 병원에서 새पाल 규칙을 꼭 지키도록 주의하였다。

[üisanün hwanjadürege pvöðwöne-söüi sæðhwar kyuchigür kkoç cik^h-idorok cuüi hayöŕtta]

(医者は患者たちに病院での生活(の)規則をかならずまもるように注意した)

この文を直訳すれば<医者は患者たちに病院での生活(の)規則をかならずまもるまで注意した>という意味になるのです。このようにみていくと、-도록 というかたちももともとは時間をしめす接尾辞にほかならないということがわかるでしょう。この-도록 というかたちは하다という単語とくみあわさってつかわれることが多いです。このばあい<……ようにする>という意味になります。

(例) 걸린 병을 고치기 위한 연구도 중요하다, 병에 안걸리도록 하는 연구가 더 중요하다.

[kōrrin pyōdūr kocʰigihān yōngu. do cuḡyo hana pyōde angōrridorok hanūn yōnguga tō cuḡyohada]

(かかった病気をなおすための研究も重要だが、病気にかからないようにする研究がもっと重要である。)

動詞の語幹に -니/-으니 がくっついているかたち

動詞、たとえば 보다の語幹보-に-니をくっつくと、보니という接続形ができます。このかたちは、終止形でしめされる動作がおこなわれるときの時間をあらわしています。

(例) 내가 회장에 들어 가니 마칠 회의가 시작되는 판이었다。

[næga hējaḡe tūrō kanī macʰim hēūiga sijaktēnūn pʰaniyōttā]

(私が、会場に入って行くと、ちょうど会議がはじまるころだった。)

この接続形でしめされる動作が、終止形でしめされる動作を条件づける場

合には、接続形は単に時間をあらわすのではなく、原因をあらわすようになります。

(例) 오래간만에 담배를 피우니 머리가 빙빙 돈다。

[oræganmane tambærūr pʰiuni mō-riga piḡbiḡ tonda]

(ひさしぶりにたばこをすうと、頭が(ぐるぐるまわる)くらくらする。)

(例) 문을 닫으니 방이 어둡게 되었다。

[munūr tadūni paḡi ödūpke dēyōttā (戸をしめると、部屋(房)がぐらくなつた。)]

また-니のかたちは、終止形でしめされている判断のよりどころをあらわすこともできます。

(例) 뽐뽐 소리 치는 것을 보니 두부재이가 오는가 보다。

[pʰæc pʰæc sori cʰinūn kōsūr po-ni tubujæḡiga onūnga poda]

(ブーブー音をたてているのをみると豆腐屋がきているらしい。)

(例) 개 짖는 것을 보니 누가 왔는가 보다。

[kæ cinnūn kōsūr poni nuga wan-ūnga poda]

(犬(の)ほえるのをみるとだれかきたらしい。)

-니のかたちの接続形は時間、原因、根拠をあらわしているのですが、だいたいこれとおなじようなはたらきをもった接続形には、-니까/-으니까、-매、-은즉、-길래などがあります。

-니까-으니까がついてできた接続形

A 時間をあらわしている場合

(例) 이틀날 날이 맑은 뒤에

보니까 은 마당, 지붕, 나무 가지에 눈이 함박 같이 쏟아 졌다。

[itʰūnnar.nari pargūn t̄ie ponik̄ka on madaḡ, cibūḡ, namu kacie nuni s̄sodajōttā]

(あくる日、夜があげたあと(日があかるくなったあと)みると、にわ(や)やね(や)木の枝に雪がまっしろに(こぼれていた)つもっていた)

(例) 내가 역으로 가니까 막상 전차가 떠나려 하는 순간이었다。

[næga yōgūro kanikka maksaḡ cōncʰaga itōnaryō hanūn sunganiyōttā]

(私が駅に行くと、ちょうど電車がでようとする瞬間であった。)

B) 原因をあらわす場合

(例) 너는 다 것을 너무 많이 먹으니 까 이가 나빠진다。

[nōnūn tan kōsūr nōmy mani mōgūnik̄ka iga napajinda]

(君はあまいものをあまりたくさんたかべるら、歯がわるくなる。)

-니까のかたちをとる接続形は、日本語の<……と>や<…から>や<…ので>のように訳すことができます。

-매/-으매がついてできい接続形

(例) 선생님이 잔다고 하시매 나는 그것을 믿었다。

[sōnsæḡnimi kandago hasimæ nanūn kūgōsūr midōttā]

(先生が行くとおっしゃったので、私はそれを信じた。)

(例) 걸에서 소리를 지르매 자는 애가 놀라지 않았는가。

[kōtʰæḡsō sorirūr cirtūmæ canūnæ norraji anannūnga]

(そばで声をだすからねている子(が)

おどろいたのではないか)

このかたちも日本語の<……ので><……から>などに訳すといいでしょう。

-L 즉/-은즉がついてできた接続形

(例) 길 가는 사람에게 물어 본 즉 눈 앞에 있는 것이 나의 친구 집이었다。

[kir kanūn saramæge murō ponjūk nun apʰe innūn kōsi nauī cʰingu cibi yōttā]

(道行く人になぞねてみると眠のまえにあるのが私のともだちの家であった)

(例) 여기까지 올랐은즉 봉우리까지 오르기에 그다지 어렵지는 않다。

[yōgik̄kaji orrasūnjūk poḡnr̄ikkaji orūgienūn kūdaj ōryōpc̄inūn antʰa]

(ここまでのぼったので(のだから)頂上までのぼるのにはそれほど困難なことではない。)

これらのかたちを原因、根拠のほか時間をしめすことができるのですが、-므로、-거늘、-거니、-는지라がついてできている接続形は純粋に原因や根拠のみをあらわして、時間はしめしていません。

(例) 회원의 반수 이상이 출석 하였으므로 총회는 성립된다。

[hēwōntūi pansu isaḡi cʰursōk hay-ōssurnūro cʰoḡhētūn sōḡnipdēnda]

(会員の半数以上が出席したので総会は成立する)

(例) 그는 아이가 난 시간을 똑똑히 알아 두고 싶었으나 시계를 안가졌으므로 거리로 나갔던 것이다。

[kūnūn aiga nan siganūr ttōk ttōk-
bi ara tugo sip^hōssūna sigyerūr ang-
ajōssūmūro kōriro nagattītōn kōsida]

(彼は子供が生まれた時間をはっきり
しておきたかったが、時計をもたな
かったので外へ出たのであった。)

-거늘がついてできた接続形
(例) 내가 보았거늘 너가 거짓말
을 할수 있겠느냐

[næga boatkkōnūr nōga kōjinmarur
har su ittkennūnva]

(私がみたのに, 君がうそをいうこと
ができるか)

このかたちはおもにかきことばにつ
かわれて、いくらかふるめかしいニュ
-アンスをもっています。そして、あ
まり多くつかわれません。

-전めがついてできた接続形
(例) 내가 보전대, 그 일은 아주
순조로이 진행될 것 같다.

[næga bogōndæ, kū irūn aju sun-
jororoi cinhæddēr kōt kattta]

(私がみるところでは、その仕事は順
調に(進行)すすめられそうだ。)

(例) 듣전대 등무는 이번 배로
조국에 간다지?

[tutkkōndæ toḡmunūn ibōn pæro
coguge kandaji?

(きけば) きくところによると, 君は
今度の船で祖国に行くんだって?)

-거니がついてできた接続形
(例) 그는 조국을 지키기 위한
투쟁에 목숨을 바쳐 싸왔거니, 이

어찌 고귀한 애국 정신이 아니라

[kūnūn cogugūr cik^higihan t^hujæ-
ḡe mokssūmūr pac^hyō ssawōtkkōni
i ḡccī kogihan cōḡsini anirya]

(彼は祖国をまもるための闘争にいの

ちをささげてたたかった(のに)これど
うして高貴な愛国精神でなろうか)

(例) 벌써 열 두시가 넘었거니 이
산'길을 어떻게 가리오

[pōrssō yōr tusiga nōmōtkkōni i
sankkirūr ḡttōk^he kario]

(もう12時がすぎたのにこの山道をど
うしていきましょう)

このかたちは、くりかえしておこな
われる動作のこともあらわします。

(例) 고장난 자동차를 밀거니 달
기거니 사람들은 땀을 축축 흘리
고 있었다

[kojaḡ nan cadoḡc^harūr mirgōni
taḡgigōni saramdōrūn ttamūr c^hu-
kc^huk hūrrigo issōttta]

(故障した自動車を押したり引いたり
人々はあせをたらたらながしていた)

-는지라がついてできた接続形

비가 많이 오겠는지라, 우기 때
책을 잘 세우도록 만전을 기한다

[piga mani ogennūnjira, ugi tæc^h-
ægūr car seudorok manjōnūr kiha-
nda]

(雪が ふりそうなので、雨期対策を
よくたてるよう万全を期する)

(例) 오래' 동안 비가 안오는지라
급년 수확이 걱정이다

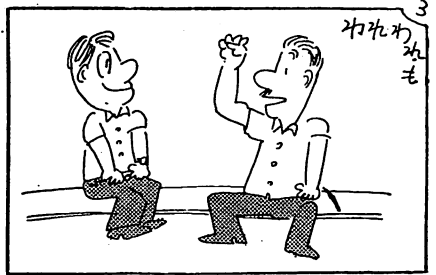
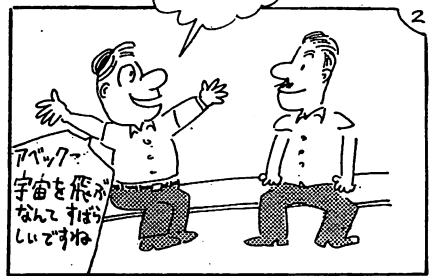
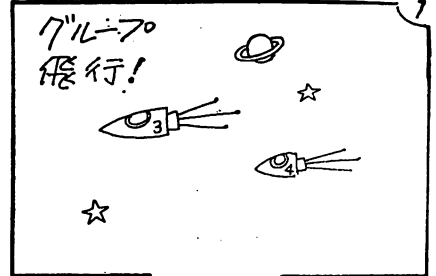
[oræ piga anonūnjira kūm nyōn
suhwagi kaccōḡida]

(ながいあいだ雨がふらないので今年
の収穫が心配だ) (金札坤)

訂正 先月号63ページ左段下三行「4」
様態……づける」は同ページ左段の一
番上につづくものでした。

青春日記

5
5
5
5
5
5
5
5
5
5





◇今月のことは

韓日会談の真のねらいを知り、これに反対しよう……………5

侵略と戦争の道 「韓日会談」 任 泰光……………5

功勞メダル受勲者の手記

千里の駒時代に生きる喜び……………鄭 泰 重……………36

世界に輝く朝鮮の芸術……………宝木実……………24

ヘルシンキに共和国の旗はばたく……………李学鏡……………26

進学就職のための 特集 開かれた進路

◆帰国した弟……………朴 美子……………38

◆在日同胞心の殺となつて……………金 載烈……………45

◆ぼくらの朝鮮大学……………高 勇夫……………40

◆祖国との貿易……………朴 相振……………46

◆祖国統一の一齒車……………金 敏男……………41

◆同胞企業の權益を守つて……………姜 夏子……………47

◆K君への手紙……………十 宰洙……………43

時の動き

暴風雨下の同胞愛……………共和国……………18
軍服を背広にかえる〔南朝鮮〕……………15
「自由」の仮面をかぶった黒い気流〔国際〕……………19
盛大に祝つた共和国創建記念日〔日本〕……………21

夏季工作隊参加者の手記

同胞をたずねて……………李 海……………49
この人たちを忘れまい……………全 粉……………52
道は開かれた……………袁 正……………53

短信……………23・51

マンガ・青春日記 全哲……………68 カット 呉日……………51

国語講座……………金 礼……………61

許生伝(古物典名)……………李 殷……………75

密营地(ハルチザン回想記)……………金 奎……………62

ひろば……………文 朴密岩……………35
東京見物 関 玉姬……………69
僕の反省 要 相勲……………71
表彰状 朴 武子……………71
チョコリ 采 清美……………73
オモニ 金 清子……………74
読者を増やす 李 成姫……………74
グラビア……………
功勞メダルをもらった白トナム 写真 鄭顯許……………35
紙の弾丸……………35

国語講座

動詞の接続形 (その三)

～면のかたちをとる接続形

～면のかたちをとる接続形は条件をあらわしますが、このかたちのつくりかたはふたとおりあります。ひとつは語幹につけるばあい、もうひとつは終止形のうしろにつけるばあいです。それに、このかたちには現在と過去があります。ですから、つぎの表のように四つのつくりかたがあるとおぼえておいてください。

時 間	語幹に～면が つくばあい	終止形に～면 がつくばあい
現 在	하-면	한다-면
過 去	하였으-면	하였다-면

ある動作というのは一定の条件のもとでおこるのですが、その条件をしめすのが条件形のはたらきなのです。接続形がつかわれている文では、条件づける動作が条件形でしめされ、条件づけられる動作は文末の終止形でしめされます。このかたちは日本語に訳すなら<……すれば>、<……するなら><……すると>のようになります。では例をみましょう。

(例) 비가 오면 땅이 굳어진다.

[piga omyön ttaŋi kudŏjinda]

(雨がふると、地がかたまる)

(例) 일곱시 기차를 탄다면 적어

도 여섯시에는 집을 나가야 된다.

[irgopssi kicʰarür tʰandamyön cöŋ-ödo yösötssienün cibür nagaya tända]

(7時の汽車に(を) のるなら、すくなくても6時には家を出なければならぬ)

語幹に～거든がくつitted接続形

～거든というかたちは～면とおなじような意味をもっているのですが、すこしちがっているところがあります。～면のかたちの接続形は<…すれば><…するなら><…すると>と訳すことができるのですが～거든のかたちの接続形は<…すれば><…するなら>までは～면のはたらきとおなじなのですが、<…すると>とは訳せません。

(例) 비가 개거든 영화 감상회를 운동장에서 합니다。

[piga kægödün yöŋhwa kamsaŋh-erür undoŋjaDesö hapssida]

(雨があがれば、映画観賞会を運動場でしましょう)

(例) 그에게 집을 부치거든 이 집도 같이 부쳐 주십시오。

[küege cimür buchigödün i cimdo kachi puchyö cusipssio]

(彼に荷物をおくるなら、この荷物もいっしょにおくってください)

語幹に～르진대 / ~을진대がついてできた接続形

このかたちも～면とおなじような意

味につかわれるのですが、このかたちはおもしろさをおびた特殊な表現にもちいられ、いくらかふるめかしさをもっています。このかたちは未来をあらわす時間の接尾辞～르의あとではつかわれません。

(例) 동무와 같이 갈진대 무엇이 두려우랴。

[toŋmuwa kachi karcčindæ muösi turyöura]

(トムムといっしょにいくならなにがおそろしかろう)

(例) 그가 돌아 을진대 여기서 말할 것 없지 않느냐。

[küga tora orcčindæ yögisö marhar köt öpcci anünya]

(彼がかえってくるならここで話すことないじゃないか)

語幹に～던들이ついてできた接続形
条件といったばあい、条件づける動作と条件づけられる動作とが現実的である場合のほかにく仮にそうであれば…そうなるであろう>という仮定的条件があります。たとえば、

봄이 오면 농부는 씨를 뿌린다。

[pomi omyön noŋbunün ssirür ppu-rinda]

(春がくれば農夫はたねをまく)

この文では条件づける動作も条件づけられる動作も現実的なのです。

또또소에 수소폭탄이 떨어지면 일본의 십분지 일의 인구가 전멸할 것이다。

[ttokkyoe suso pʰoktʰani ttöröjim-yön irbonüi sip ppunji irüi inguga cönmyörhar kösida]

(東京に水素爆弾がおちたら、日本の10分の1の人口が全滅するであろう)

この文では、条件づける動作も条件づけられる動作も、仮定の上になっっています。そうすると条件の中には現実的な条件と仮定的条件とふたとおりあるということになります。これまであげた～거든、～르진대 / ~을진대というかたちは現実的な条件をあらわしますが、～면は現実的な条件も仮定的条件もあらわします。～면のかたちが仮定的条件をあらわすばあいは、終止形のかたちはつぎのようになります。(次に説明する～던들というかたちの接続形も仮定的条件をしめしますので、このばあいの終止形も次のようなかたちをとります)

……하겠다

……할 것이다

……하리라

……하였겠다 (했겠다)

……하였을 것이다 (했을 것이다)

(例) 남조선에서 미군이 나가면 조선은 문제 없이 통일될 것이다
[namjosönesö miguni nagamyön cosönün munje öpssi tʰoŋirtörkosida]
(南朝鮮から米軍が出ていけば、朝鮮は問題なく統一するであろう)

語幹に～던들이というかたちがついている接続形もこの仮定的条件をあらわしています。

(例) 내가 그 때 조선 말을 열심히 공부했던들 오늘과 같이 이렇게 고생을 하지 않았을 것이다
[näga kü ttæ cosön marür yörsimi koŋbuhættöndür onürgwagachi irokʰe kosædür haji anassür kösida]

(私があのとき朝鮮語をねっしんにやっていたなら、今日のような苦勞をしていないであろう)

(例) 좀 더 심중하게 설계를 하고 전문가들의 의견을 들어 봤던들 이렇게는 되지 않았을 것이다
[com tö simjuðhage sörgyerür hago cönmungadürüi üigyönür türö pwa-ttöndür irökbenün tēji anassür kösida]

(もうすこし慎重に設計をして, 専門家たちの意見をきいてみたならこんなことにはなっていないであろう)

語幹に~지마는(~지만)がついてきた接続形

この接続形によって二つの動作の対立が表現されます。このかたちは日本語の接続助詞<が>にちかい意味をもっています。~지만というかたちは~지마는をみじかくしたものです。

(例) 나도 가 보았지만 대단히 재미 있었다。

[nado ka poatccimanün tædani cæmi issottta]

(僕も行って見たが, なかなかおもしろかった)

語幹に~건마는(~건만), ~런마는/~으런마는(~런만/~으런만)がついてきた接続形

このかたちも日本語の接続助詞<が>にちかい意味をもっています。~건만は~건마는を, ~런만は~런마는をみじかくしたかたちです。~건마는は~런마는とくらべると対立の関係をしめしているという点ではおなじですが~런마는の方は確信の度合がよくて推量の意味がかわっています。

~건마는(건만)のばあい

(例) 학교에는 가건만 공부를 하는지 무엇을 하는지 모르겠다。
[hakkkoenün kagönman koðburür

hanünji muösür hanünji morügettta]

(学校には行くが, 勉強をしているのか, なにをしているのかわからない)

(例) 합격은 되었건만 입학금이 없다。

[hapkkögün tøyokkkönman iphak-kümi öpfta]

(合格はできたが, 入学金が無い)

~런마는(런만)のばあい

(例) 그는 이미 집에 왔으런마는 어찌 전화에 나오지 않을가。

[künün imi cibe wassüryönmanün öccæ cönwae naoji anürkka]

(彼はすでに家に来て(かえて)いるはずだが, どうして電話に出ないのだろう)

(例) 하마 오런만 아직 보이지 않는다。

[hama oryönman ajik poiiji annünda]

(もう来そう(なもの)だが, まだみえない)

語幹に~거니와, ~려니와がついてきた接続形

この接続形も~지마는, ~건마는とおなじように二つの動作の対立の関係を表現しています。~거니와, ~려니와とのちがいは~건마는と~런마는とのちがいとおなじです。

(例) 그는 공부도 잘 하거니와 일도 잘 한다。

[künün koðbudo car hagöniwa irto car handa]

(彼は勉強もよくやるが, 仕事もよくやる)

(例) 지금 상태로는 도화는 못주려니와 방해도 할 필요가 없다。

[cigüm saðtæronün towanün mot-ccuryöniwa paðhædo har phiryoga

öpfta]

(今の状態では助けてはやれないが, 妨害もする必要がない)

語幹に~되がついてきた接続形
このかたちも~지마는, ~건마는, ~거니와, ~려니와とおなじように二つの動作の対立の関係を表現しています。

(例) 피리는 불되 출을 주지 않는다。

[phirinün purdë çhumür çjuji annünda]

(笛はふくが, おどりをおどらない)

(例) 비는 오되 바람은 안분다
[pinün odë paramün anpunda]

(雨はふるが, 風はふかない)

語幹に~나/~으나, ~나마/~으나마がついてきた接続形

このかたちも二つの動作の対立の関係をあらわして、~지마는, ~건마는~, 거니와, ~려니와とおなじような意味を表現します。対立の関係をあらわす接続形のうち, このかたちはもっとも多くつかわれるかたちです。

(例) 편지는 받았으나 답은 아직 안했다。

[phyönjinün padaßsüna tabün ajik anhættta]

(手紙は受けとったが, 返事はまだしていない)

さて, 以上で対立的な関係を表現する接続形にはつぎのようなかたちがあるということがわかりました。

~지마는(~지만)

~건마는(~건만)

~런마는(~런만)

~되

~거니와

~려니와

~나/~으나

~나마/~으나마

つぎに譲歩条件の接続形を説明します。~나의接続形をつかってつぎのようにかいたとしましょう。

(例) 밥은 먹었으나 배는 부르지 않았다。

[pabün mögössüna bænenün purüji anattta] (ごはんはたべたが, はらはいっぱいにならなかった)

この文では, まえにも説明しましたように, ~나의ついた接続形で二つの動作の対立が表現されていますが, 同時に条件がしめされています。しかしこのばあい条件といってもまえに説明した条件とはちよつと意味がちがっています。普通に条件といわれているものは他の動作の成立をたすけるのですが, ここでは他の動作の成立をたすけていません。こういう条件のことを譲歩条件といえます。したがって, まえの文の接続形~나는対立関係をしめすと同時に譲歩条件をもしめしていません。つぎのような文もおなじような意味をもっています。

(例) 공부는 열심히 하나 성적이 오르지 않는다。

[koðbunün yörsimi hana söðjögi orüji annünda]

(勉強はねっしんにするが, 成績があがらない)

語幹に~르지언정/~을지언정がついてきた接続形

このかたちは譲歩条件をあらわします。

(例) 눈이 오고 바람이 불지언정 학교에는 가야 되겠다。

[nuni ogo parami purc̄c̄ionjōŋ hak
kkyoenün kaya tēgetta]

(雪がふり風がふくが、学校にはいかなければならない)

(例) 기차는 떠났을지언정 다음
차로라도 가야 되겠다.

[kic̄hanün t̄tonass̄ürcc̄ionjōŋ taüm
charorado kaya tēgetta]

(汽車は出たが、つぎの車ででも行かなければならない)

語幹に〜ㄱ망정/〜을망정がついて
できた接続形

このかたちも〜을지언정とおなじよ
うに譲歩条件をあらわします。

(例) 지각이 될망정 조금이라도
빨리 가는 것이 좋다.

[cigagi t̄ermaŋjōŋ cogūmirado pparr;
kanün kösi cotha]

(遅刻になるがすこしでも早く行った
方が(行くことが)よい)

語幹に〜더라도 (〜드라도, ~드래
도) がついてできた接続形

さて、これまで説明した譲歩条件は
<現実にそうしたのだが……だった>

という意味なのですが、~더라도とい
う接続形は<かりにそうだとし

ても……である>という意味の譲歩条件をあら
わします。つまり、譲歩条件になる動

作を仮定しているのです。つぎの文を
みてください。~더라도のかたちでし

めされた動作は仮定的です。このばあ
い日本語では<たとえ……しても(とし

ても)> のようになります。~더라도
~드라도, ~드래도とのちがいは、意

味的なちがいはなく音声的なちがいで
す。

(例) 이 나무는 아무려 물을
주더라도 살아나지 않을 것이다.

[i namunün amuri murür cudōrado
saranaji anür kösida]

(この木はいくら水をやっても、いき
かえりはしないだろう)

語幹に〜ㄱ지라도/〜을지라도がつ
いてできた接続形

このかたちも~더라도とおなじよ
うに仮定的な譲歩条件をしめします。

(例) 너가 공장을 나갈지라도
생산고에는 직접적인 영향은 없을
것이다.

[nōga koŋiaŋür nagarc̄cirado sæŋ-
sangoenün cikc̄c̄öp yöŋhyaŋün öps̄s
ürkösida]

(君が工場をでたとしても生産高には
直接的な影響はないであろう)

語幹に~ㅁ들이がついてできた接続形

このかたちも~나, ~더라도, ~ㄱ
지라도とおなじようなものですが、~

ㅁ들의かたちをつかう場合には終止形
がたいといかけるかたちになります。

でもこのといかけはレトリック修
辭的ないまわしにすぎないのです。

(例) 그 나무는 물을 준들 살아
나겠느냐.

[kü namunün murür cundür sara
nagen nünya]

この文を文字どおり訳すれば、(その
木は水をやっていきかえるだろうか)

となるのですが、実際は(その木は水
をやっていきかえらないだろう)と
いうような意味なのです。(金礼坤)

編集部から

二年近くつづいた「国語講座」は、今月号
をもって終わらせていただきます。講座を
担当していただきました金礼坤先生と長ら
くご愛読くださいました読者のみなさんに
あつくお礼申し上げます。

ある日、姜トナムは急用があつて大阪へい
つたことをあとで知った。お父さんが急死し
たという。父の死水もとれなかつた姜トナム
のことを思うと、わたしの胸は痛む。
このようにわたしたちは夏休みをすごし
た。在日朝鮮青年の中には、祖国朝鮮に何の
関心もしめさない人もまだまだ多勢いるのだ
ということを知った。残念なことだが、事実
は事実として認めなければならぬ。しかし
これらには何んの罪もないのかも知れない。

いままで関心をしめさなかつた人も、今度の
活動の中で、朝鮮人としての自分を悟つた人
も多いのだから、むしろ問題は今後いかに
れるのかも知れない。やはりこれには個々人が
失なわれた歴史をとりもどし、朝鮮人になり
きるための努力にまつよりほかにないのかも
知れない。しかしそれ以上に、朝鮮人として
自覚をもつた人がその先頭に立って、まだお
のれの民族の歴史と文化を知らない人たちが
一人ひとり説きふせていかねばならないこと
はたしかだ。現にわたしは、あらゆる困難を
のりこえて働いている姜秀子トナムをこの目
でみた。わたしはこういう人がいるというこ
とを忘れまいと思う。日本全国には、多くの
姜秀子トナムがいるということも忘れまいと
思う。

わたしは、今度夏季工作隊としてわた
したちをたずねてきた朝高生の李トナム
や孫トナムに感謝します。
東京へ帰る汽車の中で(わたしは東京
の学校にいつている)も論じ合いました。
赤羽駅で別れた時、わたしの下宿に遊び
にくるようかれらにお願いしたのはいう
までもありません。
その後李、孫の両トナムは約束通り遊
びにきてくれた。その時もそうでしたが、
かれらは心から祖国を愛していました。
いままですっきりしていかなくなったものが、
これでもかもスカッとした心境です。
自分にも、やはりりつぱな祖国があつた
のだということを知りました。これから
のわたしは、朝鮮人としてりつぱに生き
て行こうと思ひます。
わたしの場合、あと半年で日本の学校
を卒業します。将来日本の大学(わたし
は工業大学の付属学校で学んでいますの
でそのまま進学できます)へ行つても、
祖国を思う気持ちに変わりありません。
何はともあれ、道が開かれた幸いです。
(工学院大学高等学校)